

昭和9年(1934年)設立

公益社団法人 昭和経済会

昭和経済

Manager Association of Japan

2016年の内外経済を展望する

ノーベル賞ラッシュ

首相の権力行使

アジアに広がる少子化

第67巻3号

28年3-2月号

国会図書館永久保存書

五十嵐敬喜

神里 達博

御厨 貴

大泉啓一郎



PARIS

パリ

人間社会は今日まで幾多の歴史的試練を経て、その存続を得てきました。

その間、私達は経済社会の生活の中で、自然科学への洞察は驚きを以て、文化科学への触発は閃きを以て發展に寄与してきました。科学技術の進歩と開発は人間の英知を以てこれに臨み、文化科学の啓発と振興は人間の情操を以て限りなく高めてゆかねばなりません。

歴史のいかなる發展過程においても、常に人間の尊厳をうたいあげ、自由と平和が約束される豊かな人間社会の存続が、私達の目的であり実践であります。

昭和経済会は、伝統を重んじ、時代の変化に機敏に対処しつつ、この普遍的な理念のもとに、日常の企業経営と經濟活動を通して、さらに公私經濟の發展と推進に役立つ啓発、協力、親睦の団体として、その使命を果たしてまいります。

公益社団法人 昭和経済会

公益社団法人

昭和経済会の案内

(元財務省大臣官房所管)

創立と趣旨

会員制の企業家、経営者団体で我が国の「公私經濟の發展助長と会員相互の連絡並びに親睦を図る」目的で、一九三四年(昭和九年)五月十五日創立され昭和十四年、大蔵省から社団法人の許可を受けました。

主な活動

- ① 会員相互の啓発、親睦、協力
- ② 内外の經濟、政治、文化、學術の定期講演会
- ③ 政府、関係省庁への要望と提言
- ④ 専門委員の法律、稅務、経営相談
- ⑤ 海外派遣留学生奨学基金の活用
- ⑥ 月刊「昭和経済」の発行

□□□□□□ 三月号・目次 □□□□□□□□□□□□□□

卷頭言 佐々木誠吾 (2)

講演会・講演記録

質疑応答 (55)

二〇一六年の内外経済を展望する

五十嵐敬喜 (18)

蘭子の心情 ランコ岩本 (67)

ノーベル賞ラッシュ

「ぬるま湯」時代の成果 神里 達博 (29)

講演会 その二 井浦 康之 (73)

首相の権力行使

御厨 貴 (33)

新春のご挨拶 佐々木誠吾 (81)

アジアに広がる少子化

大泉啓一郎 (37)

昭経俳壇 (83)

原発の安全

軽視し惨劇 滝 順一 (42)

後記隨想 佐々木誠吾 (87)

原発のゴミ

宙に浮く 川口 健史 (47)

(150)

わが回想記

堀江 忠男 (51)

二十四節気の大雪

今日は二十四節氣で云うと大雪（だいせつ）に当たる。寒さがかさんで大雪の日に確率上はなつて然るべきところ、それなのに全国的に暖かい陽気となつた。今年は世評も暖冬になるのではないかと云うが、これとてはつきりしたものではない。よく外れる天気予報ではないが、中長期予報も何となく覚束ないものがある。一日のうちでも時間帯によって寒暖の差があつたりして、それに十分に対応できない人が、風邪にかかりやすいという医者の忠告である。風邪は万病のもとと云う。普段から自分自身、健康管理に気を配っていることが大切である。一日のうちで寒暖の差が大きいと申したが、今日の夕刊を見ると時間差があるとはいえ、四日の日経新聞は「欧米格式が大幅下落」、「日経平均、一時、四百円

超下げ」と一面に大きく書かれてある。一方で五日の夕刊では「NY株大幅反発、三六九ドル高」と、全く反対の記事が乗せてあつた。一日違いの新聞の夕刊紙でありながら、報道する記事がこうも正反対で目まぐるしい連日のことも珍しいと思つた。さほどに見通しに狂いと期待と思惑の錯綜する世界なのである。たまたま日経の夕刊紙二日分の二枚がテーブルの上に置かれてあつたので、比較してみていた。夕刊紙を見間違えて記事の流れを以て解釈し、書く結果になつたかもしれないが。カニ色紙今日ほど思惑の錯綜した世界はないだろう。世界の有象無象の人々が、ともすると二十四時間中、しかも瞬時に映し出される株式の数字を巡つて狂奔している姿は、インターネット時代の典型的な場面かも知れない。実物経済を、もつと重視した世界観を以て世の中に臨むことが、個人的には大事な姿勢だと思うのである。

株式の乱高下

十二月三日の歐米株式相場が大幅に下落したのは事実である。原因は歐州中央銀行が打ち出した金融緩和策が、市場が期待するほどの積極性に欠けていたことを至上が失望して売りがかさんだためである。NYもこの日は歐州安につられて一・四ペーセントに当たる二五一ドル安で商いを終えていた。ところが四日のニューヨーク株式市場ではダウ工業株三〇種平均が前日比で三六九ドル高と大幅に反発したのである。この日の好材料となつたのは発表された十一月の雇用統計がアメリカ経済の順調な回復を示す結果となり、投資家の買い安心が広がつたためである。又悲観的な受け止め方だった欧州中央銀行のドライ総裁が金融の追加緩和を示唆したことがあつた。斯様にめまぐるしい昨今の世界株式事情の動向だが、なんといつてもアメリカ市場

の比重が大きく、世界は目下のところ、アメリカの景気回復が順調に軌道に乗つてくかどうか、固唾をのんで注目している様子が手に取るよう鮮明である。大学時代にケインズの経済学を勉強していた時、景気回復が達成され完全紅葉が達成されると景気下降に移行すると学んだことがあつた。つまり金利政策で、景気を持続的に保つために金利引き上げの政策に短観するシグナルだからである。その時期をどう見るか、又どのように解釈するかで、株式の先見性を發揮する株式は、先行き不透明に大きく動く可能性を含んでいる。このところ連邦準備局のイエレン議長の発言に一喜一憂の感じであるが、順調にいけばアメリカの年内利上げはほぼ確実な状況である。そのかじ取りの旨さを絶妙に發揮してもらいたいものである。

加えて日本も安倍政権が掲げる本格的なデフレ脱却を目指す政策、とりわけ第三の矢

の引き方次第だが、うまく的を射る形で進んでもらいたいと念願している。安倍政権の矢継ぎ早に打ち出される追加政策に、ようやく官僚諸君が自信を以て自分の才覚を發揮するチャンスが恵まれてきた感じである。今までは、ともすると物言えれば唇寒しで引き込み思案であった。揚げ足を取られることもあるて警戒し、無言が立身出世のための保身に構えて何もできなかつたが、これからは大いに発言主張し、正論を以て事に臨んでもらいたいものである。優秀な官僚諸君の自由で独創的な発想こそ、世界の道を進む日本経済の礎であり、力である。物言えれば唇寒し・で、一時は官僚諸君の意見が遠のいてしまつた感があつたが、揚げ足を取っていたのでは自由な発言を封じることになつてしまふ。反対意見があれば自由に反論して、活発な議論を繰り返すことが重要で、そうした過程を踏んで正論が生まれてくるというものである。試

行錯誤をくりかえすことも無駄とは云えず、貴重な科学的論拠となるからである。

経済について企業業績も順調に伸びて税収も上がり、順調な循環過程に乗つていければ占めたものである。目下のところは上場企業の試算を頼つて動向を目指すところでいるが、それが起爆剤となつて幅広く中小法企業に、更に中央から地方に裾野が広がつていく政策を強力に推進していくなければならない。地方活性化に取り組んでいる石破さんが頑張つて、その実力を以て進めていくが、今やらないとやれる人物がいなくなつてしまふだろう。思い切つて省庁の一つや二つの地方移転を進めてみてはどうだろうか。都市機能の地方移転が華々しく騒がれて、それをよりどころにして、起爆剤となつて、その方が活気を帶びたことがあつた。しかしそれは掛け声だけで空砲に終わつてしまつた。強力な実行内閣として政権を立ち上げている

安倍さんだが、多少のリスクを覚悟で政策には大胆な構想を以て臨んでもらいたいものである。

十二月七日

設備投資の復活と、

原油価格の急落の懸念

ところで内閣府が発表したところによると今年七月から九月にかけてのGDPの改定値が前期と比べて〇・三ペーセント増加した。このペースで行くと、一年間で一ペーセント増加する結果になる。景気後退が懸念されていても、緩やかな回復が続いていることが証明された。設備投資が伸びた結果で、経営者の見解に安堵感が湧いたところである。ここで景気回復への強力な足掛かりを掴むことが出来れば年末の絶好のタイミングとなるだろう。一方で気がかりなのは更なる原

油価格の下落である。こちらの方は底なしの気配で心配だが、一年十か月ぶりに一バレル三七ドル台の安値を記録したが、依然として供給過剰の状態から脱しえないのである。景気にマイナス作用を及ぼすことを憂慮する。新興国への景気減速を気にするが、其処はアメリカを初め日本も含めてしつかりとした景気回復過程を歩むことでカバーしていくものである。需給関係の改善を期待したいところだが、米国ではシェールガスを掘削する動きが急速に減少してきているようだし、原油価格も早晚反転してほしいと期待する向きが多くなってきている。

こうした折、日本はインドで新幹線建設の受注に成功したという朗報が飛び込んできた。日本の技術力と資本力を組み合わせた、政官民一体の努力の成果である。インド西部の最大都市のムンバイと、工業都市のアメダ

バードを結ぶ全長約五〇〇キロの区間である。事業費は約一兆八〇〇〇億円である。インドネシアでは中国との競り合いに惜敗した形で残念だったが、今回のインド訪問では安倍首相のトップセールスマントとしての売り込みも奏を効した形であり、産業界への大きな自信とインパクトを与える結果となる。ハード面、ソフト面を抱き合わせサービス部門もはじめ周辺機能を包括的に一体化しての受注である。広く産業分野に裾野を広げた領域に経済効果が劇的に及ぶことになる。懸命に活躍している安倍さんの、いわば一億総活躍時代の先頭に立っている感じだが、これがみんなの追い風になつて実現の道に邁進できればこんな素晴らしいことはない。何百人の民間企業の経済使節団を連れて、現地で経済交流を促進して民間企業の交流に懸命な姿を見るにつけ、力強く走つていく新幹線の勇姿を見る思いがするのである。

ふと思いつくことがあつた。我が昭和経済会でも、昭和五九年五月、改革開放の黎明期にあつた中国の北京に、四十二名からの経済使節団を編成して、北京の中国国際貿易促進委員会の大会堂で交流を行つたことを思い出した。三十一年以上も前のことである。田中角栄が北京に渡つた三年後のことと記憶している。小職が団長を務めて、大役を果たしてきたことを思い出し、懐かしさがこみあげてきた。当会の顧問をしていた安井謙参議院議長の親書を持参して、敬意を表したのである。約一時間半に及ぶ会談であつたが、中國側政府高官から、日本の企業と自國の国営企業との技術、資本提携の申し出を受け、互いに日中合弁企業を作り上げて行こうではないかとの申し出を受け、参加者一同驚くとともに、中国の積極的な開放政策に賛意を示した次第であつた。あのころの写真を見ながら中国側の歓迎ぶりに感激したが、その一枚

の会談の模様の写真が、昭和経済会のオフィスの壁に飾つてある。副団長を務めた寺島祥五郎氏が、団長を務める私の隣に座つている。寺島副団長がいらしたので、若輩の私は頼もしく受け止めていた。あの時の中国の人口は九億七〇〇〇万人であり、北京の空は限なく澄み切っていた。三〇年後の今日の人口の増加はざつと四億である。現在、中国の人口は十三億とも十四億ともいわれている。国内総生産は日本を抜いて世界第二位となつた。我々が北京を訪問してから三一年が経過する間に、中国経済はものすごい勢いで規模を伸ばしてきている。急速に発展したスピードは驚異的であり、無理がたたつてマイナス面も大きく出てきていることは至めない事実であり、仕方がないことでもあらう。日本も過去に於いて、そうしたジレンマに悩まされた時期があつた。因みに東京下町を流れる隅田川は、メタンガスで毒氣の高い悪臭を放つ

ていたし、近付くことも出来なかつた。そうした状況は全国的に見られて、環境汚染による健康被害は全国に蔓延したのである。水俣病や四日市喘息は典型的な事例だが、これを称して公害病と名付けてきたのである。そうした被害の悲惨な情景は、目を覆うものがあった。長い間の工場排水の規制やら、有害ガスの排出禁止やらで、次第に官民一体となっての浄化運動も功を上げて、今日のような魚の棲息を見るように浄化されたのである。日本全国、全土に渡る大気汚染の除去、河川の浄化運動によって、日本人の健康維持が保たれ、公害病の追放に多くの時間と資本が掛かつたのである。

経済大国を自認する中国にとつても、現在の中国々内の三大汚点と称すべきことと思つてゐることがある。その一つ、体面を汚しているのが貧富の格差が年々増大する傾向にあることだ。そして政界、官界に汚職が絶

えない。政府は躍起になつて綱紀肅正に乗り出しているが、場当たり的で目下のところ未だ焼け石に水である。その効果にはまだ相当の時間を要するであろう。それと看過できないのが、物凄い大気汚染の状況である。工場から排泄される化学物質の垂れ流しと、石炭火力燃料の使用で窒素酸化物の排煙による深刻な大気汚染である。両面からくる環境汚染と破壊は、国民の健康被害の問題として現実味を帯びてきている。水と空気の汚染は想像を絶して、富裕層が中国を脱出して外国に逃げる人民が多く政治問題にもなっている。

こうした状況下にあって、中国の中央政府はガス抜きの効果を狙つて、国民の関心事を専ら海外に置こうとしているきらいがある。これは現状認識をすり替えるもので間違つている。南沙諸島の浅瀬の埋め立て工事を一 方的に進め中国の領有権を主張して、関係諸国と争つて緊張状態を作り出していく。

こうした中国の覇権主義は皮肉にも帝国主義時代の亡靈であり、前時代的発想であることは言うまでもない。こうしたことばいざれも急速に膨張してきた中国の状況について、矛盾点がむき出しになつてきている事案であり、早晚、是正し改革、改善されていかなければならぬ課題であることは言うまでもない。いまや、国際社会は政治、思想、宗教の壁を越えて連帯化、連携化に進みつつある。国際貿易にしても、経済促進にしても、国際金融の安定にしても、対イスラムのテロ対策にしても、貧困撲滅と難民の増大防止の問題にしても、ましてや地球温暖化に対する取り組みについても、国際間の連携なくしては実現できないことが実際面でだんだんと理解されるようになり、そうした方向に世界の国々が協力してきており、実現の努力が実を結びつつあることは喜ばしき限りである。

三十二年前の中国訪問

経済使節団を組んで三十一年前に中国を訪問した時に、私は中国国際貿易促進委員会の北京大会堂でお互いが会談に臨んだ時にこうした発言をしたことであった。

「中国のみなさん、特に政策推進にたずさわっている政府高官に申しあげたいことは、経済発展に目覚ましい成果を上げつつある日本が、先進国として悩んでいることがある。て今おおきな政治問題化していることがあら。それは公害と、公害によつてもたらされた国民の健康被害である。公害とは、聞きなれない言葉かもしれないが、大企業の工場から排泄された多量の有害な化学物質の放出と、膨大な量の化石燃料の使用によつて大気汚染がもたらしている深刻な問題のことである。いわば産業の健康被害は人間の身体に治療不可能な病気をもたらし、多くの人が苦

しんでその犠牲になつてゐる。今や政官民が一体となつて、莫大な犠牲を払つてこの問題解決に躍起になつてゐる。その原因となつてゐる根源を断ち切ることである。それには経済発展に使つた資金以上の資金を要する結果になつてゐる。巨大な人口と資源を持つ中國の将来に発展は底知れないと期待するが、もともと経済社会制度の異なるくにのことであつて、我々から見れば未熟と思われる点が多く存在する國柄である。すべてが國家権力で決まっていく社会では、考え方が違つており、経済と経済活動の原理原則も異なつてゐるので、素直には受け入れられないことは致し方ない。経済の発展過程に惹起された公害問題を、並行して同時に解決しながら進めて行くことが望ましいと思つてゐる。日本が今経験しているこの難問題について、過去の過ちの轍を踏まないことが大切である。中国は、そうした面でも日本を参考に

してもらつたら、大きな教訓を得るに違ひない」と述べたことであつた。

あの時、一行は上海から蘇州に向けて列車に乗つたが、はるばると光輝いて広がる江南の地を、車窓から眺めて行つたのである。清澄な大地を吹きすぎる薰風をかぎながら、豊かな農村地帯の景色を心行くまで堪能していつたのである。中国の人の親しみ深く、欲のない穏やかな表情も魅力的だつた。蘇州の町なかを行く馬車にはカマスが高く積み上げられており、馬が堂々と、路上にくそを落として行つて何でもなかつた。人々はのんびりとして一日中遊んで休んでいるように見えた。のどかな光景であつた。昨今のテレビに映る中国の風景は三十一年前の印象とは全くかけ離れており、これと正反対の修羅場と映つたのである。バブル崩壊の傷跡が生々しく、ここぞとばかり派手に建てられた高層マンションの建物は廃墟と化し、寄る人もな

い暗然たる有様である。こうした光景が中国の都市はもとより、周辺郊外、遠くには農村地帯まで隨所に及んでいる。こうした状況が蘇生されるには多くの時間が必要かもしない。莫大な資金も必要だが、人々の心が生きて元に戻つてくるかが問題だ。もとより乱脈極まる産業政策の推進によつて、多くのマイナス面を引き起こして、矛盾した結果を齎していることの修復も、国家にとつて大変な浪費となることもあるう。

中国側は当時、反省の弁を含めて産業政策遂行に大きな誤りのあつた自国日本の考え方方に意外性を覚えたらしく、眞面目な表情で、眞剣に聞き入つていたように感じとつたのである。私は、三一年前の北京訪問を思い出しながら、現在の中国を考えていたのである。そしてあの時の忠告を受け入れて産業政策を遂行していくならば、今日のような猛烈な大気汚染に見舞われなくて済んだのではな

いかと、バランスのとれた経済発展を薦めながら産業公害に悩まされることはないかと思ったのである。そして又一方でよこしまなこともふと考えた。あの時から中国に滞在して技術と資本を投入し大々的に経済活動を行つていたら、今や巨万の富を手にして世界に君臨していたかも知れないと云う妄想。そして上海や香港に大きなビルを以て不動産王となつていたかも知れないと云う非現実的な期待。しかしそれどころではない、もしかすると我と云う存在は闇に消されていたかも知れないと、ぞつとするようないも持つたりしている。何しろ激しく変わついく中国の激浪に呑まれながら、何とも云いかねる運命をたどつていたかもしない。考えただけでも怖くなつてくるが、これはあくまで凡人のたわごとである。

今日も銀座通りを爆買していく中国人を見るつゝ、彼らは十三億の中から、もしかす

ると十四億の中から選ばれた限られた人であると痛感したのである。昨日の朝日新聞の夕刊紙を見ていたら、銀座通りを大型バスで乗り込んで、買い物をすます間、大通りは二十台からの大型バスが連日の如く駐車している写真が載つていた。先日の経済講演会の席上でも、地元の銀座に会社を持つ谷口ヨーポレーションの谷口会長が、銀座にあふれる中国観光客の景気の良さで、今の銀座は大いに活気づいているという報告をされていたが、まさに氣前の良い光景で、今の銀座は外国人による近来にない消費景気の沸騰で湧いている。そのために乗り付ける観光客のバスの駐車をことさらに取り上げて、これをとやかく言う人が居るらしいが、そのぐらい大目に見てやつたらどうだらうか。逆に通り抜けて行く日本のマイカーを規制してやるくらいの気持ちがあつていいかも知れない。前にも云つたかも知れないが、折角日本を訪れ

てきてくれた観光客である。温かい心でもて
なしてやるべきだということである。

とは言ひながら中国では巨万の富を築いていく人、一日の食事にありつけずに貧困の底にあえぐ人、余りの格差に嘆然たる思ひだが、十二億からの国民を引き連れて行く中央政府の努力は並大抵のものではない。爆發的な富の蓄積、アジア開発投資銀行の設立、中國元の国際基軸通貨への組み入れなど、経済大国として、片や世界経済の牽引役を果していく責務を考えると、その風格に追いつかない一面がみられるることは残念である。自由世界が注目する人権問題を初め、産業公害問題、軍備拡張主義で、逆に肝心の中国経済の足を引っ張っていることはいがめないだろう。

さえずりにめざめてみればにはのきのじく
あたたかきやまべのみちにねそべりてあし
たのくもにおもひたくさむ
しのかきにとりのかげかな

ばんとふのたびこそよけれやまさとにひと
のいきづくしじまありけり

ふるさとのやまかわをゆくわがたびのさき
にいこへるさとのありけり

いざゆかむさへづるとりのあとにつきたど
るやかたにせせらぎのおと

早い時期に軌道修正し、少なくとも人権問題や、南沙諸島問題などで緊張の度合いを高めず、率先して友好関係の樹立に努めてもらいたいものである。

十二月十二日

忙中の閑 和歌五首を詠む

アメリカのゼロ金利解除

金融政策の劇的転換と緩やかな解除

十六日に開かれた米連邦準備理事会で、FOMC（連邦公開市場委員会）が短期金利の誘導目標をゼロから〇・一二五ペーセント引き上げることを決定し十七日から実施すると発表した。リーマン危機を受けて二〇〇八年から異例のゼロ金利政策が続いてきたが、これを解除するには七年ぶりである。利上げに踏み切った理由は、アメリカの雇用統計が着実に改善されてきて、ほぼ完全雇用の状態にあること。それとアメリカ経済の回復が着実に続いていることがあげられる。

イエレン議長は利上げの決断について、「雇用と物価上昇率の二つの条件が満たされた結果である」と端的に説明した。そして今までの異例の金融政策をやめて、金利を上げ下げする正常な状態に戻す状態に来

たと判断した。イエレン氏の歯切れの良さに、十分な自信を持てた決断と見受けられたのである。そして今後の利上げペースには経済状況を見ながら徐々に、緩やかに進んでいくだろうとも述べた。世界経済は目下のところ、中国経済の減速が気になるし、欧州の経済も目下のところ低迷中であり、新興国の経済に至っては減速気味なところが顕著であるところ、アメリカが先陣を切つて過熱を抑制する金融政策に舵を切つたところに大きな意味があるだろう。その所を注意深く吟味する必要がある。

こうした発言を受けて、これに敏感な株式市場も織り込み済みとは云いながら、きわめて冷静な反応を示し、好感をもつて受け止められたことは理にかなつた結果として評価したいものである。今まで色々な観測が流れ金融界は一喜一憂を繰り返してきたが、ここではつきりとした政策の方向性が見えた

ことで、過度な思惑を排した正常な金融動向が、実物経済の生産と消費を通じて反映されいくものと観測されるのである。

もとより、資金の流れは大きく変わる可能性を秘めいる。アメリカを中心に、とりわけ新興国から還流されて、新興国の経済に打撃を与える懸念も浮上しているが、それに対応した各国の影響をこれから見極めて行く必要がある。しばらくは動きの荒い経済、金融市場の展開になるかもしれない。いずれにしてもアメリカの利上げ決定は新しい、劇的な展開を示したことで、アメリカの一挙手一投足を注目していかねばならないが、ここで力強いアメリカ経済に牽引されて、逐次落ち着いた流れに入していくものと楽観的考えを持つ企業家は進んでいくべきであろう。いずれにしろどこかで終止符を打たないと異常な金融状態に陥るリスクが高いので、そうなつてから急激に緩和ゼロから大幅に引き

上げても、内外経済に対する衝撃を吸引することはできなくなってしまう可能性の方が強いと思われる。目先の波乱は避けられないかもしれないが、原理原則を以ていずれ収斂していくものと期待される。イエレン議長の、今回の判断と長年続いてきたゼロ金利政策の金融緩和の止揚は賢明であり、適切であつたと思われる。勇気ある決断には違いないが、これに依つてイエレン議長の信頼性はますます高まつたと云える。十二月十七日

国債依存度

安倍さんが経済回復に懸命になつて、次第にその好影響が現れてきていることは喜ばしい。矢継ぎ早に政策が打ち出されている感じである。これは官僚諸君がやる気を起こしてきただ結果である。得てして日本には官僚たたきの風潮があつて、良いこともあるが、悪い結果を引き起こしていることもある。政権の運営は、官僚諸君の腕にかかるといつても過言ではない。優秀な官僚諸君の知能を十分に駆使していって、国民のために大いに働いてもらいたいものである。景気回復によつて企業の業績向上を背景に、税収の回復状況も好調に推移している。国の借金返済にこれが使われていく循環が、持続的になつていくことが、今や国家存立の必須条件となつてきている。とくに財政再建の問題を考えると、悠長なことを云つてもいられないが、我が国は国家予算がいまだどうしても年々増

加傾向を脱しきれないでいるが、国民の税金が国民のために真に有効に使われるよう、常に注意喚起してもらいたいものである。それが経済成長の基本であり、起爆剤となつて地方経済の活性化につながつていき、一億総活躍社会の実現となつていくのである。

夕刊一面の記事によると、二十六年度の予算案が閣議決定された。一般会計の歳出予算是九十六兆七千億余となり過去最高額を更新した。一方、税収額は二十五年ぶりの最高額の五十七兆六千億を見込んでいる。経済成長のおかげで法人税や所得税の伸びを期待してのことである。この結果、新規国債の発行額は三十四兆四千億となつて六・五%減ることになった。国債依存度三五・六パーセントにまで下がつてきた。二〇二〇年度までに、基礎的財政収支の均衡を図ること、つまり国の基礎収支の赤字ゼロを目指しているので、一段の努力が必要となつてている。バラン

スのとれた一億総活躍社会を目指す基本的な方向に、少しでも近づくことが大切である。
メリーカリスマス！

十二月二十四日

つて進むことになる。これは大変なことである。税収が増えて、この借金を返して無借金状態の健全財政を果すには夢のような感じである。

国債発行の問題

国民経済の再生とか、経済発展のために国債を出して行かざるを得なかつた日本の経済史を見る限り、やむを得なかつた政策には違ひないが、戦後の経済史に於いて赤字国債を発行するときには相当の論議を呼んだ記憶が残つている。ひとたび赤字国債を発行すると安易な経済政策に走つて行つてしまふのが歴史の教えるところである。日本はかくして国債発行残高はざつと一〇六二兆円と云う世界一の汚名を頂くことになつてゐる。前の述べた様に来年度の国の一般会計の歳出予算は九十六兆七千億であるところを見ると、なんとその二十倍もの額の借金を背負

GDPに対する債務残高の比率、即ち、国内総生産に対する国の借金の比率を見てみよう。日本は二三三%である。これと先進国とを比較してみてもアメリカの一〇〇%、イギリスの九七%をはるかに上回つてゐる。財政危機のギリシャより悪い始末である。安定した財政運営の維持こそ経済政策の根本問題となつてゐる。

難しい話になつて恐縮であるが、基本に戻つて勉強してみると財政法と云う国家基本法がある。それを考えてみよう。財政法第四条は「国の歳出は、公債又は借入金以外の歳入を以て、その財源としなければならない。」と規定しており、国債発行を原則として禁止している。つまり借金による国の運営

をしてはいけないと規定している。財政法第四条の但し書きは「公共事業費、出資金及び貸付金の財源については、国会の議決を経た金額の範囲内で、公債を発行し又は借入金をなすことができる」と規定しており、例外的に建設国債の発行を認めていた。回収可能な領域であり、建設国債だと明白に担保となる根拠があるが、景気刺激策、景気対策などの名目で国の歳出を考えたりすると、簡単に、際限なく借金をする体質と思想が身に着いていい結果を齎さないことは、国も個人も同じ理屈である。

戦前には國債発行は盛んに行われていたが、特に戦時体制では戦時國債が発行されて國威高揚に使われたことがあるが。戦

戦後いつの頃から赤字國債なるものが発行されたのであろうか。早い話、個人的問題に

とられた時、消費のための借金は自分自身にとってはその場限りで霧散するものであり、味方によつては欲望のためのばらまきであり、回収不能のものである。借金の内容によるが、将来必ず返せるというも、回収できるというものでない限りマイナスの積み重ねとなつて國も個人も同じことで借金に押しつぶされてしまうことになる。國債発行は、國の歳入不足をまかなうための財政調達であるゆえ、國の予算是税収で賄っていくということが基本であることを忘れずに、そして歳出を上回る税収を上げて行く健全な、ダイナミックな成長戦略を図つていかなければならぬことは言うまでもない。

定例講演会

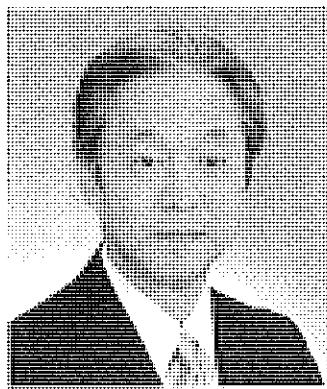
於・三笠会館本店

一〇一六年の内外経済を展望する

三菱UFJ

リサーチ&コンサルティング株式会社

研究理事 五十嵐 敬喜



○司会 定刻になりましたので、ただいまより昭和経済会・定期講演会を開催したいと存じます。常日頃、お忙しい中、かくも多数の方々に御出席いただきまして、まことにありがとうございました。

本日は三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社・研究理事の五十嵐敬喜先生に、昨年に引き続きまして第二弾の新年度の経済展望のお話を拝聴したいと思いますので、よろしくお願いいたします。講演に先立ちまして佐々木理事長より一言御挨拶をお願いいたします。

○佐々木氏 昭和経済会の佐々木です。皆さん、こんばんは。日常お仕事でお忙しいさなか、各位におかれましては、お元気に今日の講演会にお集まりいただき誠にありがとうございます。久しぶりに小春日和に恵まれました。昨今、周囲を見回しても冬枯れの景色です。ようやくちらほらと早咲きの梅が咲きはじめたようで

す。手前どもの庭の柿の木に一つだけ実がなつております。木守柿と申すもので、俳句では冬の季語に入つております。たくさんたわわに実つた後、小鳥がつついたり、あるいは人間が収穫したり、その後、熟して落ちてしまう。その木にただ一つだけ残つているのです。これは不思議な現象ですね。一つだけ、それでいて、それをねらつた鳥が一匹も来ないのです。これは不思議なものです。きのうはちょうどいい月が出ていましたので、月の明かりを頼りに、柿の実の所在を確かめに行きました。きょうも柿の実は達者で、無事でいました。厳肅として枝に残つておりました。愛おしさを越して、靈気みたいなものを感じました。木守柿は縁起がいいということで、地方によつてはこの柿を大事にくるんだりしておくそうです。つまり木守りと称して、その家を守るというあかしだそうです。これは、春から草々縁起がいいなど感じながら、皆さんの幸多かれと祈つた次第です。

今日は五十嵐先生に再び御登場いただきました。昨年に引き続き大変含蓄のある、見通しのすばらしい、時節柄、厳しい見方をされて敬服いたしておつたところであります。そのとおりに一年が過ぎようとしております。それで頂いたレジメを拝見して、景気の回復は極めて緩やかであるというコメントが出されております。これで安心しましたが、その後、かつ長続きしないと云う見出しがあります。「こうなると、これは大変かなと思つたりしました。快調に進んできたアベノミクスも途中で失速しかねないのではないかという危惧の念もいたしかねません。そこで何とかこれを持続的な発展過程に導いてもらいたいというのが我々の念願であります。内外情勢の厳しいこの頃です。経済だけでなく地球温暖化対策、特にテロ騒ぎで驚く世界でありますが、こういった不穏な形勢がないように日本も重々気をつけて臨まなければいけないと思つております。

今日はそういうたゞ々のことなども含めまして、五十嵐先生に自由奔放な御意見を賜りました。私は、この意見を聞いて、とてもうれしく思つてあります。五十嵐先生、よろしくお願いいたします。

* * * *

○ 五十嵐氏

皆さん、こんばんは。御紹介いただきました五十嵐でございます。少し風邪を引いておりまして、大変お聞き苦しいかと思ひますけど、御容赦いただきたいと思ひます。

この伝統ある講演会に、去年に続いて呼んでいただきます。去年私

は執行役員調査本部長という肩書で参上しましたが、ことしは研究理事ということで参りました。この間NHKで「クローズアップ現代」を見ていましたら、非正規の雇用が四割を超えたというのですが、私もついにその中に入った

などという感じでございます。あと二年、主として今のような仕事をしながら、残りを頑張つていきたいと思つております。

今日は一時間ほど時間を頂戴しました。日本経済の先行きと、それを取り巻く世界経済の中でも、みんながすぐ気にしている二つのことについてお話をしたいと思います。

一つとは言うまでもなく、アメリカと中国です。アメリカでは金融政策が転換されつつあるということだし、中国は景気が大いに減速しているということです。この二つがそれぞれの国だけではなく、世界経済に大きな問題をもたらしているということで、その話をしてまいりたいと思います。

お手元の資料で、最初のグラフですが、毎年の経済成長率を示しています。中ほど二〇一四年、昨年を見ていきますと、およそマイナス一%、去年は景気が後退した年だつたということです。今年はどうかといいますと、二〇一

五年度はまだ終わっていないせんので予測ですが、ちょっと一%に届かない、〇・八%ぐらいです。プラス成長には違いないけど、大したことはない形です。

棒グラフで示していますのが、これも成長率が一体何がどれぐらいきて、寄与して、そういう成長になったのかということです。昨年、景気が後退してしまったのは個人消費の動向です。個人消費が、経済を一%ぐらいマイナスに引っ張ってしまった。だから、ほかが頑張つても全体でマイナス一%ぐらいのマイナス成長になってしまったと云うことです。マイナス二%ぐらい足を引っ張った消費が、ことしはあんまり大きくなはないけど、プラスに寄与しているということがことしの成長率を一応プラスに持ち上げてくれる理由だということです。

去年と今年と何が違うのかということですけど、一言で言うと物価です。去年は物価が上がつて、ことしは上がらないと。去年の物価は、

消費税がまさに一四年度の最初から三%消費税が上がつたので、そのことで物価が二%上がりました。それ以外の理由でも一%ほど上がつて合計しますと、三%ぐらいっていうのが去年の物価上昇だと。給料はどうであつたかというと、久しぶりに上がりました。安倍さんが経済界に働きかけてぜひ給料を上げてほしいと、こういうことを言って、大手中心にベアも含めて給料の引き上げがあつたわけですが、世の中にどれぐらい給料が総額として支払われるのかどういふのは二つの要素で決まつていてるわけです。一つは、一人当たりどれぐらいもらうのかということ。もう一つは、もらう人がどれぐらいふえるのかということです。この一人当たりの金額の増加率と、働いている人の数の増加率を合わせたものが、世の中全体に支払われる給料の増加率になります。これが去年は一・七%ぐらいふえたましたが、物価が二%上がつたということは、差し引きマイナス一・三%ぐらい、実質

的には収入が減つてしまつたと、こういうことで、結局消費が減つて、そして景気も後退したということです。

今年は逆に物価は上がらない年であります。そして給料はというと去年に續いて上がつたのですが、ただ、人のふえ方が去年ほどではないので、結果として一%ぐらいです、給料が去年に比べてふえたかなと。ところが、物価は全く上がりませんので、ふえた分はそのまま消費に回せると、こういうことで今年は若干消費があふえた。ただし一%ぐらい、実質的にも收入があふえているけれども、全部使いますかいうと、ちよつとその余裕はないのです。というのは、十数年にわたつて給料がずつと下がり続けてきたわけで、ようやく去年は給料があふえたのですが、物価が去年三%上がつたわけで、毎月二十万円で暮らしている家計を考えると、物価が三%上がるとき、同じ消費生活を維持するためには、三%ですから、六千円余計にかかるわけ

す。同じ生活を続けようと思つたら二十万六千円、家計費が必要になります。それだけ使えば同じ生活ができるわけですね。でも一方で、二十万円の予算というのは、もうこれ以上ふやしようがないのだと、給料はふえていないし、ローンの返済もあるし、二十万円はもう絶対なのだと言つてる人たちにとっては、あと六千円出せば同じ生活ができるつていつても、その六千円がひねり出せないのだったらどうするか。物価が上がつた後も二十万円の家計費におさまるよう、買う量を減らすしかないわけですね。日本の家計を考えた時、どつちだつたのですかというと、消費が減つて景気が悪くなつた以上は、そうやつて予算制約がきついという家計が多かつたということです。日本の家計は、今やもう余裕がありません。物価が上がつたら消費を減らざるを得ないような、そんな状況になつています。

余裕つていうのは収入のうち使わないで残

せる部分のことを余裕といつてています。これは貯蓄とか、その貯蓄の割合を貯蓄率といいます。が、日本の家計の貯蓄率は何%ぐらいでしようか。例えばアメリカ人に比べると、アメリカ人は宵越しのお金など持たないと言わわれている人たちですね。それに比べると日本人は儉約志向が強くて、貯蓄率が10%はあるだろうというのが常識かと思いますが、今の日本の家計の貯蓄率はゼロです、正確に言うとマイナスということです、これは宵越しの金を持たなくなるような、そんな生活をしているというのではなくて、貯蓄する余裕が生まれてこなくなつたということですね。逆にアメリカの家計は5%以上貯蓄していると、これぐらいの大きな差が今や出ているのです。

そういう中で、とし給料が一応1%ぐらいふえて、幸か不幸か物価が全く上がっていないということですが、少しばこの消費をふやせるのだけど、でも今まで貯蓄をずっと取り崩してきた

から、それの穴埋めのために貯蓄もしないといけない。だから、あんまり消費に回せないといつて、この程度の成長にとどまるといふ感覚だと思います。

これはちょっと皮肉っぽいのですが、安倍さんも黒田さんも、デフレを克服するということがすごく重要だとおっしゃつてきました。デフレとは何かと云つたら、物価がずっと下がり続けることをデフレというのですね。克服するというのはインフレにするということですね。物価を上げるってことです。でも私が今、申し上げたのは、とし物価が全く上がらないからプラス成長になるということです。黒田日銀総裁は、もともとは今、「ころは、もうとうくん」1%の物価上昇が達成されていたはずなのですが、それがちよつと難しくなつて、来年の後半ぐらいにはといつてます。ですから、来年の今、「ころには2%の物価上昇が達成されるとおっしゃつてますが、私はできないと思います。逆

に言うと、もし黒田さんが言うように、来年の今、ころ消費者物価が1%上がつていたら来年は景気後退です。そんなに給料はふえない。給料がふえる以上に、物価が上がつたら去年の二の舞です。また不況になつてしまふと、来年もそんなに物価は上がらない。だからこそ、来年も何とか景気はプラスを維持するということではないかと、こんなふうに思つております。日本を取り巻く世界の二つの気になることですが、一つがアメリカです。グラフの赤い線はアメリカの株価です。ニューヨークダウですが、二〇〇八年からの毎月の数字をずっとグラフに、二〇〇八年の一万三千ドルぐらいが数ヶ月のうちに暴落しまして六千ドル台に下がっています、でも二〇〇九年の初めに底を打つてその後はずつと上昇してきて、ことし一万八千ドルまで上がりました。六千ドル台から一万八千ドルまで、六年かけて上がつてきたわけです。このように株価が上がつてきた背景にあります

すのが、景気の回復です。景気が六年かけてずっと、少しずつですが、着実によくなつてきました。ということが株価の上昇につながつています。

同時に、このグラフはアメリカでいわゆる量的金融緩和が行われた時期を示しています。量的緩和というものは金融緩和政策の一環なのです。そもそも金融緩和政策とは何かといふと、景気が悪いときにとられる金融政策です。何をするのか、目的は何といふと、お金を借りやすくする政策のことを金融緩和政策といいます。お金を探りやすくなると何で景気がよくなるのかつていうと、お金を借りる人の立場でいえば、何で借りるのですかと、返さないといけないのですよ、金利も取られるのですよ、何で借りるのでですか。それは今、必要だからですね。後でいいのなら自分で金をためて使えばいいわけで、返す約束をして、金利を払つて今まで借りるのは今必要だからということで、借りた金は必ず使われると。使われるということは、

そのお金が誰かの懷に入るし、そのお金も使われると考えれば、お金が回るということです。お金が回れば景気がよくなるだろうと、こういふ考え方のもとに、お金を借りやすくする政策のことを金融緩和政策というのです。何をするか、もちろん金利を下げるわけです。金利を下げて借りやすくする、これが金融緩和政策なのですね。

実は二〇〇八年から九年に株価がこんなに暴落したのは、景気が一気に悪くなつたからです。それは例のリーマン・ショックのせいだつたのです。リーマン・ショックで景気が一気に悪くなつて、とんでもない不況が來たのです。アメリカも金融緩和政策をとりました。もちろん金利を下げました。でも、とこどん下げるゼロまで下げる、まだきかなかつたと。こんなことは初めてだというのです。でも足りないのだったらもうしようがないので、今度はQE政策という、お金を直接マーケットに供給すると

いう量的金融緩和政策もやつてみようとしたのです。これは初めてです。アメリカが初めて取り組んだ量的金融緩和政策なので、マーケットに大量のお金を供給しました。例えばこの三回目のときは、毎月毎月八百五十億ドル、マーケットに供給する。八百五十億ドルといえば十兆円ぐらいのお金です。毎月十兆円のお金を供給したら、一年もしたら軽く百兆円を超えるわけです。そのお金がマーケットに供給されるわけですね。マーケットはもうお金でじやぶじやぶだと、あふれ返つていると、足の踏み場もないという状況です。この過剰流動性が儲かりそうなところを求めていきます。それが株式市場だつたらそこへ行つて株価を上げるだらうし、新興国の市場だつたら新興国に行つて、そこで新興国の相場を持ち上げると、こんなイメージができ上がるわけです。でもこれはうそでして、中央銀行がマーケットにお金を供給する、まるで輪轡機を回して、ドル札をいっぱい刷つ

て金融市場にばらまくと云つても、金融市場つてどこなんだ、金融市場という建物の中へ行つたら足の踏み場もないぐらいドル札があふれているのか、それは誰のものなのだと、誰でもつかみ取りしていいのか、そう思いますでしょう。そんなことはあり得ないわけですよ。

何が起つているかというと、実はF.R.B.という、日本でいう日銀ですが、中央銀行が、銀行から国債だとか債券とかを買うわけです。買つて当然その代金を払うわけですが、この代金はどうやって払うかというと、銀行がF.R.B.に当座預金を預けています。F.R.B.は銀行から預金を預かっているのです。この口座に代金を振り込みます。債券を買つては代金を振り込むということをやるわけです。これが毎月十兆円を超えるような金額、一年も続けたら百何十兆円という購入金額になります。銀行がF.R.B.に預けている当座預金残高が、どんどん膨らんでいきます。これがQ.E.政策なのです。

銀行は、そういう預けている当座預金残高があえてうれしいのですかというと、そんなことはないわけです。国債とか債券を持つていてはいけで、これを売却して、かわりに当座預金をもつてあるわけですね。ということは、銀行の資産が、債券から当座預金に変わつていてだけです。資産があえるわけではない、資産の中身が変わつていてだけだということです。では資産の利回りはどうかというと、債券を持つていたら何%までは利回りが得られるわけです。当座預金は金利がゼロです。ということは、銀行の資産の利回りが、どんどん下がっていくわけです。何でそんなばかなことするのですかといふと、中央銀行の考え方は、銀行がそんな状況を放置しないでしようと。利回りもつかないような、そんな当座預金をしておかないと、ちょっととこの資産をましな資産に変えようとするだろうと。それは何だといえば、貸し出します。銀行がこの当座預金、口座にたまつたお

金を貸し出しに回せば貸出金利は入ってくるわけです。そうしたら、それなりの利回りが得られるだろうと。ということで、これは貸し出しを促す政策なわけです、QE政策というのには、金利を下げる政策というのは、借りるほうにそこの気にさせる政策です。ところが、金利をゼロまで下げても一向に借りる気になってくれなかつたと。しようがないので、今度は銀行に貸させたい、銀行が貸したくなるような政策をとろうと、こういうことをやつたわけです。だから、この両方をやつたということです。

でも新聞には何と書いてあるかっていうと、中央銀行が大量のお金を金融市場に供給するので、過剰流動性状態だと、過剰流動性があふれ返っているというのです。お金がいろんなところへ行くというわけです。金融市場に投資家がいますけど、投資家は自分のお金、あるいは人から預かったお金、さあ、どこに運用したらもうかるか、いつも考えているわけです。その

ときにあふれ返ったお金が、例えば新興国に行つて、そこで相場を上げるというようなことをみんなが信じるようになつたら、本当に相場が上がるかもしれない。そう思うのだつたら先に、先回りして新興国に投資しとけばもうかるかもしれないわけですね。だから、このストーリーができ上がつたら、つまり過剰流動性が新興国に流れ出していくというストーリーを多くの人が信じると思うのだつたら、個々の投資家はもう自分が率先して新興国に先に投資しておこうと。そうしたら、もうもうけのチャンスが出てくる。そういう投資家があれば、本当に新興国の相場が上がる。新興国の相場が上がつたら、新聞には過剰流動性が新興国に流れ出て相場を上げた、こういうことになるわけですよ。実際そうやって新興国で相場が上がりました。お金の供給ではアメリカのF.R.B.だというんですけど、本当のところはそうじやなくて、世界中の投資家がさて、どこに投資すればいいか

ということを考え、新興国がいいと判断して、新興国に投資したわけですね。でもいずれにしろ、こうやってアメリカですさまじい金融緩和が行われていることが新興国の相場を押し上げているという図式はでき上がっていったわけです。

今、アメリカは「らんのよう」に、一万八千ドルまで株価が戻つてきました。景気も六年回復を続けてきている。しつかりしてきた。いつもこんな異常な金融緩和政策を続けたくないと思い出しているわけです。異常な政策が二つあるということです。一つは、金利をゼロまで下げた。普通はゼロまで下げる前に効くのです。でもゼロまで下げた。これが異常の一つです。もう一つは、マーケットに直接お金を供給するというのは、今までやつたこともないような量的緩和政策をやつていていうことです。この二つを、もうやめたいと。去年ですね、去年の秋にこの二つ目のQE政策やめたので

す。でもいきなりやめるわけにいかないので、いきなりやめたらマーケットが崩れるかもしれないのに、一年ぐらいかけてゆっくりやめると言ったわけです。それから、もう供給したお金をもどへ戻すとか、吸い上げるとか、そんなこと一切しないと。供給したものはそのまま、ただ新たに供給するのを毎月毎月十兆と言っていたのを、九兆、八兆、七兆と減らしていく。最後に、一年ほどかけて最後にゼロまで減らすと。こういうふうに徐々にやるのだとしたら、「らんのよう」に、QE3が終わつた後もグラフの赤い線が上がっていますね、だから、マーケットが納得したわけです。ことは、しかし今度はゼロまで下げた金利を上げるよと、去年から言つているわけです。

(続く)

ノーベル賞ラッシュ

「ぬるま湯」時代の成果

千葉大学教授

神里 達博



今年の秋も「ノーベル賞」の号外が出た。受賞者の皆様には、重ねてお祝い申し上げたい。それでも日本からの受賞者が多い。考え方によつて国別の人數は変わつてくるのだが、21世紀に入つてからの日本は、少なくとも米、英に次ぐ世界第3位の受賞者数を誇る。特に最近は、毎年のように受賞者が出ていることもあり、かつてのような「ノーベル賞フィーバー」といった状況は目立たなくなつた。だがそれでも、祝賀ムードがそこかしこに溢れる。

歴代の受賞者リストを見ると、米国が圧倒的に多いこと、そして欧米以外の受賞者がいまだに少数派であることが分かる。その中にあって、特に自然科学分野での日本の健闘は、目覚ましいものがある。あまり明るいニュースのない昨今、「日本も捨てたもんじゃない」と思える数少ない機会なのかもしれない。

もつとも、元々ノーベル賞には、ナショナリズムを乗り越える」とへの期待が込められていた。

周知の通り、ダイナマイトの発明によつて巨万の富を築いたアルフレッド・ノーベルの遺言によつて創設されたのがこの賞だが、彼は「審査にあつては国籍を一切考慮してはならない」と書き残しているからだ。

同時に、ノーベル賞が非常に権威ある賞であることは間違いないものの、一定の評価基準による、ある種の「指標」に過ぎないといふことも忘れるべきではない。とりわけ、この賞が示すのは「過去の成果」であることには注意を要するだろう。

* * *

2012年にiPS細胞の開発で医学生理学賞を受賞した山中伸弥教授の場合、研究の成功からわずか数年で受賞に至つているが、これはノーベル賞の歴史の中でも例外的である。たとえば、今年の物理学賞に輝いた「ニュートリノの質量の発見」は20年近く前の研究成果であるし、08年

に物理学賞を受賞した「小林・益川理論」は、発表から三十数年の時を経ての快挙であつた。故・南部陽一郎博士のように、受賞までにほぼ半世紀を費やしたケースもある。ノーベル賞は存命中にしか受賞できないルールがあるため、過去には、偉大な業績を残しながらも先に命が尽きてしまい、受賞を逃したとされる研究者も少なくない。「相対性原理」で有名なアルバート・アインシュタインも、1921年の物理学賞受賞の理由は「光電効果の法則の発見」であった。ノーベル賞の審査員たちは、少なくともその時点では、相対論を真に価値ある発見だと結論づけるには至らなかつた、ということである。

このようにノーベル賞は、しばしば受賞までに非常に長い時間がかかるため、最近の日本の「ノーベル賞ラッシュ」は、おおむね20年から40年前のありようが反映していると考えるべきだろう。では、その頃はどんな時代だったのか。当時の資料を見てみると、必ずしも研究環境が良かつ

たわけではない」ことが分かる。大学施設の老朽化や、基礎研究を支える基盤が不足していることが叫ばれていたし、「理科離れが深刻」などとも報じられた。また学生は創造性が足りない、それは共通一次に象徴される、画一的な戦後教育の結果なのだ、などともよく言われた。

一方で研究者が「説明責任」を求められる機会は少なかつた。研究費が潤沢だつたわけではないが、申請に必要な書類も多くはなかつたし、年単位で小刻みに結果を求められることも、まずなかつた。ある意味で、大学や研究の世界は牧歌的であつたのだろう。もし「選択と集中」を主張する人たちがタイムマシンに乗つて、その頃の研究者たちに会いに行つたならば、あまりの「ぬるま湯ぶり」に卒倒するかもしれない。

しかし紛れもなく、そのような時代に生まれた研究成果が、現在のノーベル賞につながつてゐる。繰り返しになるが、ノーベル賞も一つのモノサシに過ぎない。研究や学問、教育の世界を測る基

準は多様だ。加えて、当時と今では社会経済的な条件が全く異なる。グローバル化、高齢化、財政の悪化。私たちは、昭和の右肩上がりの時代と同じことを続けるわけにはいかない。

だからといって、当然ながら、何でも「改革」すれば良くなるわけではない。とりわけ研究や教育には時間がかかる。今、仕組みを変えて、その結果が出るのは何十年も先だ。時間のスケールが、「選挙」や「株主総会」とはあるで違うのだ。もし「改革」したとしても、何十年もの間それに気づかぬだろうし、気づいた時にはもう手遅れだろう。

* * * *

世が「改革」に染まって何年が経つだろうか。平成に入つてからというもの、この「社会運動」がずっと継続しているようにも思う。しかしそれによつて我々の社会は良くなつたといえるのだろう

うか。人間は、不安になると無駄な動きをするようになる。貧乏搖すりをしたり、あちこち歩き回つたり。山で遭難した時などは、それは命取りになる。問題の根本原因が分からぬまま、「とりあえず改革」を繰り返す」とも、かなりのリスクをはらむのだ。

少なくとも研究や教育のスタイルは、もし変えるにしても、少しずつ慎重に改めるべきではないか。この世は結局、人材次第である。人を育てるにはゆつたりと構えることが大切だし、真に価値あるものを生み出すには、じっくり考える時間が必要だ。これを「贅沢」と言って切り捨てるのは簡単だ。だがそれは、将来のノーベル賞はもちらんのこと、私たちの未来そのものを切り捨ててしまう」とともなりかねない。

かみさとたつひろ 1967年生まれ。千葉大学教授。朝日新聞社本社客員論説委員。専門は科学史、科学技術社会論。著書に「文明探偵の冒険」

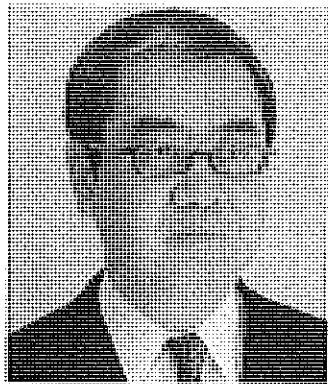
神里達博

首相の権力行使

2度の経験　『安倍流』生む
「少数派」意識 ゆえの強さ

東京大学名誉教授

御厨 貴



権力の使い方というのは古くて新しい統治の課題である。安倍首相は首相の権力を可能な限り目いっぱい行使することを良しとしている。そうは明言しないが。

権力の効率的かつ効果的な発動を首相が出来るようになつたのには、いくつかの理由が考えられる。その第一は、自民党結党以来60年の中で初めてのカムバック総裁であり首相であること由来する。

2度の首相経験者は安倍首相以外にいないという事実が、首相官邸を、そして公邸をもわがモノとして、自在に駆使することを可能にしているのだ。切羽つまることなく余裕ある態度で、セカンドオピニオンにも耳を傾けながら、自らの判断を下す雰囲気が醸成されていく。

かつてやはり首相へのカムバックをひそかに願いながらついに果たせなかつた、首相の祖父たる岸信介元首相は、次のような名言を吐いている。「本当は、総理をやつて、しばらく野に下つて、

今度は権力者としてではなく国民の側に立つて

ものを観察し、いろいろ思いを巡らしてこれを前の経験と結び合わせてもう一度總理をやつた政治家は、前より大いに偉くなる」

安倍首相のカムバックを見る時、実に言い得て妙ではないか。

そもそも安倍首相は、小泉官邸にあつて小泉純一郎首相の権力の采配ぶりをつぶさに見て来た経験を有する。小泉元首相は首相の権力を最大限に利用した。国会よりは国民の直接指示に手応えを感じた小泉氏は、あたかも「首相公選」で選ばれたかのように振る舞い、メディアと世論と結託した。「自民党をぶつ壊す」と述べて、それまで自民党主流であつた田中一竹下一橋本と連なるパイの拡大と分配を主とする利益誘導型政治にメスを入れた。そして自民党内の政治作法を変え、彼らの勢力を削ぐために道路や郵政の民営化を推進し、とどめは郵政解散になる。かくて首相権限の極大化を図ることに小泉氏はみごとに成

功した。

それを官房長官など側近として官邸内で見ていたにもかかわらず、安倍首相は直後の第1次政権では政治的未熟さを露呈して、小泉氏のような強い首相ぶりを發揮することなく、1年での退陣を余儀なくされた。

そこで、安倍首相は第2次政権にカムバックするまでの5年間の生活を通じて、『小泉流』からさらに『安倍流』への脱皮を図った。その一つが世論調査の使い方である。

かつては、首相への支持率＝政権への支持率＝政策への支持率と三位一体であり、それがゆえに世論調査の結果に政治家が一喜一憂することも少なかつた。

だがこれまた小泉政権から変わる。小泉首相への支持率は高かつたが、経済政策など個々の政策への支持はさほど高くはなかつた。それでも政権はもつた。しかも民営化にせよ郵政解散にせよ個別の争点について支持率が高かつたのは、小泉首

相個人への好感度の高さゆえであった。すなわち三位一体は時と場合によって変化し、世論調査はダイナミックな変わり方を示すようになったのである。

安倍首相はこの変容を次第に理解し、第2次政権の過程で自らの権力行使のバックボーンにしていったのではないか。そもそも安倍首相は、第1次政権以来、小泉元首相のような首相個人のメディアへのパフォーマンスで国民の支持を獲得するタイプではないことを自覚している。

事実、安倍首相個人の好感度はさほど高くない。安倍政権支持の理由では、常に約40%が（時に50%に達する時もあるが）、「安倍政権は民主党政権よりよい」との理由を選び、それがトップを占めるのだ。安倍政権3年をへて、今やこれは「構造的」とさえ言いう。安倍首相は、こうした国民の評価が続いていることに着目し、これを政権運営の基軸にしているのではないか。

そもそも首相は、自らの政治信条とイデオロギ

ー的政策が、国民はおろか党内でさえ、マイノリティーであると思つてゐる。その点で、『小泉流』を模倣することは到底できない。マイノリティーの意識を持ち、「前政権よりよい」との評価を前提にすれば、そこに「安倍流」が見えてくる。内閣法制局長官を始めとする一連の人事権の行使はその典型である。そこでは、マイノリティーから来る強さを首相は逆説的に体現してゐる。

しかも「前政権」の失敗の本質を見極めれば、よりよい方途が見えてくる。話し合ひが決められない。党内民主主義で意見の統一ははかられず対立が激化する。あげくの果てに党は分裂し総選挙で大敗を喫する。これが「前政権」のあられもない姿だった。

民主党政権と違う選択肢は、必然的にこうなる。話し合うよりは決めることが大事。党内民主主義をはびこらせず対立を生ぜしめない。だから党は結束し総選挙で大勝をおさめる。3回の国政選挙で大勝したことが、それを鮮やかに証明している。

「特定秘密保護法」で一度は下げた内閣支持率は、すぐに回復し、「靖国参拝」では支持率は下がらない。ここから「集団的自衛権」「安保法制」へと一挙に進んでいった。

国会審議の過程では終始「政権の説明は十分でなく早急な採決は避けるべし」という意見が強かつたものの、支持率は40%であり続けた。しかも安保法制成立をへた内閣改造で、支持率は50%に回復するという案配だ。

かくて多くの国民も「前政権よりはまし」とみて現政権を支持し続けている。カムバックゆえに、マイノリティーゆえに、安倍首相は権力のらせん状的行使を確立しつつある。首相への評価は、今や首相の取り得る政策の幅をかえつて広げているのだ。

では、結党60年を迎えた自民党は、今後とも“安倍流”に染まっていくのだろうか。
確かに“小泉流”“安倍流”で、自民党の利益誘導政治からの転換は図られつつある。しかし

“安倍流”的イデオロギー政治は、マイノリティーからの転換にまでは行き着かないだろう。首相は他の多くの実務的施策と共に、イデオロギー的施策も“サラダボール”に一斉に放り込み、時と場合によつて取り出す工夫を続けるだろう。

時折聞こえてくるのは、利益誘導政治の象徴だった田中角栄元首相を懷かしむ声だ。“田中流”が自民党の中に今も伏流として脈々と流れているならば、いつかそれが断末魔的に噴出する可能性は否定できません。

御厨貴氏 1951年生まれ。2012年から東京大学名誉教授。専門は日本政治史。公人へのインタビューで現代史を検証・記録する「オーラル・ヒストリー」の第一人者。

御厨 貴

アジアに広がる少子化

ASEAN、農村が高齢化
社会保障追いつかず

日本総合研究所 調査部

上席主任研究員 大泉 啓一郎



2015年末に東南アジア諸国連合（ASEAN）共同体が発足した。ASEANは、新しい成長センターとして期待されているが、今後高齢化が加速度的に進むことを考えると、楽観は許されない。

* * *

ASEANの高齢化率（65歳以上の人口比率）は15年に5・9%と、日本や韓国、中国に比べるとまだ低く、7%を超える国はシンガポールとタイの2カ国しかない。しかし国連の人口推計（中位推計）によれば、高齢化率が7%から14%に達するのに要する年数（倍加年数）は、ミャンマーとフィリピンを除くすべての加盟国で日本と同等か、それよりも短い（図参照）。

こうした加速度的な高齢化は、出生率の急速な低下と平均寿命の大幅な伸長の結果だ。ASEANの合計特殊出生率（1人の女性が生涯に産む子供の推計値）は1970年代の6から現在は2を若干超える水準に低下した。シンガポール、タイ、

マレーシア、ベトナム、ブルネイは、人口安定に必要な水準（2・1）を既に下回っている。そして50年にはフィリピンを除くすべての加盟国の出生率が2を下回る。一方、平均寿命は70年代の57歳から現在では70歳に大幅に上昇し、50年には75歳を超える見込みだ。

	東アジアの高齢化率と倍加年数			
	高齢化率 (2015年)	高齢化率 7%を超え る年(a)	高齢化率 14%を超え る年(b)	倍加年数 (b-a)
日本	26.3%	1970年	1995年	25年
韓国	13.1	1999	2017	18
中国	9.6	2002	2025	23
ASEAN	5.9	2021	2045	24
シンガポール	11.7	1999	2019	20
タイ	10.5	2002	2022	20
ベトナム	6.7	2017	2034	17
マレーシア	5.9	2020	2045	25
ミャンマー	5.4	2023	2054	31
インドネシア	5.2	2025	2050	25
フィリピン	4.6	2032	2071	39
ブルネイ	4.4	2022	2035	13
カンボジア	4.1	2031	2054	23
ラオス	3.8	2041	2060	19
世界	8.3	2002	2040	38

(出所) 国連[World Population Prospects: The 2015 Revision.]

ASEANの経済規模（名目GDP）は、日本の6割にすぎないが、65歳以上人口は15年に3760万人で、日本の3330万人を上回る。25年には6千万人に達する。この間の高齢者人口の増加率は年間5%を超える。人口増加率が高い「人口爆発」からは脱却したが、高齢者人口の爆発といえる状況にある。

高齢化は将来の問題ととらえるべきではない。高齢者を誰が養うのかという問題は既に生じている。65歳以上を高齢者と定義するのが一般的だが、ASEANに適用するのは適切でないかもしれない。実際にタイでは憲法で高齢者の定義を60歳以上としている。60歳以上を高齢者とする、ASEANの高齢化率は9・3%に上昇し、高齢者人口は5900万人に達する。

さらにシンガポール、ブルネイ以外の国の高齢化は、中国と同様に「未富先老（豊かになる前に老いる）」というリスクを抱えている。

ASEANの人口は65年の8億2千万人を、

ピーアに減少に向かう。また、ASEANの生産年齢人口（15～64歳）は54年まで増え続けるが、比率は19年以降低下に向かう見通しだ。労働力投入量の増加が見込みにくくなる一方で、高齢化に伴う年金や医療などの社会保障制度の負担がかさむことが経済成長を抑制する人口オーナス（重荷）期に突入する。

近年、ASEANなど中所得国では、生産性を高めるような技術革新や、産業構造の高度化に努力しなければ、高所得国への移行が困難になると、いう「中所得国のわな」の議論がさかんだ。高齢化への対処も同様だ。ASEANにとって高齢化は、高所得国への移行を阻む「中所得国のわな」の一つととらえるべきだ。

これをバンコク、ジャカルタ、クアラルンプールなど若者があふれるエネルギー・シユな景観を持つ大都市から想像するのは難しい。しかし、この大都市の繁栄もASEANの高齢化と無関係ではない。なぜなら大都市に住む若者の多くは地

方からの移住者であり、その送り出し地域である農村では高齢化が進展しているからだ。中国やASEANの高齢化を「途上国の高齢化」という新しい問題として国際機関もとらえているが、現実にはさらに低所得の農村で高齢化が深刻化するという厄介な問題を抱えている。

日本でも都市より地方で高齢化が進んだが、高度成長期に団塊の世代が都市部に移住したため、農村では過疎化により人口が減る中で高齢化が進んだ。これに対してASEANでは、出生率が急速に低下する前に形成されたベビーブーム世代（40～50歳代）が農村にとどまり続けており、これらの世代が高齢化する過程で、ASEANの高齢化が深刻化する。都市化がこれを解決するとの見方もあるが、農村に住むベビーブーム世代が、今後都市部に移住し職を得ることは考えにくい。これは地域間所得格差をさらに拡大させる要因にもなる。

* * * *

こうした中で ASEAN 諸国は、国民全員を対象とした社会保障制度（国民皆社会保障制度）の整備を急いでいる。高齢化の進展に加え、政治民主化が進んだことも影響している。各政党は支持基盤を確保するため、対象外だった自営業や農業従事者に対する社会保障制度の整備と充実を公約に掲げるようになつた。加えて、国民の側にも高齢期の生活支援を国に期待する傾向が強まつてゐる。さらに国際社会が「一人の脱落者も出さない社会（インクルーシブ社会）」の実現を開発目標に据えたことも背景にある。

しかし、多くの ASEAN 諸国では国民皆社会保障制度の整備は容易ではない。その実現には、公務員や軍人と被用者（サラリーマン）に整備された社会保障制度を、自営業者や農業従事者へと拡大していく必要がある。だが所得水準が低く、また人口の半分以上を占める自営業者や農業従事者に、既存の制度を拡張することは難しい。

例えば、国民皆社会保障制度を一應整備したタイとマレーシアでは、実際は自営業者と農業従事者は支給額の少ない別制度を加えることで対処している。インドネシアでは、04年に国民皆社会保障制度を整備する法律が公布されたが、まだ実現していない。

どのような社会保障制度を採用するかは国民的議論が必要となる。その財源確保としての税制改革は、企業の国際競争力強化策と対立したり、富裕層の反発を招いたりするかもしれない。政府に議論を巧みにまとめていく手腕が求められる。失敗すれば社会不安に発展する可能性がある。タイの長引く政局不安の一因はそこについた。これまでの ASEAN の経済成長は安定的な社会に支えられてきた。人口高齢化はそうした社会の安定性を脅かしかねない。

* * * *
ASEAN の安定的な経済社会の発展、ひいて

は東アジアの持続的成長を維持するため、日本は加盟各国の高齢化対策に早い段階から協力・支援していくべきだらう。

前述の通り、ASEANの高齢化対策には社会保障制度だけでは不十分であり、それを補う親族や地域の役割強化が重要となる。国際協力機構（JICA）はタイに対して地域福祉の観点から支援・協力を実施しており、16年で8年目を迎える。日本にても地域福祉で成功しているわけではないし、地域福祉のあり方は国・地域により異なり一般化は難しい。ゆえに地域福祉支援・協力は試行錯誤を繰り返しながら「ともに学び合う」という姿勢が必要だ。

日本は、この「ともに学び合う」高齢化対策のリーダーとなるべきである。厚生労働省は「アクティブ・エイジング（括動的な高齢者）」をキー ワードに、ASEANの官僚との国際会議を毎年実施している。知識・経験を共有する官民の高齢者支援ネットワークはASEANだけでなく、中

国や韓国も対象とすべきだ。この分野で日本がけん引役となり、東アジアにおける豊かな高齢社会の実現をリードすることを期待したい。

おおいづみ・けいいちろう

63年生まれ。京都大博士（地域研究）。

専門はアジア経済

大島 一郎

原発の安全 軽視し惨劇

福島第1メントダウン（2011）
設備の品質において

日本経済新聞

滝 順一

体系的戦略なく

1980年ころ、79年の米スリーマイル島原発の事故を経て、原子力安全に関する世界の考え方は変わりつつあった。スリーマイルまでは「安全を軽くみる傾向は日本だけではなかつた」という。しかし現実に過酷事故が起きたのを契機に欧米は「どこまで安全なら社会に受け入れられるのか」「そのためには必要な戦略は何か」と体系的に安全を考えるようになつた。

日本は海外から原子力技術を学び急ピッチで国産化を推し進め、原子炉輸出を計画するまでになつた。モノづくりに限れば欧米先進国に肩を並べたといえるのかもしれない。しかし、原子力安全への取り組みでは世界に劣後し、自ら取り残される道を歩んだ。その帰結が2011年に起きた東京電力福島第1原子力発電所の炉心溶融（メルトダウン）事故だつた。

1998年から2000年まで国の原子力安全委員会の委員長を務めた佐藤一男は、少壯の研究者のころの腹立ちを今も記憶する。

出版した。

日本の原発の歴史を振り返ると、海外が過酷事故で揺れた80～90年代が絶好調にみえる。原発の設備利用率は80%を超えて「 Chernobyl のような事故は日本では起きない」と原子力関係者は口にした。

その陰で安全を高める努力がおろそかになつた。

スリーマイル島、チエルノブイリという2度の過酷事故を受け、米国では原発をシステムとしてとらえ総合的な安全性を測る試み（確率論的安全性評価）が進んだ。日本でも議論したが、事故リスクを具体的に示すことに電力業界などが懸念を示し、安全規制に取り入れられることはなかつた。

国際原子力機関（IAEA）は、過酷事故に備えて周辺住民の避難計画づくりを提言した。米原子力規制委員会（NRC）は避難計画を原発稼働の前提条件にするが、日本は見送った。ある関係者によると、当時、安全規制で主導的

な学者が「放射性物質を外部に出す大事故は決して起こさない。そのため設備の品質などを徹底的に高めると話していた」という。

世界の警鐘無視

同様のことは2000年代にも繰り返される。01年の米同時テロの後、米政府は全電源喪失への対応を原子力事業者に求めた。非常用発電機が同時に破壊される事態を想定したのだ。米国の動きをみて他国も対応したが、日本は規制当局が米国の動向を知りながらも、策を講じなかつた。

高い設備利用率を背景に「原発を動かせば動かすほどかかるという風潮が強かつた」と東京理科大学教授の橋川武郎は指摘する。それがおごりにつながつたのかもしれない。

90年代には電力業界を揺るがす変化も生じていた。自由化への圧力だ。日本の電力料金は海外より高いと指摘され、地域独占の見直しが

段階的に始まった。その一方で、電力需要の伸びが純化し始める。

電力会社の首脳が「合理化」「競争力」を口にするようになつた。例えば95年の東電の社内報。「新年のごあいさつ」で、社長（当時）の荒木浩は「コストダウンというテーマは『終わり無き挑戦課題』だ」と、設備投資の一環の削減方針を示している。

電力各社が共同で取り組む研究も急速に減少した。「電力共研」と呼ばれる仕組みで、軽水炉の安全が研究の大きな柱だつた。軽水炉は「完成した技術」として導入され「国費で取り組む大学では安全研究がしにくかつた。電力共研が

安全研究を支えた面があつた」と、前原子力委員会委員長代理（長崎大学教授）の鈴木達次郎は指摘する。

95年に起きた高速増殖炉原型炉「もんじゅ」の事故は原子力への国民の不信感を高めた。もんじゅを管理する国の動力炉・核燃料開発事業

団（当時）は社会から強い批判を浴び組織の解体に至る。2000年代に入ると事故や不祥事は電力業界でも多発、批判の矢面にたつ。

この時期に「電力業界と規制当局の力関係も変化した」との見方がある。業界にはかつては規制当局を虜（とりこ）にする力があつたが、世論を背景に原子力安全・保安院の立場が相対的に強まつた。それは安全の向上にはつながらず、むしろ「能力無き規制」を生んだ。

「箸の上げ下げまでチェック」され「審査書類の山を築く」と、当時の電力関係者は嘆いていた。

米欧諸国の原発への回帰（原子力ルネサンス）がいわれた2000年代半ば、圧力容器をつくる日本製鋼所の能力が世界の原発建設のペースを決めるにまでいわれた。「メード・イン・ジャパン」の設備は品質が高く、その面で日本は「原子力先進国」といえた。

原子力発電をめぐる歴史

制度化と貿易措置の時代(1954~65)

1956 原子力委員会が発足
年

ティクオフと諸問題噴出の時代(66~79)

- 66 初の商業原発として日本原子力発電の東海発電所(ガス炉)が発電開始
- 70 初の軽水炉である敦賀1号機(日本原電)、美浜1号機(関西電力)が稼働
- 74 原子力船「むつ」で放射線漏れ
- 78 原子力安全委員会が原子力委員会から分離し発足
- 79 米スリーマイル島原発事故

安定成長と民営化の時代(80~94)

- 84 電気事業連合会が核燃料サイクル施設の建設構想を公表
- 86 旧ソ連 Chernobyl 原発事故

事故頻発と出力利用低落の時代(95~2010年)

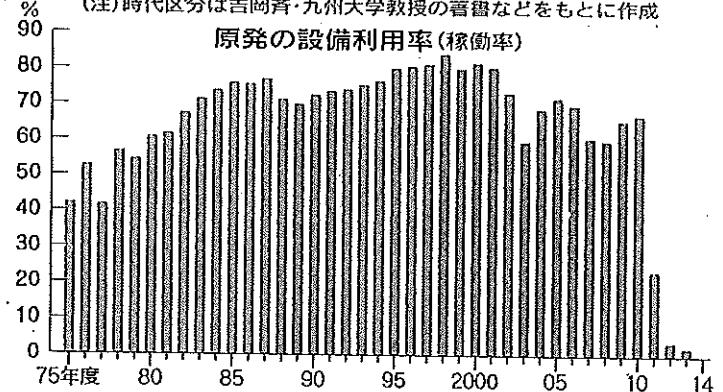
- 95 高速増殖炉原型炉「もんじゅ」のナトリウム漏れ事故
電力自由化・独立系発電事業者の参入
- 99 JCO臨界事故
- 2000 電力自由化: 大口需要家への小売り自由化
- 01 省庁再編。原子力安全委が総理府から内閣府に移転、経産省に原子力安全・保安院が発足
- 02 東京電力のトラブル隠しが発覚
- 04 関電・美浜原発で蒸気噴出事故
- 07 発電電力量のピーク(約1兆キロワット時)
- 10 政府が、原発14基以上の増設を盛り込んだエネルギー基本計画を決定

2011年福島第一原発事故

- 12 原子力規制委員会が発足(原子力安全委と原子力安全・保安院は廃止)
- 15 美浜1号機など廃炉が決定。政府が原発比率を引き下げる新エネルギー基本計画を決定
川内1、2号機が新規制基準の下で初の再稼働

(注)時代区分は吉岡晋・九州大学教授の著書などをもとに作成

原発の設備利用率(稼働率)



比較して、巨大システムの安全を考える面での未熟さは深刻だ。

福島事故を契機に、国は原子力規制委員会を設けるなど、安全規制を抜本的に変えた。世界の常識から取り残された「ガラパゴス化」から抜け出せるのか。真価が問われるのはこれからだ。

（敬称略）

運転中だった1～3号機は緊急停止に成功したものの、停電のため核燃料の冷却を継続できなかつた。過熱した燃料は溶け、圧力容器の底から格納容器下部に落下したとみられる。水蒸気と燃料を覆う金属管の化学反応で大量の水素が発生して爆発、1、3号機の建物上部を吹き飛ばした。3号機から流れ込んだ水素で4号機でも爆発が起きた。

原子炉からの放射性物質の雲は広範囲に広がつた。原発周辺の住民10万人以上が避難を余儀なくされ避難途上で高齢者らが命を落とした。

国際原子力事象評価尺度（INES）では、旧ソ連のチエルノブイリ原発事故で同じ「レベル7」の深刻な事故となつた。

福島第1原発事故 全電源喪失 対応できず 深刻さ、チエルノブイリに匹敵

2011年3月11日の東日本大震災の大きな揺れにより、東京電力の福島第1原発は送電線が壊れて、外部から電気が来なくなつた。さらに津波によつて非常用発電機や電源盤が水没、すべての電源を失つた。

原発のゴミ　宙に浮く

高レベル放射性廃棄物

福島事故の指定廃棄物
処分地候補　住民は「ノー」

日本経済新聞

川口 健史

い反対に遭い、断念した。住民らは「原発から出るゴミは身に及ぶ危険がある」という恐怖感から断固として反対し続いている。

原発から出る廃棄物をひとつくりにすることはできない。

福島原発事故により発生したゴミは災害廃棄物とされ、大きく2種類に分かれる。一つが宮城県内の住民らが反対する「指定廃棄物」。事故で飛散した放射性物質に汚染された稻わらやごみ焼却灰、下水汚泥などで、放射性物質の濃度が $1\text{キログラム} / \text{Bq}$ 当たり 8000 を越えるものだ。もう一つが、福島県内を中心に土壤などを除染したことで発生した「除染廃棄物」だ。

指定廃棄物 16万トン

環境等によると指定廃棄物は今年6月末現在で全国で約16万トンに上る。特に量が多いのは宮城県、群馬、茨城、千葉の5県で、処分場を1カ所ずつ建設することが決まっている。宮城や栃木、千葉では処分場の建設候補地を国が示したが、い

た放射性廃棄物の処分場を巡り、宮城県内の候補地の調査に着手しようとした。しかし、住民の強

ずれも住民らの反対が強く、農地などに一時的に

保管する形でたなざらしの状態が続く。今月中旬に豪雨災害が襲った茨城、栃木、宮城の各県では流出も心配される事態になつた。

処理の方法は放射性物質の濃度により違う。1

当たり10万Bq以下のものはセメントで固めて処分施設に保管する。より強固なコンクリート構造物を作つて保管する場合もある。

同10万Bqを超えるゴミは地下水などと接触しない構造をとつた遮断型の施設で保管する。福島県内で出た指定廃棄物も処理方法は基本的に同じだ。

環境省の担当者は「高レベル放射性廃棄物に比

べると放射性物質の濃度は格段に低い。とはいへ放置していいものでもない。丁寧な説明を続けて一刻も早く理解を得たい」と話す。

除染廃棄物は福島県内の各地域の仮置き場に保管されている。今月中旬の豪雨では、飯舘村で約400個の土のう袋が流出、一部が袋の外に流れ

出した。

国が責任をもつて管理する福島県内で発生した除染廃棄物はゴミの容量などを減らして、大熊と双葉の両町に新設する中間貯蔵施設に数十年保管する。

ただ、市町村が責任を持つて管理する除染廃棄物とともに、最終的にどう処分するかは未定。福島県内の住民らには中間貯蔵施設が最終処分場になることを警戒する向きもある。

一方、福島原発事故とは関係なく、原発を稼働させる上で避けて通ることができないのが、原発からである「核のゴミ」だ。

再処理廃液が厄介

もつとも厄介なのが高レベル放射性廃棄物。原発で使用した核燃料からプルトニウムなどを取り除く再処理した際に出る廃液だ。数万年にわたって強い放射線を出し続けるため、廃液をガラスと混ぜ固めて、ステンレス製の円筒型容器に入れ、地下深くに処分する。

この夏、九州電力の川内原発が再稼働にござ着

けたが、100万キロワット級の原発を1年間運転する
と、ガラスで固めた廃棄物が約30本出る。すで
に日本ではこれまでに2万5000本に相当する
発電が実施された。

高レベル放射性廃棄物には半減期（放射線を放
つ能力が半分になる時間）が数万年にも及ぶネブ
ツニウムなどの放射性物質も含まれる。地下30
0メートル以上深くに10万年という途方もない年月に
わたって「隔離」する考え方だが、その処分場選び
は過去十数年、いつこうに前に進んでいない。

廃炉になつた原発の制御棒やフィルターなどは
低レベル放射性廃棄物という。高レベル廃棄物よ
り放射線量は低いが、それでも一定期間、安全な
場所に保管しなければならない。

低レベル廃棄物については、原子力規制委員会
が年内にも処分の基準を策定する。放射性物質の
濃度が十分に下がるまでの10万年、地中50メー
トリコンクリート構造物を作り埋設することを想定

しているという。

原発のゴミにはいろいろあるが、解決の糸口す
ら見つからないという厄介さでは共通している。

（川口障史）

中間貯蔵施設

東京電力福島第1原発事故で生じた除染廃棄物
や指定廃棄物を最長30年保管する予定だ。福島県大熊
町、双葉町の2カ所に建設する予定だ。今年3月
から建設予定地に試験輸送が始まつた。用地交渉
が難航、地権者のごく一部としか売買契約は成立
しておらず、本格輸送の見通しは立つっていない。

一方、原発から出た使用済み核燃料を一時的に
貯蔵する施設も中間貯蔵施設という。金属製容器
に入れて最長50年間仮置きする。東京電力と日
本原子力発電が出資する「リサイクル燃料貯蔵」
が青森県むつ市に国内初の施設を建設中だ。20
16年10月の操業開始を目指すが、原子力規制
委員会の安全審査が長引いており予定通り操業で
きるかはわからない。

ただ、市町村が責任を持つて

廃棄物の種類	具体的なゴミ	処分方法	処分地
福島原発事故前からある廃棄物			
高レベル放射性廃棄物	使用済み核燃料を再処理して出る廃液など	ガラスと混せてステンレス容器に入れて地下300m以深に埋める	未定
低レベル放射性廃棄物	原子炉内の部品や資材、手袋など	浅い地中に埋めたり、トレンチに埋めたりする	未定
原発事故後に発生した廃棄物			
指定廃棄物	1知当たり800kg超の稻わらなど	セメントに固めて管理型施設に保管	宮城、栃木、群馬、茨城、千葉県については各県1カ所に処分場を作る
除染廃棄物	土壤など	焼却などで減容化	福島県内では中間貯蔵施設にて一時的に保管。最終処分は未定

原発事故後発生した「指定廃棄物」の多い地域

福島県（13万3946t）

中間貯蔵施設への搬入が一部開始

栃木県（1万3533t）

8月に候補地の撤回を求めて住民らが反対集会

千葉県（3690t）

千葉市にある東京電力の火力発電所の敷地が候補地に選ばれたが、市長らが難色

茨城県（3532t）

分散保管を検討中

宮城県（3404t）

現状8月に栗原市、加美町、大和町が候補地の調査を拒否

（注）量は6月末現在、環境省調べ

(Bq) ベクレル

わが回想記

早稲田大学名誉教授

堀江 忠男

世界は軍拡から軍縮への歴史的転換の第一歩を踏みだしたから、その実現は加速されるのではなかろうか。

火星に人類が着陸する日

「月面に永久的な基地を作るとか、火星に人間を送るとかいう宇宙計画は、大きすぎるので、核兵器と在来兵器の軍縮に劇的な進歩がないかぎり、ごく近い将来に実現することはなかろう」

『コスマス』(宇宙) の著者 カール・セーガンが一九八〇年に書いた言葉だ。

三年前のチャレンジャーの爆発事故以来、ソ連に先を越され気味の米国では NASA (航空宇宙局) が、永久月面基地か火星への有人飛行かを選択したい、との提案を最近発表した。

それから九年、太陽系探査の技術と科学は案外早く発展して、紀元二〇〇〇年の数年後には火星への人間着陸が具体化しそうになってきた。昨年、

米国の火星訪問計画は次のとおり。早ければ二〇〇五年にも荷物を積んだ宇宙船を打ち上げる。三ヶ月後、八人の飛行士を乗せた宇宙船が跡を遁う。火星の上空で荷物船と合体すると、四人が火

星へ降下、残りの四人が留守番。約一ヶ月の調査を行つて帰還するが、全日程は約十四カ月となつていい。

今年は火星ばかりでなく、ほかの惑星や衛星にも探査機が訪れるが、その話をする前に、太陽系科学の過去六十余年における発展ぶりをみておこう。

野尻抱影の名著『星座めぐり』の初版が発行された一九二七（昭和二）年には、知られていた惑

星と衛星は次のとおりだつた。水星、金星、地球（衛星一）、火星（一）、木星（九）、土星（十）、天王星（十四）、海王星（一）。ところが一九三〇年には冥王星が発見され、衛星の数は八九年現在では、木星十五、土星十七、天王星十五、海王星二にふえた。

さて、今年は前記のフオボス一号が火星の衛星フォボスに超低空まで接近して着陸探査機を下ろす。

米国は四月二十八日に金星探査機マゼランを、

十月十一日には木星探査機ガリレオを打ち上げる。信州に關係のあるのは米国が一九七七（昭和五十二）年に打ち上げたボイジャー一号だ。これが十一年の旅をして八月二十五日に海王星とその衛星トリトンに近づく。そのときボイジャーの發信すれば二十ワットの弱い電波を捕らえる役目を引き受けているのが日田町にある直径六十四メートルの大アンテナだ。

（89. 1. 21）

土佐自由民権と現代

「板垣死すべしの自由は死せず」。土佐で一九八一（明治十四）年に結成された自由党の總理、板垣退助が翌年、岐阜県で遊説中、暴漢に刺されたときの言葉である。

土佐の自由民権運動について私の知つているのは、この名文句くらいなものだったが、いんじ高知市で開かれた全国公立短大協会総会に出席し、高

知短大の外崎光広名誉教授の講演を感銘深く聴いた。その要点を紹介したい。

自由民権運動の出発点になつたのは一八七四年（明治七）年の「民選議院設立建白書」であるが、起草者八人のうち、四人が土佐人であった。

同年、高知に設立された立志社は、初めて「民会」を開き、二年後には県内全域に小区会・大会会を組織して、地方自治組織をつくりあげた。それを積み上げて国会を実現するのが目標であった。それからさらに三年後、一八八〇（明治十三）年には、土佐郡上町々会が、県令（知事の旧称）を押しきつて、婦人選挙権と被選挙権を実現させている。

明治政府は自由民権運動にはげしい弾圧を加え、運動家の投獄・罰金・言論機関の発行禁止などが相次いだ。一八八一（明治十五）年、発禁処分を受けた「高知新聞」社は、高知新聞葬を挙行して、その「靈」をむらつた。会葬者は五千人近くに及んだ。

その前年には立志社の植木枝盛と北川貞彦が日本憲法草案を起草している。それを現行憲法と対比してみると、思想、信教、学問、言論、出版、その他の自由、法律の定める手続きによひなれば逮捕、拘禁などされないという人権擁護条項など、みな先駆的に明示されている。

植木、北川らの草案は、戦後の憲法研究会の「憲法草案要綱」（起草者、鈴木安蔵）作成に活用され、この「要綱」がGHQ（連合国総司令部）草案に大幅に採り入れられた。
　　）いう経過をたどつて、いつたん埋没せられた彼らの志が、戦後の憲法のなかに再生したのである。

(89. 6. 3)

文明病・環境学会シンポジウム

国際文明病・環境学会というの、ベルギーのブリュッセルに本部を置く学術団体で、第一回会

議は一九七四年にルクセンブルクで開かれた。そのときのテーマは「環境と文明病（核エネルギー、がん、公害）」であった。今年は「アジアにおける健康と環境」をテーマに、大月市で公開シンポジウムが二十二・四の両日おこなわれた。

参加者は日本、台湾、西ドイツ、フランス、ハンガリー、米国からの十数名。それぞれの分野における専門家である。私も地元の経済学者として報告を求められたので「環境問題の地球規模的・

地域的・個人的意義」という話をした。その要点。

環境問題というのは、理屈ついでいえば、わかりきつたこと、近代産業社会が指数関数的（複利計算的）成長を続ければ、必ず地球の有限性の壁にぶつかるという」とである。その脅威は、一九七〇年代初期に「国連環境計画」、ローマクラブ・リポート「成長の限界」などすでに警告されていたが、当時は遠い未来のこととしてあまり深刻に受け止められなかつた。

しかし昨年以来、世界史の潮流が戦争から平和

へ、対立から協調へと転換したいま、環境問題は前面に押しだされた。すぐに人類の共同事業として行動を起こさないと、われわれの「小さな宇宙船」地球が危ないという危機感をもつてである。

それに対処するには「持続的な発展」という原則が国際的に是認されている。「将来の世代のニーズを損なうことなく、現在の世代のニーズを満たしていく発展」ということである。

これを大月市に当てはめてみたらどうだろうか。「線とせせらぎと未来のまち」というのが大月を象徴する標語である。谷間の狭い土地で発展の余地がないなどと思わず、また乱開発に流されるところなく、市全体がそのまま大きな自然公園を成している恵まれた立地条件を未来に生かしたい。市民が一丸となつて「二十一世紀を目指す大月市自然公園計画」というよくな町づくりを進めたいものである。

講演会・講演記録

質疑応答

○K氏、中国の孫子の兵法的に言いますと、本当に戦争をするときは、うちは戦争しません、しませんと云いながら、相手に脅威を与えないで、一気に攻め込むのです。しないときは、できるだけ強く見せて、相手に対し威圧的に、抑止力をきかせて脅かすのですが、戦争はやらない。だから、強いぞ、強いぞとか、こんな怖いものをつくつているぞとか見せてくるのは、実はやる気がないのです。本当にやろうと思ったら、全部隠して、うちは全く何もしておりませんといいながら、密かに武器を作り、作戦をつくつて攻撃するのが常道でしょう。ですから、これは楽観的だと言わされたらそれまでですが、中国は一生懸命張子の虎をつくっている、でも、多分使えないでしょう。使えないまま、無駄になつて終わつていくのです。

それはやめてくださいと言つしかないのですが、自國の主権の中ではやられたら困ります。

一番困るのはチキンレースに追い込まれることなのです。中国がこれだけつくつたから、じゃあ、こつちもこれだけやらなくちゃいけないと、お互にどんどん軍事費にお金をかけて、本当に使わなくちやいけないと、お金が回らなくなつてしまつことが一番困るのです。それは、軍事競争だけではなくて、実は支援競争でもそういうのです。あつちこつちと、中南米とか、いろいろなところに行つて、中国の要人が絡んで金をばらばらばらまくわけです。そうすると、こつちも仕方がないから、国際的な影響力をお互いが維持しなくてはいけないというので、安倍さんも頑張つてあちこちへばらばらばらまいていく。そうすると向こうもその後を追つかけていつてまたばらばらばらばら撒いていくと云つた循環に陥ることでしょう。これをやるとお互いがチキンレースになつてしまします。中国たつてそうでしょう、これから四

億人の老人がふえるのだったら、もっと今からそうした事態に臨んで、その人のための年金とか社会保障制度をしつかりやつたほうがいいと思うのですが、お互いにそれをやらずにばらばら撒いて、中東に行つてもまたばらまき、最近また中東でばら撒いたりしています。しかも、向こうは首脳と言われる人が四人も行つて、総理大臣から何から、お金をばらばらまいてくると、こつちもやられてはいけないから、ばらまく。」そういうチキンレース、これは軍拡も同じですが、やめたほうがいいのではないでしょうか。

あり余つて、幾らでも打ち出の小槌のようにお金が出てくるときに、これはやつてもいいのですが、お互い高齢化社会を迎える、お互いにこれから先、十年先、二十年先、爪に火をともして生活をしなくちゃいけないような生活が来ることがわかつているのに、今、よそのところに行つてお金をまいたり、必要のないような船をたくさんつくりたり、空母なんてあんなものを作つてもどうし

ようもありません。今つくつてている空母なんているのは、ベトナムのしょぼい潜水艦一隻で沈めることができるわけです。南西諸島に今滑走路をつくりているのですが、本当の目的は、空母が沈められたときに飛行機が逃げるためにつくつたと言われているくらいです。中国の海軍の中でも、空母をみんな馬鹿にしているわけです。特に、潜水艦部隊なんかは、空母をつくつたつて、あんなもの本当にあつても餌食だという人がいます。魚雷一発で沈む、何の防御もできません。周りに潜水艦を探知する哨戒能力もなければ、周りを護衛する護衛艦もない。一発であつという間です。そういうものを幾つも幾つもつくつて、偉そうにぐるぐる回つたところで、威嚇にはなるかもしませんが、じやあ、ベトナムさん出ていいでくださいと言つたら、ベトナムがビューチと出て行って、魚雷を一発バーンと撃つておけば、それでいい、さよならで沈んでしまう。そういう状況だということです。それに、空母自体が、ほんこつ過ぎ

て、武器を満載して飛行機が飛べないといわれています。だから、何も積まずに飛ぶならできるのですが、空の戦闘機が飛んでも何も怖くないのです。やっぱりミサイルを積んで重武装で来れば怖いのですが、そのような状況であって、実際は空威張りみたいなものだそうです。

中国が日本に今一番かかわって怖いなと思つてるのは、ロシアから兵器を買い始めていることです。中ロの結託が一番怖いのです。ロシアも中国を警戒していましたから、今まで全然売らなかつたのです、いい兵器は。最新兵器を売ると自分のほうに向けられたときに困るから売らなかつたのです。しかしウクライナ情勢でがんがんとEUが攻めて、ガスとか何とか、みんな売れなくなつた分を全部中国が引き取つて、中国がロシアに随分恩を売つたのです。それで、ロシアが最新兵器を中国に売り始めるのです。これは実は大変なことで、尖閣諸島とか、その辺が全部、いわゆる彼らの攻撃を、中国の大陸からミサイルを撃つただ

けで落とせることです。低空は大丈夫なのです。P-3Cが飛んでいるような低空は大丈夫なのですが、ちょっと高度が高くなると、みんな撃ち落とせるぐらいの能力を持つてくるのです。ですから、そういうところは気をつけたほうがいいのです。去る人の評論です。そうすると中ロを結託させてはいけませんので。安部さんは今、一生懸命ロシアに行って頑張つてますが、何とか中ロを股裂きにしないと、これは危ないのではどう感じます。余りウクライナをたたき過ぎると、ところでんのようにロシアがこっちのほうへ出てくるわけです。ロシアはロシアで、日本の周辺でまた最近暴れ回つてているわけです。余り言われないのですが、最近、日本の周辺で結構暴れているのです。ですから、中ロというのは、へたすると危ないから、気をつけたほうがいいと思うのです。また、日本海で間もなく、来月あたりに軍事演習をやるらしいのです、中ロと結託して。こうした行動には冷静になつて、気をつけたほうがいいと

思います。

○・・氏 先ほどのお話を重複するかと思うのですが、戦争は起らぬかなどということで、安心はしています。もう一つ、私が思うのは、今、発表されている中国の人口数というのは正しい数字のかなと疑問に思うのです。一人っ子政策をしたときに、田舎のほうには「ハイハイズ」というのがかなりいました。何しろ広大な中国のことですから、教育も受けない人口がかなりいるはずです。さらに、上海と香港と北京においては、そこに住む住民権みたいなものが与えられるのはごくわずかな人だったものですから、地方から出張する、それも戸籍がない状況です。日本でこの次やるナンバー制、あんなものがあればもっと人口があふえてくるのではないかと思うのです。そして、教育がなされていない分、貧富の差も激しいのです。爆買いしに来るすごい富豪がいる。日本に遊びに来ている富豪というのは中国人が多いのです

が、その貧富の差が問題です。戦争が起る前に、もしかしたら向こうでクーデターが起きるのではなかると、私は思っているのですが、その点はどう思いますでしょうか。

○K氏 御心配のとおりで、中国の習近平さんが一番恐れているのはそのことだと思います。ですから、よく中国が、軍事費が毎年二桁の伸びで二十何年も続いて、すごい軍事費を使っている、国防費だとか言っていますが、実は、それ以上のお金を治安対策のために使っています。ですから、治安維持費というのは、中国では国防予算よりも多いのです。特に、先ほど言われた貧富の差に対する不満を抑えています。一年間に何十万件という暴動が中国で起きているわけです。何十万件といつたら、三百六十五で割つたら、幾つになるか、一日に何百件も起きているということです。物すごい数の暴動が起きていても何もなかつたかのように毎日が終わっていくというのは、それを押さえ込むだけの物すごい数の警察があつて、そ

してまた、少数民族とか不穏な分子に対しては、徹底的なマークと盗聴と尾行などをやっているわけです。そういう物すごい体制で押さえ込んでいるということです。ですから、中国に生まれなくてよかつたですねということですか。

もう一つは、人口の問題ですが、まさにヘイハイズですね。戸籍に載つてないお子さんがどれだけいるのか、これは全くわかりません。ただ何となくわかるのは、今、公式統計で大体十四億なのです。ですから、それに一億ぐらい乗せたら合うのかなと思います。十五億人ぐらいいるのがなと。でもほつきり言うと、十五億人でも十四億人でも誤差のうちなのです。大体中国ってそのぐらい大きつぱです。ですから、一億人ぐらい多くても關係ないです。でも、一億人って日本の人口ですね。そのぐらい大きい規模になります。ちなみに、中国で少数民族と言っている人が一億人いますから。それが少數でござります。そういうことで、なかなか中国というのは奥深くて、わけがわから

ないことが物すごくあります。ですから、表面に出ていること以外に、実情というものは物すごくかけ離れていることがしょっちゅう起きるという事です。大きいですから、日本の常識で考えてよかっただですねということですか。

もう一つは、徹底した情報統制、言論規制をやつております。例えば、日本ですと、日本でも、最近、自民党の会議でマスコミを懲らしめろと言つたとか、話があります。あんな話を聞くと中国に似てきたなと思うのですが、中国の共産党の幹部はいつもああいうことを言つてゐるわけです。マスコミはけしからん、懲らしめろ。どうやっているかといいますと、中国では記者証というのが

あつて、ジャーナリストは全部記者証を発行して、それがなければ取材活動をしてはいけない。これを免許制にしまして、毎年試験を受けさせているのです。その試験に受からないと剥奪するわけです。言ふことを聞かないやつは全部それで落とす。しかも、思想教育をやります。その思想教育を研修と称しています。「ペイシュン」と言つているのですが、ジャーナリストに対し、マルクス主義新聞觀、マルクス主義ニュース觀というのを植えつけると、徹底的な洗脳教育をやつています。実は、その教材は私は手に入れました。教材を手に入れたら、いろいろなことが書いてありました。おもしろかったのは、そこに試験問題がついていたのです。これが記者が受ける試験問題だ、どんなことが書いてあるかなと思つて、いろいろなものを見たのですが、一番おもしろかったのが、西側のマスコミ、報道の自由のシステムが持つてゐる致命的な欠陥を、四つの中から二つ選べとかいふことでした。

何で西側のことをそんなことを言わなくてはいけないのか。西側の報道の自由、言論の自由の致命的な欠陥を、四つの中から二つ選べといふものです。一つは政治にたやすくコントロールされること、二つ目がお金によつてたやすくコントロールされること、三つ目が社会の治安を維持できなくなること、それから、四つ目が容易に偏った行動をしがちになる。こういうことを選ばせるのです。私は全部間違つていると思うのです。一つも西側の報道を致命的な欠陥だと思つていいのですが、答えは最後の二つなのです。最初の容易に政治に利用されるというのと、容易にお金によって流されるというのと、どうも致命的な欠陥ではないとなるのです。

この問題はどうやって解くかといふと、実は、報道規制されている中国では容易に政治に流されるのです。それから、お金を記者がとつていて書くことが多いのです。お金をもらつと記者は一生懸命よく書いて、お金をくれないと悪く書くといふことでした。

う悪い習慣がありました。容易にお金で流される。つまり、前の二つは中国そのものなのです。だから、それを一つ除いて、残りのほうに丸をつけると、それが正解になる。こういう試験問題なのです。

それから、もう一つおもしろい問題がありまして、習近平国家主席が中国の夢を実現するために絶対必要だと言つたものは次のうちの何か。四つの中から一つ選べというものです。一つには平和主義、次が改革開放、それから、経済発展、もう一つが中国独自の社会主义体制、この四つなのです。答えは、中国独自の社会主义体制というのを選ばないとだめなのです。落ちるのです。ということは、平和、発展ではだめなのです。中国の夢を実現させるためには、平和、発展は唯一の道ではない、平和でなくていいと言つていることなのです。「これを見て、中国の夢を実現するためには、戦争をしてもいいのか」ということなつたのですが、そんなことを教えて込んでいる。

ともかく、中国共产党にとって、都合の悪いことを絶対に宣伝させないということを、徹底してやっています。

ジャーナリストに聞きまして、私の友達にいますから、そんなのでどうするんだと言つたら、中国人というのはいつもそうだと。上に政策があれば下に対策がある。いかにしてそれをすり抜けて記事を書くか、そこを評価してほしいという。言ってみれば、我々よりも三十倍ぐらいの障害を抱えながら、それでも何とか、ジャーナリスト魂で取材してやろうということをやっている良心的な記者もいます。しかし、大半は抑えられて、なかなかできないのです。中国がすごく怖がっているのは世論で、一たんでも不満が爆発して連携する……。一年間に何十万件も暴動があると言つているのですが、それを押さえ込めているのは個別に起きているからなのです。これは連携した途端にアウトなのです。これを連携させないために、必死な思想統制をやっています。

○質問 本日はいろいろとおもしろいお話をありがとうございました。

中国の対外的な、覇権主義みたいなものが見えて、アヘン戦争の仕返しをしているような、そういう印象を受けました。中国は前からアフリカに資源を求めたりとか、今回のA.I.I.Bも外に外に向かっているような印象をすごく受けたのですが、そのお膝元つまり、国内の経済状況の実態というのはどういうものなのでしょうか。何年も前からバブルで崩壊する崩壊すると言われつづり、ここまで来ているような印象を受けるのですが、事ここに至つて、さらにA.I.I.Bというものに踏み出してしまって、まさしく足元から崩れてしまうのではないかという危惧を覚えるのですが、その辺の国内外の印象を教えていただけたとありがたいです。

○ 実は、中国の経済というのは、本当にぬえみたいにわけのわからないものとして、よく経済成長率が何%だと、GDPがどうだと、あるいは貿易額がどうだとか、いろいろな数字が出てき

て、それだけで語ることもあるのですが、実態は全くどうなのかよくわからないのです。

例えば、確かに、バブルだと言わながら、でも変なのですね。バブルだ、バブルだと言つてもどんどん投資する者がいたり、今、中国の株が物すごい勢いで下がっているのです。知り合いの中国人はみんな頭を抱えています。みんな株を買つていてるらしいのです。どうしようどうしようと私に相談に来るわけです。だから、私が、もうこれはすぐ売らないとだめだよ、売らないと言つたのだけれども、ずるずる持つたまま三週間ぐらいたつて、二割ぐらい落ちてしまった。でも、全然平気なのです。というのが、ほとんどの資産は国が確保しているのです。まだ民間ベースで持つてある金というのは少ない。ですから、金は幾らでも国から出るのです。それで、外貨も持つてます。これは強いです。貿易で、しかも、外貨管理をやっていますから。日本ですと民間がみんな外貨を持っているわけですが、中国は全部外貨は政

府が持つてゐるわけです。ですから物すごい外貨を持つてゐるということで、この外貨が今回のAIBでも大きな後ろ盾になつてゐますし、中国経済がもし崩壊するようなことになつたら、まず最初にやればいいのは、外貨を全部放出すればいいわけです。そしたらアメリカがぶつ飛びでしうけれども、三兆ドルのうち一兆ドルはアメリカの国債なので、それぐらいアメリカも大変だと思ひますが。

中国がすごい外貨を持っている。これは、今言つてゐるシャドーバンкиングの問題も一時期ありましたし、今、バブル崩壊の話もありましたが、実は大したことないのです。日本のバブルの崩壊で何が一番問題になつたかというと、土地の価格なのです。ところが、中国のマンションは、実は、つくつたときは土地の価格は事実上ゼロ。国のものです。人件費もただ。ほとんど材料費ぐらいしかかかつてないのです。それが価値がゼロになつたところで国は痛くもかゆくもない。ああ、そう

ですか、じゃあ、ゴーストタウンにしましよう。事実上、今、中国に二十箇所ぐらいの有名なゴーストタウンがあります。百万人ぐらい住めるようなマンション群をつくつて、実際に三万人ぐらいしか住んでないなんていうのは結構あります。特に、内モンゴルとか、どうしてこんなところにこんなすごいゴーストタウンをつくつたのかなと思ひます。そういうものが平然とさらされていても、一向に内モンゴルは潰れない。不思議なことです。その余裕というか、わけのわからない、日本では考えられないようなことが起きていても、なお平氣だと。

李克強さんが言つた言葉で、ともかく、経済指標は全然當てにならないから、鉄道の貨物の輸送路と電力量を見て物事を判断するのだ。確かに、電気は、使つたものは間違いなく電気としてわかるのです。だから、鉄道も必ず走つたものはわかるのです。だから、鐵道も必ず走つたものはわかる。それ以外は一切信じないと言つたのも全くそのとおりです。あとは、どこまでが本当かわから

ないです。しかも、お金が半端じやないのです。賄賂の話がさつき出てきましたが、日本ですと、よく新聞をにぎわして、どこかの公務員の人が二十五万円とか、百万円の賄賂をもらつて捕まつているわけです。多くて千万とか何千万です。中国の人の賄賂の額なんて半端ではありません。億が当たり前です。すごいです。何十億とか何百億が当たり前の世界であります。そういう人たちが賄賂のお金を、捕まつた人はどちらちやうのですが、みんな外国へ送るのです。その送つたお金が一年でどのぐらいあるかというのを、ドルで送るものですから、アメリカが監視していく、アメリカが調べていて、日本円で何十兆円にもなるのだそうです。二〇一三年のときに七十兆円になつたとかつて云つていました。これが不正送金で、賄賂だけではなくて、そのほかにも隠し金かもしれないし、会社の不正経理かもしれないのですが、すごい額が中国から毎年、何十兆円単位で世界に不正送金されているわけです。にもかかわらず、

中国は相変わらずすゞい勢いで経済成長してきてるという、これは信じられない話であります。

何十兆円などはつきり言ふと、中国の国防費をはるかに上回るお金です。それだけのお金が秘密に送金されているのです、アメリカとかでカリブのケイマン諸島とかイスラムとかに送られてるわけです。でも、全然何事もなかつたがごとく世の中が動いていたりすると、この不思議さというものは、普通の経済的な常識ではわかりません。もつとわからないことを言いますと、まず税金ですね。中国で今所得税を払つている人は全人口の二%しかいないのです。これが正式な統計で、二%です。どういう人が所得税を払わなくてはいけないかというと、一ヶ月に、今、三千元から五千元に上がりました。五千元の月収のある人よりも上だつたら絶対税金を払わなくてはいけないのです。ということは、中国の九八%の人は月々の収入が五千円未満ということです。ところが、実際には何百万円もする車がたくさん町を走つてゐるわけ

です。物すごい高いマンション。今、北京のマンションなんて私は買えません、全然。億ションですか。遠くの、車で一時間以上走ったところでようやく買えるかどうかぐらいです。そんな高いマンションなのですよ、今、中国のマンションはそれをみんな買っているわけです。だけど、五千円といいますと、今、それでも十万円。月々十万円の給料の人が億ションを買えますか、五百万円もする車を買えますか、幾らローンだといったつて。買えないではないですか。でも、それが現実に走っているわけです。たくさんあるわけです。どうしてなのか。誰も説明できない。一%しかいないのですよ、中国で所得税を払っている人。九八%の人は月々十万円以下の生活をしているはずなのです、統計上は。でも、わからないのです。全てがわからない。だから、日本に来て爆買いしている人たちもちろん、あの人たちは誰も所得税を払ってないのではないですかね、多分ね。聞いてみたらおもしろいと思います。でも、聞かない

ほうがいいのかな。来なくなるから。どうぞ来てください、日本でお金を使ってください。だけど、あなたたちは、本当に……。日本で言うと、給料というのは、額面と手取りというのがあって、大体額面よりも手取りのほうが少ないので当たり前です。源泉徴収されたり、社会保険料を取られたり。向こうは違うのです。額面より手取りが多い。それが当たり前の世界。信じられないことが起きています。ですから、わけわからぬ。おもしろいのです。例えば、大学の先生に聞きました。大学の先生で、随分羽振りがいいけれども、でも、大学の給料って安いでしょう、教授の給料なんて全然安いでしょとうと言ったら、安い安いと言うのです。じゃあ、どうやってあなたはこの車を買つたりするのですかと聞くと、それには手があるのです。A大学の教授はA大学で余り教えないのです。B大学、C大学、D大学へ講師として行くのです。そうすると、講師は別に手当がもらえるのです。教授よりもはるかにいい手当がもらえるの

です。場合によつては、外国の大学の講師になる。
そうすると、もっとすごい手当がもらえる。それは全部副収入だから、申告しない。そうすると、實際、教授という肩書でもらつて、いる給料は物すごく少ないので、けれども、A大学講師、B大学講師、C大学講師の給料を全部足すと物すごい金になるということなのです。それをお互いにやり合ふわけです。だから、A大学の教授というのはA大学で教えないでほかのところへ行く、C大学の教授がA大学で教える。お互い交差してやれば、みんなが儲かつて、みんなが高い給料で、額面はみんな少ない。こういうシステムになつていると言ふのです。なるほど、考えたものだなと。それが中国なのです。上に政策があれば対策がある。必ず何か考えて金を儲けるのです。ですから、日本も、中国に行って、進出して、儲けようと思つたり、うまくやろうと思つたら、その発想と抜け道をしつかりやれた者が勝つということになるのでしょうか。

文責 事務局 佐々木



作品 関根常雄

蘭子の心情

いたからとしか言いようがない。

米ジャーナリスト

ランコ 岩本

我が人生 その時

私の人生の「その時」は、1966年の11月8日から26日迄の正味18日間と言つてよいだろう。場所はニューヨークで、私が関与したことになった事件は、米三大家ネットワークの一つであるAテレビ局がその新番組「世界巡り」で日本を取り上げることになった時発生した。

当時の私は米国第4位の広報会社R社に入社して3年目だった。アメリカ企業、しかも広報分野で働くことを考えてもみなかつた私がR社の「初外国人社員」となったのは、丁度その時の私が「大いに横道に逸れたい」気分になつて

ボストン大学を63年に卒業した私は、半年かけてヨーロッパを南下し、中近東、東南アジアを旅しながら日本に帰国する予定を立てていた。大学院（ジャーナリズム科）の卒業論文を700ページ書き、教授の勧めでそれを400ページにカットし、更にそれを仕上げる迄に自身で4回タイプした私は、極度のタイプライター拒絶症にかかっていた。半年タイプライターの顔を見ず、触らず過ごしたら拒絶症も治るだらうと、私はボストンのアパートで帰国準備をしていた。

そこにニューヨークのR社から電話が入つた。当時上席副社長で後に社長となつたミスター・ワイズで、「貴女の記事『日本人の微笑みの裏にあるもの』を読んだ。ジエトロがうちの初の日本クライエントとなつた。ジエトロは来年から2年間開催されるニューヨーク世界博の日本館の責任団体。日本とアメリカ両方のことが分

かり、更に文の書ける人を必要としているので、来ませんか?」

藪から棒の話で驚いたが、私は大いに道草を食いたい気分だつたし、考へるとニユーヨークは東京に帰る途上に在るし、アメリカの会社で働いてみるのは貴重な体験となるうし、それに

「パブリック・リレーションズ」なる新プロフェッショナルを専門とする職場で、それに携わりながらこの新分野を学ばせて貰える機会だし……そこで、私はそれ以上深く考えず、「イエス」と返事した

私が61年のフォーリン・サービス・ジャーナル誌の7月号に載つた私の記事を知つていたことも、私が即答した理由のひとつだと思う。ジャーナリズムのクラスで、「未来のレポーター」として記事を雑誌社に売りこむ宿題で書いたのがこの記事で、私が取り組んだ課題は「異文化間のコミュニケーション」だった。

私は本能的に、「R社に入る事イコール異文

化間のコミュニケーションの実験」と理解したようだ。面白いではないか。それに、ニューヨーク世界博は64～65年の2年間だ。最初の予定の半年よりは長いが、内容が盛り沢山だから、帰国道程での「途中下車」として手頃な時間と考へられなくもない……。

こうして私はR社で働くことになつた。また、この様な呑気な気分で入社していたので、3年後に発生した「その時」の事件に、後に「Ranko流」と私を知る人達が呼ぶようになつたやり方で対処することが出来たのだと思う。

入社するにあたつて考へたこと

呑気な私だが、社員数約350人のR社で只一人の外国人として勤務することになつて、流石に些か不安になつた。

「パブリック・リレーションズ」とは一体ど

ういうことなのか？ ジャーナリズム専攻だったので、後に日本で「広報」として知られる」とになるこの専門分野のことを私は殆ど知らなかつた。私に出来るだらうか？ 今迄は、学費

を払つて教えて貰う学生だつたが、今度は給料を貰つて「広報」を実施することになるのだ・・・。

それで図書館に行つて、「広報とは何ぞや」のひも解きにかかつたのだが、すぐさま絶望した。定義だけで、なんと1ページほどもあるではないか。学生だつたらそれらを全て暗記して、試験を通過してしまえばそれでよかつたが、今後はそつはいかなかつた。理解しなければ、実施はとてもおぼつかない。仕方がないので懸命に考へることになつた。パブリック・リレーションズの「パブリック」とは？「リレーションズ」とは・・・？

こうしてやつと何とか自分が納得できる広報の定義に辿りついた。字引でパブリックとは公

衆・国民・社会・世間となるが、実態は「自分以外の全ての人間」を意味し、広報とは、自分以外の人達との「良い関係づくり」を目的とする・・・。

それではどうやつて、この良い人間関係をつくるのか？ つまり手段である。この答は案外簡単に出了た。「コミュニケーション！」

それなら私の専門分野ではないか、と思い付いた途端、私の不安感は消し飛んだから面白い。気が楽になつた私が次に考へたことは、「ここでの2年間に、私に出来る最も意味ある事は何か？」だつた。広報分野は方向違いと思つていたから、私の人生における「2年位の途中下車」みたいな気分だつた。だから、どうすればこの会社の中で偉くなれるかななど考えもしなかつた。自覺していたのは、2年という貴重な時間割く以上は、それを最も意味ある事に使いたい、ということだけだつた。

意味ある事が何か、は直ぐ判明した。日本・

日本人の「ヒューマナイゼーション、パーソナライゼーション（人間化）」である。R社の人達は日本を知らないだろう。知っているのは地図上の日本だけで、頭にあるキーワードは富士山・桜・芸者、そして「神風」となつて命を投げ出すかと思えば、面目を失つたとハラキリをやらかす、得体の知れない人種といったこと位だつた。戦争やハリウッド映画、そしてアメリカ人が書いた本や小説を通してしか日本・日本人を知らない彼等にとって、私は多分初めて出会う「生きた日本人」であろう。私という人間に接することで、彼等の頭の中にある地図上の日本に急に血が通い、それが生きたものとなるのは間違いあるまい。

こう考えている中に、大変なことに気付いた。彼等の日本・日本人觀は、最初に出会うこの私が、という一人の日本人から受ける印象で、大きく左右されることになるのだ・・・。大変だ。私は後に続く日本人のためにも、「立派な日本人」として行動せねばならぬのだ。礼節を重んじ、和を大切にする日本人、思いやりと責任ある言語行動で、信頼と友情の念を起させる日本人・・・。私がそれに徹して生きてみせることが、とりもなおさず最も意味ある時間の使い方となるのではないだろうか？

こうして基本的に、広報とは何か、R社で私がやるべき事は何か、は一応分かつたが、最後にもう一つ考えておかねばならぬ事があった。「八つ裂きにならぬ為にはどうすれば良いか？」

R社にとつてジェトロは「初めて」の日本のクライエントで、ジェトロがアメリカの広報会社を起用したのも「初めて」。更にこの「初めて」同志のビジネス関係が成立したのはほんの数ヶ月前と知った時、私にはピンとくるものがたり、「これは大変だ」と思つた。私にとつてこの職場は戦場となる・・・。そう直感したのは、両者が文化摩擦に突入する条件が見事に揃

つていたからだつた。

言葉の問題だけではない。相互の価値観・思考。行動の基準が、あまりにもかけ離れ過ぎていた。

アメリカ人は大まかでテンポが速く、働く目的は「自己繁栄」だったが、日本人は気が遠くなる程キメ細かく、ゆえにカタツムリの如くのろく、働く目的は「属する団体の繁栄」だった。そしてジエトロは旧通産省（現経済産業省）管轄下、日本の輸出促進をはかる半官半民の「お役所」ときていた。

アメリカ企業は「我ある故に國あり」という思考で、政界とビジネス界は対立関係だったが、日本は「日の丸親方」の縦社会で、そのトップにデンと構えた政府は絶対的権力機構として、「下の者」の保護者であり、「指導・命令」する立場にあつた。

この基本的な相違に加えて、つい数年前まで対立して戦い、多くの血を流していた両者の心

境には極端な差があつた。戦争に勝つたアメリカは、経済的にも最盛期で、「我々のやる事は正しい」と信じきついていた。一方敗戦国の日本は経済のみならず、国自体の再建中で忙しく、「学ばねばならぬ、追いつかねばならぬ」としか念頭になかつた。

だから、新しく民主主義国家として一歩踏み出したばかりの日本は、先駆者のアメリカ、世界一の経済大国アメリカを大先輩として仰ぎ、対等に付き合うことなど夢想だにしなかつた。

「」という背景下、日本の対米輸出促進の鉢先機関であるジエトロが、R社を起用したのだから、事態が複雑化しないわけがなかつた。ジエトロとしては「雇う」以上は、R社に支払いに見合う結果を出して貰わねばならない。この「結果」に対する相互認識が異なる場合はどうなるか？

加えて、広報分野の結果は計りにくいものだ。商品の販売と異なり、長期的積み重ねがあつて初めて結果の誕生となる。この事を、多分今で

もそうだろうが、当時の日本人は全く解していなかつた。広報の知識が些少があつても、それは宣伝、つまり広告の一部、と思ひ込んでいる人が殆どだつた。

これに「頭が固い」ことで知られるお役所と、クリエイティビティ（創造性）を財産の一つとする広報企業、更に戦勝国のアメリカと敗戦国日本の日本という組み合わせが加わつたのだから、文化摩擦が生じるのは時の問題だつた。だから、自分が「八つ裂き」になる可能性が見えたわけだらう。日本側は「あなたは日本人だから、我々の言うことが分かる筈だ」と私が彼等に味方するのを当然とし、アメリカ側は「あんたの給料を払つているのは我々だ」と私が彼等の味方をするのを期待するだらう。

まだまだあつた。アメリカ側の「外国人、東洋人、女性」に対する差別意識、そして日本側の「アメリカナイズされた日本人」「女のくせに」といった偏見・・・。

いろいろ考えた揚句、私がたどり着いた結論は、「透明になること」、自分の内面の世界から、八つ裂きの対象となり得る「意識」のすべてを取り除いてしまうことだつた。こうすると、相手がいくら狙つて矢を放つてきても、私の中に「的」は最早存在しないから、矢は素通りしてしまうだらう。

そう思い付いた時、葉隠れ武士の「武士道は、死ぬことと見つけたり」が私の頭を横切つた。

次回に続く

講演会 その二

一期一會

井浦コミュニケーションセンター

井浦 康之

(前号から)

その解決方法とは簡単です。自分で自分を励ます言葉を考えて下さい。これを「キーワード」と云うのです。自分自身の気持ちが変わる言葉です。そうです、それを自分で考えて下さい。落ち込んだ時に、壁にぶつかった時、自分で考えた事、それを言葉で唱えるのです。いいですか、黙って考えては駄目なので、言葉に出すから言葉がうちにまわってきて、頭のてっぺんから入つて來るのですね。只、黙つて頭を下げる挨拶するのと、「こんにちは。」「お早ようございます。」と云う

のでは大いに違うでしょう。声を出すと云うこととは細胞が活性化することになります。それを何回か唱えると気持ちが変わる。「よしやつてやろうじゃないか」ということで必ず道は開けます。

僕は十六年前に心筋梗塞で倒れ、あと四日遅れたら危なかつたのです。もう命が危ないと言われましたら。お陰様であれからもう六年たっています。病氣したのです、もうしゃつたのです。辛い事でした。今、世の中が大変ですね。東洋タイヤさん、シャープさん、東芝さん、そうしたら今度フォルクスワーゲンです。この会社はトヨダを越えたのです。そこで考えられなければならないことがあります。

人間的魅力は何か、その人の器の大きさです。人間としての器の大きさで変わってくるのです。社長が変わつたら、会社が変わるでしょう。支店長が変わつたら、店が変わるで

しよう。そうですね、これなんですよ。僕は今日パソコンで調べできたのです。資本金一千億以上の上場している会社で直近、三年間の成長率を調べたのです。ソフトバンクの孫さんも入っています。孫さんは五位です。一位が何と吉永泰之さん、知っている方いらっしゃいますか？富士重工の社長です。今、富士重工は物凄くアメリカで売れています。やないですか。社長が変わったからです。僕は前の社長を知っているのです。労働組合に頼まれて、知っているのです。この社長に変つてから何と成長率六七三%、トップは吉永さんです。二位は村田製作所の村田さん。村田恒夫さんです。ご存知ですね、彼は電子機器を作っています。三九四%、半分ですよ、富士重工の。富士重工は今車の中で売っています。最高のトップになっています。三番は上西京一郎さん。ディズニーランドの社長さん、オリエンタルランド。ディズニーの社長

です。これは三七七%上がっています。売上が三年間でね。四番が釣り具のシマノ、島野要三さん。この方三六一%。五番目が孫正義さんですね。孫さんが三二八%。彼は時価九兆円の資産を持っています。一般的には孫さんがトップでしょう。一番お金稼ぐ方、二番目がユニクロの柳井さんです。孫さんは個人としてそれだけの力を持つているのです。の方はNTTと戦って、戦って、自分で立ち上げたのですから、なかなかものだと思いません。六番が柳弘之さん。聞いたこと無いでしよう、僕も聞いたことありません。ヤマハ発動機の新しい社長さんですね。二〇〇九年に二〇〇〇億の損失があつた会社を立て直したのがこの柳さん。二七六%。七番目がニトリの社長です。日本経済新聞をお読みになつた方いるでしよう。はちやめちやな社長ですね。でも、彼は七位です。一〇〇〇億以上上の上場会社で三年間で七位ですね。二六

二%。八番目は畠中さんと言います。アステラス製薬の社長です。彼は明日は変えられるというのに、キヤッチフレーズです。キーワードですよ。そして、今は二五五%。新薬の開発をしています。アステラス製薬。九番目は皆さんご存知の永守重信さんです。日本電産です。M&Aをどんどんどんどんやつて東芝関係の子会社を、駄目だった会社を上にもつてきた凄い社長です。僕はこの方はなかなか力があると思います。一〇番目は稻葉義治さん、アナツクの社長です。これが今の日本の一〇のトップ経営者になっています。それだけ人間の器が大きいのではないでしょうか。皆さんも是非大きな器の人間になつてもらえたなら有難いと思つています。

最後に申しあげたいのは、人間は、人生と云うのは気持ちの持ち方で変わつて来ます。面白いと思つたら面白い、楽しいと思つたら楽しい。出来ると思つたら出来る、出来ない

と思つたら出来ない。全部自分の心が支配していきます。どういう気持ちで以て仕事をし、どんな気持ちを持って人と接し、どういう気持ちで生きて行くのか、これが大事なのです。特になんか起きた時にどういうことで、その事例で今一番大変なのは、旭化成さんです。ご存知の通り、日本では東芝さんも大変だし、シャープも大変。シャープさんもそうです。私は以前、労働組合の幹部研修をやつたのです。大阪の四条畷に研修センターがあります。何回も行きました。その時は、威張つていたのですね、組合の方が。何を威張つていたのか?判りますか。ナショナル松下電器の幸之助さんの時は、一切首切りなんかなかつたのです。昭和四年の大恐慌の時には、いろんな会社がつぶれたり、従業員の首切つたのです。松下電器も社員は戦々恐々としていたのです。未だ、自転車のランプしか作つていませんから、仕事は工場の草むしりです。うちの

会社も何人か首になるのじやないかといつて社員が非常に心配していた時、幸之助さんが全社員集めました。あの人は子供がいませんからね。君たちは僕の子供なんだよと云つて、子供に苦労させる、子供に心配かける親がいるのかと云つて、一人も首にしないぞと言つたのです。幸之助さんが生きていた時は、あの会社は首にしていません。亡くなつてから變つたぢやないですか。僕は知つているのです。組合の幹部、中国地方の山口県とかの幹部に頼まれて、講演をしたのです。聞いたら実は四〇〇〇人の希望退職をしました。松下電器ね。希望退職を出した人、何人いたと思ひます。一万二〇〇〇人です。3倍の人が辞めると言つたのです、何故だかわかりますか？。松下さんは金を持つていたから、退職金が倍なのです。二〇〇〇万円貴うところ、四〇〇〇万円なのです。残つた方が大変なのです。今まで五人でやつていた仕事を一人で

やらなければならないのです。残つたらとても仕方がないと、一万二〇〇〇人も辞めたのです。しかも、松下電器の社員はレベルが高いから採用する会社は沢山ある訳ですね。そんなことがありました。その時、シャープの方、労働組合の幹部は「シャープは一人も首にしていませんからね」と威張つていたのです。今から一〇年前の話です。それがどうでしょう、ご存知の通り、僕が云わなくとも判りますね。シャープさん今駄目、東芝さんだつてえらいことになつていて。うぬぼれている時が一番危ないので。気持ちが緩むのです。ですから、改革できないのです。

僕はもう一人すごい人を発見したので、皆さん、それは今の日経新聞に出てる葛西さんです。元国鉄のJRの葛西義之さんです。今、日経新聞の私の履歴書に連載しています。国鉄がなぜ、中曾根さんが大臣になつて民間になつたのか、実は彼が黒幕でした。葛西さ

んの履歴書、これをお読みになつた方いらっしゃると思うのですが、国鉄は国労、動労、鉄労とありました。国労が一番強いのです。動労は運転手さん。鉄労は皆施設なんかのグループなのです。国労が一番強いのです。国労の組合が言う通り会社が動いたのです。何か言うと交通機関が止まつてしまつたのです。でも、葛西さんは仙台に行つた時にビシツと言つたのです。そうしたらすぐもうあのやつが来たと云つて、休みを突然どるのですね。何にもない時に三〇人休みますと云つて、届けをだすのです。運転する人がいないじゃないですか。どうしようかと思つたのですね。鉄労は比較的会社に対し協力的だったのです。穩健だったのです。そこのトップの方に電話を掛けたのです。会いたいと、そして「今三〇人お休みの届けが国労からあり、ストライキみたいになつていて。ぜひ変えたい。働かない方にお金は払いたくない。今の

国労これでいいのだろうか、そうじやないだらうか」と云つたら、その熱意に押されて協力してくれたのですね。そこで三〇人の運転手が出たら、国労の休むと云つていた人がみな出てきたのです。他が来ちゃつたら困るでしょう。それで仙台を大改革をした時に、国鉄の本社の管理部が、葛西さんに余り張り切つてやるな!と。そこまでやると国労がストライキを起こしたらどうにもならないだろう」と云われた。でも私はやりますと葛西さんは給料を止めたのです。働かない人にはお金は払らいません。徹底してやつたのですね。本社が何を云つても余裕を持つてやつた。仙台がおかしくなつてしまふと、国労の方もおかしくなつて、国労の本部の方も、あいつは、あいつはと云つていていたのです。それで改革していくのですね。民営化したのは中曾根さんの時、真剣になつて止めたのは彼でした。読んでいて裏が良く解りました。昔の

国鉄は判りますでしょ！。赤字で全部国が負担してきたのです。それから改革が始まりました。そして民営化になって、それから黒字じやないですか、全部。なぜ？ですか。意識が変わったからです。意識が変わったからこうなつたのです。問題はここなのです。僕はそうおもいます。心が変わると人生も変わるということです。

最後になりますが、最近、僕はこの本の中で書いておりますが、心に響く五つの物語についてお話し申します。僕はこれをよく朗読するのです。何が大事かと云いますと、感性が一番大事なのです。わかります？。喜びは、分かち与えることによつて倍になるのです。子供が生まれたら、おめでとう良かつたねエ。結婚したら良かつたねエ。おめでとう。喜びを伝えるので、相手も喜ぶから倍になるのです。悲しみは分かち与えることによつて半分になる。辛い事や何かあつた時、他人に

話すだけで、気持ちがある程度軽くなりませんか。これなのですね、そういう感性があるかないかの問題、それによつて人は付いてくるかこないか決まつてしまします。このあいだ東京で僕がスペシャルゲストスピーカーを務めた時に、二五〇名の方が来ました。八割が僕のファンです。有難いぢやないですか。これを朗読して終わりたいと思います。テーマは縁を活かす。目をとじて頂きましょう。

「その先生が五年生の担任になつた時、一人で服装の学生でだらしなくどうしても好きになれない少年がいた。習慣記録に先生は少年の悪いところばかりを記入するようになつた。ある時少年の一年生からの記録が職員室で目にとまつた。ほがらかで、友達が好きで、人にも親切、勉強も良く出来て、将来が楽しみだ。いやそんなことはない、これはほかの子の記録に違ひない。先生はそう思つた。一年生になると母親が病氣で世話をしな

くてはならず、時々遅刻すると書かれてあつた。三年生では母親の病気が悪くなり、疲れていて教室で居眠りをする。三年生の後半の記録には母が死亡、希望を失い悲しんでいるとあり、四年生になると父は生きる意欲を失いアルコール依存症になり、子供に暴力をふるう。先生の胸に激しい痛みが発した。駄目だと決めつけていた子は突然深い悲しみを生き抜いている生身の人間として、自分の前に立ち現わされて来たのだ。先生にとつては目を開かれた瞬間である。放課後、先生は少年に声を掛けた。先生は夕方まで教室で仕事をするから、あなたは勉強していかない？ 判らないところは教えてあげるよ。少年は初めて笑顔を見せた。それから毎日少年は教室の自分の机で予習・復習を熱心に続けた。授業で少年は始めて「はい」と手を挙げた時に先生に大きな喜びがわき上がった。少年は自信を持ち始めていた。クリスマスの頃だった。少

年は小さな包みを先生に押し付けて來た。後で開けてみると香水の瓶だつた。多分、亡くなつたお母さんが使つていたものに違ひない。先生はその一滴を身体につけて、夕暮れに少年の家を訪ねた。殺伐とした部屋で一人本を読んでいた少年は氣が付くと飛んできて、「先生」先生の胸に顔をうずめて叫んだ。

「あつ。お母さんの匂い。今日は素敵なクリスマスだ。」六年生では先生は少年の担任ではなくなつた。五年生の時の一 年間だけだったのですね。卒業の時、先生に少年から一枚のカードが届いた。「先生は僕のお母さんの様です。そして、今まで出会つた中で一番素晴らしい先生でした。」それから六年、又カードが届いた。「明日は高校の卒業式です。僕は五年生で、先生に担当してもらつて、とても幸せでした。おかげで、奨学金をもらつて、医学部に進学することができます。」一年経て、又カードが来た。そこには先生と

出会つてきた感謝と父親に叩かれた辛い思いがあるから、患者の痛みが判る医者になれる記されて、こう占めくられていた。僕はよく五年生の時の先生を思い出します。あのまま駄目になつてしまふ僕を救つて下さった先生を神様のように感じます。大人になり、医者になつた僕にとつて最高の先生は五年生の時に担任して下さつた先生なんです。で、そして一年。これ最後ですね。届いたカードは結婚式の招待状だつた。「母の席に座つて下さい。」一行書き添えられてあつた。たつた一年間の担任先生の縁、その縁に少年は無限の光を得、それをよりどころとし、それから的人生を生きた。ここに少年の素晴らしさがある。人は誰でも無数の縁の中で生きている。無数の縁に育まれ、人はその人生を開花させていく。大事なのは与えられた縁をどう生きかすかである。」

今回は佐々木理事長のご厚意で話をさせて頂きました。これも縁じやないですか。今日あたりも皆様と会えたのは縁じやないですか。そんな意味で縁を大事に、人生今しかないじやないですか。出会いとすれば、明日の命の保証がないと云うことはお茶の極意としては出ているのです。三月一一日、もう四年たちました。東北の大震災、二万人位の方がなくなりました。行方不明者は二千人以上います。どうなつているか判りません。明日のことは分りません。今日一日をいろんなことを充実させて頂きますと有難いなと思います。有難う御座いました。

新春のご挨拶

日本中小企業団体連盟

佐々木誠吾

新春を寿ぎ、各位のご健勝と弥栄をお祈り申し上げ、併せてご貴台の事業の発展を祈念申し上げます。

昨年は、安倍政権の強力な経済財政政策の推進と、日銀の異次元の金融緩和政策の推進によつて、概ね順調な景気回復の道をたどる

ことができました。東京株式市場に上場する企業の70%以上が、前年比プラスの増益を決算に反映することができ、着実な景気回復を図ることができたことは、デフレ状況から経済が脱却した証左であります。企業の好決算の発表と、勤労者諸君の賃金上昇もあり、消費需要を喚起する機運につながっております。

こうした傾向が、今年は更に強くなつて、

目指す物価上昇2%が現実味を帯び、有効需要の上昇が設備投資の増加につながることが期待されます。我々事業経営者としての強い要望でもあり、経済の拡大が切に期待される以所であります。国際経済の状況を大観しますと、国によつては明暗が分かれております。特に中国経済の動向が懸念されるところですが、中央政府の賢明な経済財政政策の運用を以て、回復の道が拓がれることを期待しております。

一方で、アメリカ経済の好調、強力な回復の足どりには心強いものがあります。それが世界経済の牽引力となつて、景気低迷の新興国経済に、良好な影響を及ぼすことに、大きく期待しています。又、TPPの合意成立など、諸国間の貿易拡大に及んで、世界市場を健全なものとしていく試金石にも期待するところです。

こうした内外の状況を大観しつつ、わが中

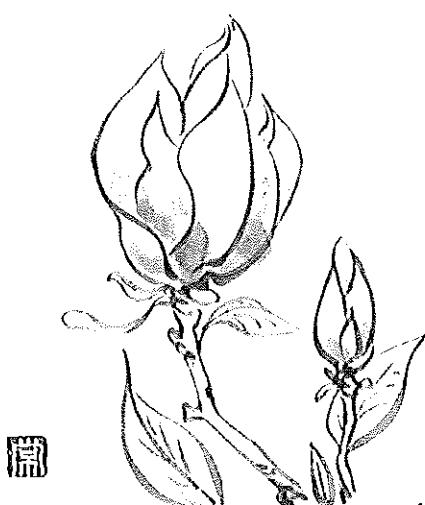
小企業団体連盟は、昨年に引き続き、中小企業育成の為に大いに尽力して参る所存であります。次に、事務局による活動の具体例を若干申し述べることといたします。

(中略)

中小企業と云えども、基本的経営モデルと理念は大企業と何ら變るところがありません。常に企業家精神を發揮し、創意工夫と自己研磨に努力し、苦難に打ち克つ精神が必定であります。

経営の合理化を、常に念頭に置き、競争力を付けて、市場に立ち向つてゆかなければなりません。

本年も各位の倍旧のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げ、中小企業団体連盟の職責を全うするべく努力精進して参る所存であります。



作品 関根常雄

昭 経 俳 壇

三 郎

知らぬ間に顔だす青き露のとう
和らきし寒さの朝のふきのとう
ほろにがきみそしるの味露のとう
相性の良きみそ汁に露のとう
でんがくに薬味をそえてふきのとう
いつか又会えると思えば梅見月
前髪の花の香りいとほしき

仏壇に菜の花の色 黄金色

大根もふたまた待乳山聖天
浅草にかかるおぼろの春の月
浅草の芸者千秋と末の春
髪染めし社日の友と誘ひけり
思惑は美しかりけり花の女
一番茶和菓子も添えて父と母

京 子

冬の日を領けあつて いる畠野菜

隅田川尾形の舟のおぼろ月

暁きのしじま霏霏とし雪積もる
部屋一杯冬日の届く淨土かな
電線に鴉かたまる寒九かな
ひとりでに開く掌冬ぬくし
とびとびに穴を残して大根ひく
麦踏みも機械たよりとなる世かな
北国を思へば何のこの寒さ
屋根よりの氷柱三寸久に見し

どんぐり

春さなか句友の悟風去りにけり
梅ひらき悟風の逝きし風のごと
山桜薄桃色や悟風逝く
師と覚ゆ句友失ひ寒月見
失ひし句友のふたり寒月見
山人

風船をとばす青天の広さかな
青空に赤き風船放ちけり
子供らと歎声に乗り赤風船
帆を張りて渡しの舟に春の風
矢切より渡しに乗りて花の先
初鏡意氣軒高の我れの顔
初鏡妻立つあとに我も居て
ひとり詠む俳句連載春芝居

初鏡妻の化粧の浅きかな

長谷川

初詣面立ちもよし三面鏡
手を合わす先につがひの鳩がいて
一茎の水仙庭の隅に立つ

富貴男

噴火する冬空高き桜島
古里は花の頃かも桜島
火の山のほるまとなりし花島
鹿児島を発つ船に乗る春の旅
若草にはねる子馬や都井岬
火の山の海にも噴きて春の波
古里の芙美子の碑にも春の雪
春の雪花の命の碑のあはれ

御無沙汰に年取る友の年賀かな
寒中の見舞いに訃報の遺族より
今青年昔我鬼大将の年賀かな
水仙や小夜の月光にもりんと立つ
去年よりも今年を前に夢多き
去年を蹴り今年飛躍の意氣あらた
読み物のなき我が部屋に淑気充ち
今朝仰ぐ富士の高嶺の淑氣かな
春泥の早や遠かりし思ひ出に
春泥を歩るく校舎へ日のかぎる
波音の悲しき鮫鱗吊し切り
寒々し床にはみ出す魔女の足

三郎が踊る句

粕汁やアベノミクスの正念場
バズーカ砲荒れる市場の寒波来る
異次元のポリシー荒れて冬嵐
強欲の有象無象の春相場
どうなれと株の急落春一番
猪なべや鉄砲撃ちの見せどころ
どうにでもなれと新春株相場
梅一輪平和日本の香りかな
豚汁やマツコのようなおんな女かな
爆買いに走る春節銀座街
北鮮の核実験に熊怒る
北鮮の人工衛星冬の陣

スマホ見る世界株安鮫鱈鍋
狼藉の人工衛星冬銀河
流鏑馬や地上のISに的を射て
ISが各地に暴れ虎落笛
ISの沙汰の鮫鱈吊るし切り
熊突きやIS潜伏先の穴
湯気立ててこもる番屋のひとり酒
どうにでも株急落や鮫鱈鍋
大根も二股待乳山聖天
岡目づら春を装ふ厚化粧
大荒れの株式相場春一番

地球温暖化の問題

ところで日本に来て爆買いに走る中国の人を見ながら、その購買意欲に驚くが、今の中国の事情がよくわからないというのが昨日の印象である。評論家たちの意見も大きく分かれている。中国が右に行くか左に行くか、前に進むのか後に後退するのか、はてさて一つにまとまるのか、人々に壊れてしまうのかといった具合で、見方は沢山あって諸説様々である。余りにも大きすぎて桁違いである。

中央政府の力が及ばないところもあつたりして、人口の把握すらおぼつかない。三〇数年前に私が団長を務めて、經濟使節団を組んで北京を訪問して政府高官と歓談したことある。その頃の中国の人口はざつと九億七〇〇〇万人と説明されていた。最近は十三億人と推定されてここしばらくすぎていたが、

日本では考えられないおおらかさである。日本では一名の数すら漏れなく把握し、統計上正確に発表されている。息が詰まるくらいである。これからはマイナンバー制が施行されるからなおさらである。治安が安定して自慢の国であるが、それでも警察の調べによるとこんな狭い日本でも、行方不明者がかなりいるという話だから、何とも言えない。

地球温暖化が知られて久しいが、これからは人間はもとよりの話、生物そのものの生存の可否ではなく、膨大と思われる中国を含めといつた問題意識ではなく、このでかい地球そのものの生存が危ぶまれてきているということで、先行きが深刻な状況であり、心配な事案である。産業革命を経ていくらもた

つていなない間に、斯くも深刻な環境汚染が進み、特に大気汚染が化石燃料の焚き付けで悪化が進んでいるというので、これをいかに食い止めて行くかが大きな課題となっている。

大気圏の変調が地球上の気象状況を変化せしめ、地球規模の異常気象となつて、それが各地に大災害を既に起こしている現状である。その象徴的なのが中国の北京の空の汚染である。それはもはや地球自体が病的であり危険なことへの警鐘である。そこで先般、COP21国際会議が開かれて、二酸化炭素の排出削減に向かつて世界の足並みが一致したことは大きな成果であり、遅きに逸する感もあるが、人類にとって喜ばしい限りである。地味で長い活動が期待されるが、アメリカ、中国が世界に足並みをそろえて参加したこととは大きな前進であった。オバマと習近平の英断を評価したい。考えてみれば、誠に不幸な事態である。温暖化によつてレベルの

低い南海地域の島々では、島そのものが水没して生活の場を失つてゐるという実態であるから、その影響は深刻であり、速いスピードで襲つてゐることになる。

安倍さんが経済回復に懸命になつて、次第にその好影響が現れてきていることは喜ばしい。矢継ぎ早に政策が打ち出されている感じである。これは官僚諸君がやる気を起こしてきた結果である。得てして日本には官僚たちの風潮があつて、良いこともあるが、悪い結果を引き起こしていることもある。政権の運営は、官僚諸君の腕にかかるといつても過言ではない。優秀な官僚諸君の知能を十分に駆使していくつて、国民のために大いに働いてもらいたいものである。景気回復によって企業の業績向上を背景に、税収の回復状況も好調に推移している。国の借金返済にこれが使われていく循環が、持続的になつていくことが、今や国家存立の必須条件となつ

てきている。とくに財政再建の問題を考える

降誕節

と、悠長なことを云つてもいられないが、我が国は国家予算がいまだどうしても年々増加傾向を脱しきれないでいるが、国民の税金が国民のために真に有効に使われるよう、常に注意喚起してもらいたい。それが経済成長の基本であり、起爆剤となつて地方経済の活性化につながつていき、一億総活躍社会の実現となつていくのである。

十二月十八日

十一月二十九日の降誕節に一本目のローソクに灯がとともにされてから、今日のクリスマス礼拝には四本目のローソクに灯がともされた。そして、この日に私たちは一人の受洗者を授かつた。会堂にはハーレルヤーの声が響き、洗礼を受けた姉妹を前にして、心から主のみ名を賛美し祝福した。病と絶望の淵に会つた姉妹は、ある日のこと教会を訪れた。たまたま受付をしていた家内が親しく会し、体の不自由な彼女の手を取つて、やさしく言葉をかけながら会堂に案内して差し上げた。それ以来、彼女は不自由な身を以て教会に足を運ぶようになった。私の留守中であつたが、家内は彼女を拙宅に招いて、お茶を飲みながら歓談するまでになつた。まだ若い感じの彼女だが、閉ざされていた心が開いていった。そして一年が過ぎた。教会を訪ねた彼女は、漠然とした思いで何かの救いを求めていた

に違いない。聖書の御言葉に触れて、次第に信仰心を深めて行つた。そして今日、私は彼女の受洗のことを知らされた。

都内の有名大学を出て就職した彼女は、数年後に職場の男性と結婚して幸せな毎日を送っていたが、夫が病気を患つて亡くなつてしまつた後、毎日が悲観に暮れる生活となつた。ついにはストレスが昂じて病に伏すようになつてしまつた。苦しい何年かが過ぎて行つたに違いない。そうした時に偶然にも、十字架のキリストとの素晴らしい出会いが起きたのである。神と共に歩む道に、迷いのないことを悟つた彼女は、自分に自信を以て感謝の日々を過ごすことの大切さを知ったのである。罪を許す神の愛の道に気づいたのであつた。おりしもクリスマスの近づく今日の良き日に、彼女は神のしもべとして、清かな主のいざないに愛の道を主と共に歩むことになつたのである。闇の世界にうずもれ

ていた彼女の苦悩の生活に、一縷の光が差し込んで、光明に瞬く将来の道を掴んで歩む決心がついたのである。歩き始めた彼女に笑顔が浮かんで、洗礼を受けた後に、自からの信仰告白を切実に語つたのである。それは彼女が生きる力と希望を得て力強く、胸を打つものであつた。我々も又触発されて、人生の苦難に耐えて真実一路の道を突き進む思いを新たにしたのである。そうした信念こそ毎日の精進と修行を積みながら、現実的活動の推進力となつて、隣人愛の發揮にもつながつていくものであると確信したのである。

この日の礼拝は、牧師が聖書のイザヤ書七章十五節を開いて朗読し、「あなたのためのクリスマス」と題して説教を為された。クリスマスが近づいて今朝の礼拝では四本目のローソクに灯がともされたが、二日後イブ礼拝では祭壇に置かれたすべてのローソクに灯がともされて、この世に愛と平和を備えて

降誕節

くれるキリストの降誕を喜び祝うことになる。礼拝堂に集う諸人の願いを込めて、それが掲げるローソクに灯がともされて、喜びと祝福に会堂があふれる瞬間を迎えることだろう。同時に全世界にも同じ願いを込めた礼拝が始まる。愛と平和と光を求める人々の願いが全世界で行われ、ここ教会に集う善男善女の、それぞれの心のうちに熱い願いとして凝縮されるのである。

この日に洗礼を受けた女性に対して、私は次のような和歌を詠んで彼女を祝福し、愛餐会の席でそっと彼女に手渡したのである。彼女はうれしさをこみあげて私に言つた。

「今、お詠みになつたのですか」と。勿論、

ホントそのものでと私はつぶやくように

言つた。きれいな笑みが彼女の顔に広がつていつたのである。

十二月二十日

わが妹が歌ふ贊美の清らかにみ堂にひびく
降誕の夜
大君のとこしえに榮へ世の道を広く照らして導きにけり
十字架をあほぎてみ業かしこと願いを込めて祈りけるかな
人影のなきみ堂にて十字架にわれが願ひを打ち明かしけり
十字架に立ちひたすらに乞ひねがふ我がうちなる願ひみたせや
みどりごのかいばの桶に眠れるをもろびとたちの笑みて見入りぬ

受洗を祝ふ

主とともに歩む汝が身に迷ひなし愛と光の
この道をゆく

洗礼を受ける花咲裕子姉に愛と光と恵みさずかる

穏やかな冬の日差しにキリストと共に姉妹

の歩むこの日ゆ

洗礼を受くる姉妹に末永く愛とひかりの道

を備へん

裕子姉が洗礼を受けおこそかに喜び祝ふこ

の日めでたき

あきらかに神のしもべとなりぬ姉の誓ひも

堅くこの日ほむべき

絶望の淵より神のみ言葉を得てよみがえる

裕子姉妹は

祭壇に様々な花みたされて香りゆたかに匂

ふ今朝かな

思ひ出をたどれば悲し人生のイエスにあえ

て樂し日々なり

清らかな主のいざなひに恵まれて姉妹の受

洗を充たす祈りに

山の辺をさすらひ来れば明け初めの空ほの
ぼのと陽にゆらぎけり
くれないの色のあざけし明け初めの富士の

高嶺にひかりさしたり

満天の星

満天のきらめく星を仰ぎみてこの法界に神
のまします

さざ波の打ち寄す天の川あたり天女が集い
遊び舞ひけり

オリオンの輝く型に神々の姿を合はせ描く

冬の夜

限りなき冬の夜空にちりばめて真砂の星に

我を忘れし

億兆の無数の星に覆はれしこの法界に我ひ

とり立つ

如何に立つこの法界に我ひとり無限の空に

意識放ちて

旅愁

登りきて妻と峠に立ちて見るまなかの富士
の朝焼けのころ

宇宙より眺むる地球はビー珠と光り映りて
闇を飛ぶなり

瑠璃色に光る地球は美しく闇の世界に謎め
き浮かぶ

植木師の手入れも済みて松の葉の長閑にそ
ろひめでたかりけり

くる年を迎ふる庭に雀らの餌を欲しがりて
手にも触れる
刈りこみし植木のあと晴れ晴れと空を見
通し望みわき来る

十一月二十一日

木守の柿

鮮やかに光るわが家の木守柿家の栄へに光
るめでたき

風絶えて冬の日差しの穏やかに照る木まも
りにわが家ありしも

木まもりの柿の実あかく青空に高く映りて
めでたかりけり

庭に立ち妻と見上げる柿ひとつ今日もめで
たく赤くひかれり

木守柿かくやあるべし艶やかに小春日和の
日に一つのみ

クリスマスイブ礼拝

クリスマスイブ礼拝に出席して帰宅したところである。仕事をこなして慌ててオフィスを出たが、七時からの礼拝に間に合うかどうか心配であった。昨年の夏二回にわたって胃の手術を行つた小生にとって遅い食事が体に悪いので、いつも夕食を早めに済ませることにしている。早めに取ると云つても普通の家庭と同じであるが、二十分、三十分の差が大きい気がしている。行儀が悪いが、夜道のことゆえ人目につかぬと思って、自由が丘駅に着いて寿司の詰め合わせを買って歩きながら食べて行くことにした。駅の周辺には沢山のお店があるが、落ち着いて食事をとつていると時間に遅れてしまうかもしれないと思ったのである。店で食事をとつたりしていると時間に間に合わないことが分かつていたので、合理的に行動した。ほぼ食べ終えて教会の玄関についたら、家内が皆と一緒に

会衆の人たちの受け案内をしていた。小生が寿司の入ったパックを手に持つているので笑っていたが、メリークリスマスと大きな声を上げて挨拶したので、遠慮勝ちにしていた人たちが笑みを湛えてメリークリスマスと呼応してくれていた。元気で賛美に応じあうこととは、素晴らしいことである。七時に教会の鐘が鳴った。その時は既に礼拝堂にいて、私は前の方の席に座っていた。心を静めてしばらく黙想していたが、しばらくしておごそかに楽想が響いて礼拝が始まった。終始、聖夜の厳肅な漂いに満つていた。そしてローテンクに灯をともし、大きな口を開けていくつかの懐かしい、清らかな讃美歌を心から歌つてきた。ナザレの鄙びた宿のひと隅に劇的に起きた出来事を物語るときが過ぎて行つた。貧しい飼い葉おけの藁にくるまって、安らかに眠るイエスの誕生である。神はこの世を愛するほどに、自らの御子をこの世に遣わされた

瞬間である。平和の使者であり、人類を救済してやまぬ実践者である。その御子誕生を祝うために、私は今夜教会を訪ねて世界の平和を誓い祈つたのである。その気持ちを大いにあらわして、讃美歌を心行くまで歌い上げて、気持ちがすつきりしたのである。同時に私は又、平和と栄えを念じつつ、こまごまとした願い事をイエスのみ名を通して全知全能の神様の前に捧げてきた次第である。

クリスマスイブ礼拝に賛美する聖きこの夜

を歌ふ妻なり

ローソクをともし聖しこの夜を喜び歌ふ主
と共にゐて

この世にそ平和を恵み給ふ主を迎へて讃ふ
調べひびけり

諸人のこぞりて歌う讃美歌にみな美しく見
える聖夜に

車で妻と帰途に就く時、同じく教会に奉仕する中山姉妹を等々力駅近くの自宅に送つて、九時近くに家に着いた。例年迎えるクリスマスのイブ礼拝の記憶には、寒い風が吹く夜を連想するが、今夜は比較的温かい夜を過ごすことが出来て、幸いであった。風呂に入浴前に夕刊紙を読んでみると、ふとまた考えることがあったので、世俗の凡庸に戻つてしまつが、忘れないうちに書きとどめようと思つてパソコンの前に就いた次第である。

仕事納めの二十八日

安倍政権が復活してこの二二六日で三年が経過する。自らの経済政策、アベノミクスを掲げて経済最優先経、経財復活に取り組んできたが、その間、いろいろな問題処理を抱えながらも矢継ぎ早に斬新な政策を発表し、実行し、責務を果し顕著な経済回復を導いてきたことは、大きな業績、功績である。二〇一六年の予算編成を終えて、国と地方を合わせた税収が、民主党政権時代の十二年から比較して約二十一兆円増える見通しである。民間経済が確実に回復してきている証左であつて、「一生懸命働く安倍内閣」と云つてやつてもいいくらいである。トップセールスマントを自認して東奔西走する安倍さんを見て、倍さんの一人舞台の印象だが、先ずは安定した政権運営について、更には国民経済を良好な状況に導いて行つてもらいたいと思う。大

企業から中小企業へと、経済の波及効果を以て広く裾野をひろげていって、一億総活躍社会の姿に描いてもらいたいと期待している。それには我々もそうだが、ほかの政治家諸君ももつと現実的に、有効的に働いてもらいたいと思うのである。有能な官僚諸君たちも、実力の發揮すべき時である。今日は一年の締めくくりにあたる日でもあり、多くが仕事納めの日である。世の中にはいろいろの見方や、意見や、不満もあるのは当然のことながら、政官財一致協力して内外の困難を克服し、以て世界に冠たる経済国家、民主主義国家、平和国家、福祉国家として名をあげ、世界に呼びかけて範と為す努力を發揮していくべきである。それが日本が理想として掲げる公平無私、平和で健全な、云うところの日本版、一億総活躍社会の実現への道である。

来年こそは平和で希望にみちあふれた一年になるように念願しているし、私自身はも

とよりながら、おのの方が、新たな希望を以て力強く前進していかれることを切望し、

益々のご健勝を祈念申し上げる次第である。

平和な世界の実現を祈りつつ。

十一月三十日

ゆく年くる年

去年今年過ぎて光陰矢の如し時を惜しみて

学びゆくなり

秋ちゃんのひとりわが家に学び来て髪の結

びの乙女なりけり

ゆく年とくる年も又まじかなり除夜の鐘き

きさかひ待つなり

来る年は夢と希望にみちあふれ心身ともに

強く歩まむ

来る年を夢と希望を充たし行く仕事をなし

て務めはたさむ

大いなる神のご加護に我は行く力尽くして

先を進まん

来る年の希望に満ちて鐘をうつ根本中堂の峰にひびけり

新年を寿ぎ告げるアナウンサーのテレビに

映る顔美しき

N H K 紅白歌合戦の慣れぬ歌さまざまありてただ喧しき

今様の語り口調の味気なき歌に聞き飽き局を変えけり

単調なリズムに語り口調の詩昔の歌の味わい深き

今やふの喧騒の曲それなりに世相を映しはやる故かも

N H K 紅白歌の視聴率過去最低を記しけるとも

局ばなれN H K 離れやむなきに故を探らずノ一 天氣なり

満天の星を仰ぎて新年の夢と希望を果たし給へと

庭に立ち満天の星を仰ぎ見て我が安寧の世
を祈りけり

はらからと共に心身健やかに新玉の世を寿
ぎにけり

新玉の年をまじかに紅白の歌の競ひに奮い
立つなり

ゆく年を思ひつ聞きぬ鐘の音を永平寺の夜
の澄みていくなり

心より祈りを込めて鐘をうつ音の法界に響
き行くかな

森深き伊勢神宮より鐘の音の厳かに沁み身
を浄めけり

東北の被災地より被災地の模様を伝ふ除夜
の鐘かな

鐘の音の夜のしじまをつきて聞く世の太平
をひ祈りつ

国宝に指定されたる松江城その金をうつ街
の人らよ

天台宗總本山の延暦寺鬼を払へる除夜の行
事に

傘寿にて日野原先生と相まみしナザレン教
会の講話での席

百三歳日野原先生のかくしやくと心身とも
に現場にてあり

我もまたそれに習ひて働く貧しき人のた
めを思ひつ

青春の思いはおぼろ影に透けたぐりでみら
ば明きらけきかな

大晦日くるるみそらに入日さし翳りも淡し
今し消へゆく

街なかを行き交ふ人の大らかに過ごして見
えりこの年の暮

謹賀新春の便り

紺青の空ほのぼのと明けそめて初日の出に光るまほろば

会員各位の益々のご健康を祈りつつ、今年もよろしく、ご支援の程お願いいたします。

平成二十八年元旦

理事長 佐々木誠吾

元日は、予想通り早朝の金色に輝く、大きな初日の出を拝むことが出来た。今年の新年

早々から、こうした目出度いことは日本列島の津々浦々にかけて経験することが出来たもので、これほどまでたく皆が一様に新春を寿ぐことが出来たことは珍しい。そして終日、

真澄に広がる大空に恵まれ、穏やかな正月の始まりであった。朝早く、近くの多摩川の堤

に立つと、全天空が、一点の雲の無き真澄の世界の展開である。はるか遠くを眺めると、紫色に染まる箱根、相模の連山の中に、ひときわ優れて高く聳える初富士の影が神々しく眺められた。空も、山も、海も朗々と明け始めた、一年の始まりである。初日の出は日本のことでも見られたことになる。人々の氣力も充分、大いに気概を發揮して、この一年に臨みたい。そして初志貫徹の姿勢を貫いて、神は常に邪な偽善者を排除し、真面目な勤労者を以てことに臨むに、「神のなす」とは万事を良しとし、益と為す」の信念を以て、勇敢に進んで行くことを希望している。

昭和経済会は、この年を公私共々、進取の精神を發揮し、あらゆる困難を克服し、激浪を乗り越えて経済に立ち向かっていかなければならぬと氣を引き締めて向かう所存である。そして平和で安寧な毎日の年であるよう希望することを切に願つてゐるところ

である。日本の内外の情勢は流動的であり、予断を許さぬ状況であるが、一方では TPP をはじめとする経済連携が示すように、グローバル経済の規模は着実に広がりを見せて、国際化の波は日本にとってむしろ追い風になつてゐる。千載一遇の好機と見て、各位には創意工夫して果敢にチャレンジ精神を發揮していって貰いたいと念願している。

朗々として爽やかに明けた新年にあたり、各位各様の抱負を以て日々の活動に精進していかれることを目出たく願う次第である。今年の新春は、日本列島が概ね同じような雰囲気で各位が過ごされたものと思つてゐる。新年の挨拶に臨んで、各位のご健康と弥栄を心から祈念する次第である。

尚、蛇足ながら、私は長きに亘り昭和経済の執筆を授かつて拙文を乗せてきてゐるが、当意即妙を以て現実に臨み眞実に迫る姿勢に、多くの読者から多大な好意を以て愛読さ

れていることを十分感謝している。又、縁あつて十年前に短歌同人誌・淵を主宰する立場にある。淵は、日本が生んだ大歌人、会津八一の系譜を継いで愛弟子の早稲田大学名譽教授、文学博士の植田重雄教授が創刊された高名な短歌同人誌で、半世紀の歴史を持つてゐる。不肖も和歌については、ことのほか独自の境地を開いてきたつもりでいるが、我流である故、独自の作品については全責任を以て自由奔放に詠んでゐるところである。自分に実直に過ぎて、且つ自然に詠んでゐる気持の中に、楽しみと喜びが同時に湧いてくるので、私にとつて和歌のもたらす効能はそこに尽きると単純に思つてゐる。何も難しく考えることはない。それは創刊者の植田重雄教授の和歌を詠む基本的な思想、信念でもあることから大いに共感を得、自信を深め、務めを覚えている。和歌は、自由闊達に詠むことを旨として、自ら精進に励み、人間性の陶冶に努

めるものと理解するゆえんである。

和歌は己の精進、修業から生まれ出るものであり、その点が共感を呼んで愛読される人が居らっしやるので、豪胆に、時には花鳥風月をはじめとして繊細優美に、人情もの、そして時事性も加味して広く経済、政治にまで

踏み込んで気持ちを詠むことがたびたびで

ある。一首には時にして小説以上の意味合いの深さを以て詠まれてくるときがあると、尊

敬するさる先達が申して居られたが、意味深長性が反って興趣を呼び覚ましてくるので

ある。日本の伝統と美意識を守りながら、万葉集の詠み人にも勝る現代の大歌人を輩出させたいと、以て日本文化の高揚にと、同時に願つてゐる。そこで厚かましく元旦を迎えた心境を、ある時には間接的に、ある時には直接的に詠んだものを載せることにしたので、しばらくお許し願いたい。俳句については昭和經濟の昭経俳壇の三郎、どんぐりの名

は、不肖の俳句の雅号である」とも付記いたしておきたいと思う。そうしたこと述べたりすると、昭経俳壇の選者をしてくださつた、今は亡き清水溪子氏や、元学院時代の遠藤蘆穂先生を懐かしく思い出すのである。

元旦

初日の出

元旦の空朗らかに明け初めてこのまほろばに輝きわたる

大らかに明け初めにけるひむがしの今しそ日の昇りつつあり

紺青の空ほのぼのと明け初めて初の日の出に光るまほろば

有明のそらあざやかに明け初めて初の日の出に光る富士かな

紺碧の空に差しいる天つ日の輝き渡る初春の空

初の日に恵み溢る幸ひの輝き渡るうましまほろば
天つ日の輝き光る初春の富士が高嶺の綾かなる朝

筑波値嶺を黒く仕分けて紅色の初日昇りつ
火の粉ちらせり

神々の宿る筑波の嶺高く縁を削りつ初日昇
り来

東国の豊饒の地を良く治めこし筑波の山ゆ
昇る初の日

初春の真澄の空に恵まれて我が家族らの笑
みて集い来

元旦に我ら家族ら打ち揃ひ玉川神社に初も
うでけり

玉川のやしろの古きクスノキに触れ願いご
と秘めて祈れり

神妙に鳥居をくぐり境内に初の詣でに参り
けるかな

境内の楠の巨木の幹に触れ我が願いごと
秘めて祈れり

幹回り二十尺とも思えしか根元のこぶとも
思い違へる

初春の玉川神社の楠の木に神おごそかに居
ます覚へり

元旦に我らはらから集まりて良き新年を寿
ぎにけり

雲ひとつなく元旦のおおぞらの隈なき果て
に希望湧き出づ

紺青の空のゆらぎて初ひかり錦となりて織
りそめにけり

あでやかな光を放ち大空に今し初日の輝き
わたる

大空の限なく晴れて星ひとつ西方にあり初
日の出に

うぐひす

うぐひすの初鳴き高くこの朝の確かに春は
この日きにけり

鶯のひと鳴き高く鳴きこみていづくともな
く飛び去りにけり

春きぬと人のうわさに逆らひて鶯の声いま
だ聞かずと

柿山の煎餅菓子に茶を立ててなほ鶯の鳴く
を聞くかな

打ち出でてみれば初音の清らかに聞く富士

の嶺の白雪のあと

芦ノ湖の岸辺に立ちて松枝ごし山なみ高く

望む初富士

年明けの空朗らかに照り染めて心置きなく
春は暮れけり

元旦の夜空に光るオリオンのいつに変わら
ぬ君がかがやき

良く聞けば法華經とも啼くうぐひすのその
鳴き合ひの不思議なるかな

オリオンの星座に神のみ姿を描きて己が思
いひつづれり

日当たりの良き裏畑に蒔きし菜の育ちて抜
けば赤きカブなり

一生に一度と思ふ損害をくぐりて抜けし去
年の我なり

梅が枝に春まだ来ぬと鶯の鳴かずに止まぬ
花の咲くまで

うぐひすの影いづくともまぼろしの訪ねて
鳴かず枝に止まれる

うぐひすの後にメジロの家族来て仲間に入
りて遊びけるらし

さすらいの旅先に鳴くうぐひすの声おちこ
ちに重なりて聞く

静かなる山里にきて賑はひて朗らかにきく
鶯の声

うぐひすの声の遮るものもなくしじまを衝
きぬ高原(たかはら)の空

うぐひすの春まだ来ぬと鳴かずいて梅が小
枝に待つはいとほし

せせらぎの林の奥ゆかそけきにしじまを破
る鶯の声

谷川のとどろく音にうぐひすの高なきしつ
つ谷を渡れり

ウグイスのしばらく聞きておもむろに高な
きて行く遠きたかはら

笛藪に飛び交ふ鳥のかげひとつ鮮やかに見
し春を告ぐとり

今年また訪ねてきたりうぐひすのまだなか
ずとも影のいとほし

梅が芽のほころび咲きて匂ふれば時にあは
せて鳴くやうぐひす

あな嬉し聞く鶯の初鳴きに静かに出でし藪
の裏木戸

ささやぶに差し入る朝の陽のかげにかすか
に動くうぐひすの影

新たなる道を求めて去年のこと埋めあわせ
むと念ずこの年

次々と心に描く良き策の新たにあればこれ
を活かさむ

待ちわびる心も良きやうぐひすの影にいつ
鳴く時とはかれり

初鳴きのその束の間も類ひなき美しく聞く
うぐひすの声

初鳴きの力こもりてうぐひすの後づかず
にあるもゆかしき

初鳴きに家内と耳を立てて聞く裏藪あさき
場所にをるらし

初鳴きに家内と耳をそば立てて裏藪浅きそ
こと云ひつ

庭畑に大根、春菊、小松菜と背丈そろへて皆
そだちをり

縁側のそばの雑木を刈り払ひ明るく広げ憩
ふ場とせむ

木の幹の間に身を置きて縁側にひとり座りて黙しけるかな

一月二一日

波乱含みの年明け

新年幕開け早々から、世界の情勢は波乱含みの様相である。経済的には依然として原油価格が急落したままで年を越し、これが直接、間接に世界経済に暗い影を落としているし、同時に政治情勢の様相をも暗くしている。世界の経済的動向と中国の様相が大きく影響して、株価が昨年来大きく下げてきている。

アメリカの利上げ決定がじわりじわりと効いてきて、金融と物流の世界的動きに大きく跳ね返つてくることも懸念すべき大きな点である。それが原因で関係各国の利害関係を一層複雑にしている。今世紀日入つてからインターネットの爆発的な普及で、世界の同時性、同一性、單一性、共通性が進んでいくと

思われる最中に、逆進的な現象と傾向が著しく見受けられてくる世界の様相である。価値観の共通性を含めて、人類が基本的に正しい原理原則を打ち立てて行くと思われたのがそうではなくて、聊か矛盾した展開で戸惑ってしまうほどである。過敏に、過剰に反応しそぎて人間の正常な思考、判断、行動が作動しない姿が目に見えてくる気がする。逆に焦燥、猜疑、懷疑、不信、対立、抗争、暴力が代わって台頭するような人間社会は困ったものである。こうした社会現象を、何とか収束しないと思うのである。

イスラム教国の大國であるサウジアラビアと、一方のイランとの関係が悪化している。サウジで王国批判、国家転覆を扇動をしたとして死刑判決を受けていたシーア派の指導者の刑を執行したことから、イランのシーア派が猛反発してサウジの大天使館に放火した。サウジは、これを止めることができなかつた

イランに対して国交断絶を宣言した。もともと両国はイスラム教国でありながら宗派が分かれていて、サウジは逊ニ派であり、これに対してイランはシーア派である。中東に新たな紛争を起こしかねない事態に、関係各國が懸命の改善策を模索している。

今日の世界を揺るがした情報は、北朝鮮が突然、水爆実験を行つたという衝撃的なニュースである。正月早々もの騒がせな北朝鮮の動きである。北朝鮮の動向は常に世界を震撼させることが多く、いつなんどき暴走するとも限らないほどに深刻である。こうした暴挙に対し、国際社会がこぞつて非難して対応を検討している。新たな強力な制裁措置を以て臨むことは必定な情勢である。驚くべきことは、厳格に監視している筈のアメリカをはじめとする国際社会が、こうした実験の模様を事前に察知し得なかつたことである。中国についても、三回目の核実験については事前に

連絡があつたが、今回は連絡がなかつたといふことで、かつてない強い調子で非難を行つている。膨大なエネルギーの爆発を引き起す水爆の実験は、その爆発力からして規模からして、行動が事前にキャッチできるはずであるが、それが出来なかつたことは、実験の技術的手法が巧妙になつたのか、実験が水爆ではなかつたのか、見方が分かれるところである。事が起きるたびに、この国を相手に国際社会が連携して制裁の実効を優先させていくが、蛙の面に水で効き目がない。そうかといって放置するわけにもいかず、さりとて無謀なこの国をますます孤立化に追い込んで行くことにもなりかねず、実際のところ始末に困る国柄である。民意を反映したしつかりとした政治体制でないだけに、かねてからいつまでたつても危険な国であり、状況であると懸念している。窮鼠、猫をかむということわざではないが、徹底的に追い込んで行つ

てしまうと、癖のある、尋常でない国だけに何をするかわからない。平時での取り組みを、落ち着いて考える必要があるような気がする。つまり硬直的な戦術を取らずに、硬軟両刀を上手に使い分けながら、対応に機動力を發揮させることである。秘策はないものどうか、つまり相手を増長させずに、何とか上手に我々の陣営に、穩便に我々の国際社会に引き込む手立てはないものかと、思案に暮れているところである。

相手によりきりではあるが、逆療法も治療に役立つこともある。徐々にでも幾多の状況を緩和の方向に進めて人的交流を盛んにし、相手を互いに知り合うような機会を得、封鎖、閉鎖の状況を解くようを持つていくことが、時には必要かもしれない想像するのである。しかしそれが叶わないでいるところに、政治と外交の難しさがあるのである。外国との関係を断ち切つて、閉鎖的、独善的な政治

を維持しないと民衆を統治できないという、異常な独裁国家であるがゆえに、外部に対しても懐疑的になりすぎて墓穴を掘っている感じである。その結果、国民は生活の困窮にあえいでいると云われている。軍事優先の経済を以て、今世界が激しい対立の構造に立ち向かっているとは思えないし、軍事優先を以て經濟を運営して行くと云う前時代的な離業が通じない世界に変わってきていていることは既に久しく、明白な事実である。約半世紀前一九五〇年代から六〇年代にかけてたびたび水爆実験が行われたりしたが、特にアメリカのビキニ環礁の水爆実験があつた。日本の第五福竜丸が近くを航行中に被爆し、さんざんたる経験を積んだりした。広島の原爆の一〇〇〇倍の破壊力と云う。その後の旧ソ連が行つたのは二五〇〇倍ともいう。こんなことを繰り返していたら、自然界の均衡が保てずには地理が壊れてしまふだろう。たとえばの

話、北朝鮮に言いたいことは、水爆実験をするくらいの技術と資本があれば、それらを民間の経済発展のために転用して行つたら、どれほどの国力増進と、国民生活の豊かな波及効果を齎すかしれない。そうした時になれば国際社会もござつて、平和の手を貸すことであらうに。南北統一の悲願もまじかになるだろうに、独裁國の宿命であるが、残念な氣がする。それこそ民族が被爆しかねないことになる。

今又、世界が直面している難民問題であるが、毎日多くの犠牲者を出して悲惨であり、深刻である。難民を受け入れる方策も重要であるが、これとて難民流出の根源をはつきりさせて解決すれば、悲惨な状況を強いることなく、多くの人々が苦痛から解放さて、平和な暮らしが戻れるのである。長く続いているシリアの内戦状態が原因である。この混乱の解決を怠り、大国のエゴが災いして、小国のみ

よわい民衆に災難が降りかかってきているのである。シリアのアサドの扱いに米・露の確執が原因で、これさえ大らかに解決すれば、双方が妥協して収束を測れば、容易に解決する話である。アサドに引導を渡してどこかに亡命させるか、余力をあるアサドを暫定的に使つて国内の安定を図り、あとを新政権に移行させるか、またしばらく国際管理下に置いて社会秩序を保てるような機構にすることではないだろうか。国の脆弱ぶりに付け込んで、ISのような狼藉者がまたぞろ暴れまわつて多くの犠牲者を出している。IS予備軍を出さないように、世界の安寧を図る努力が必要であるが、小国で起きている政治的、宗教的、民族的な対立、抗争を鎮静化することが、大国と先進国に課せられた責務であるとの自覚を、先ず以て臨んでもらいたいものである。これから世界はひとえに、そうした努力を払つて、大局に立つて、共通した認

識を以て進んで行けるかどうかにかかる
いる。秩序回復が先ず望まれるところだが、
嘆かわしいことは、決断を促す世界の政治家
に、大物が欠如しているとしか言いようがない。

日本では今日から国会が始まつた。二〇一
五年度の補正予算案に対する代表質問が行
われた。論議すべき課題は山積だが、空回り
せず、建設的論議を尽くして、この国を国民
のための、立派な民主主義国家としての立法
府の機能を發揮して行つてもらいたいと念
願している。

一月六日

祝 成人の日

今日は祝福すべき成人の日である。この日
に成人に達して立派な社会人として現実の
社会に参加すべき若者たちは、一二〇万人強
の数である。心から祝福して、君らの洋々た
る人生を歩んで行かることを切望する次
第である。その洋々たる人生は、君たち自身
の努力によって、君たち自身が自ら築き上げ
て行くものであり、他から安易に与えられる
ものではない。社会人となることは、私たち
先達たちの英知と努力によつて築き上げら
れてきた実社会に、実質に於いて参加するこ
とであり。多くの権利を手中に收めると同時
に、公私に責任も果たしていく義務があるこ
とを忘れてはならない。権利と責任は表裏の
関係にあり、その仲立ちをするのが、義務だ
と考えれば、簡単なものである。しかしこの
簡単なことが容易でないことも事実である。
一人の人間として社会生活に参加すること

は、そうした認識の上で、人間としての尊厳も維持していかなければならぬ。共同生活には当然正義に立つた秩序が求められる。社会秩序を健全に維持しながら、自覚を以て自らを更に開拓、陶冶していく努力が必要である。陶冶、開拓するところに眞の意味での自由がある。勝手な振る舞い、勝手な行動は眞の自由ではない。それは許されなくなつてくる。鷹の雛が、巣立ちして、自然界に生きて行くための、親元を離れて飛び立つて行く姿に似ている。厳しい自然の掟が前に立ちはだかっている。成人になるということは、そう考えると容易ならざるものであることを認識しなければならない。

今日の午後、拙宅を妻と出た私は車を飛ばし、多摩川の堤に出てみた。尾山台商店街を通り抜けて環八を渡つていつたが、途中左手にナザレン教会を懐かしく見て行つた。尊敬する牧師の福江先生が昔、牧師を務めていた

懐かしい教会である。広い礼拝堂は森閑として、常に靈的な漂いにあつた。そうした時の福江先生の説教は、わたしの心を深く打つものがあった。故郷の高知の教会に帰えることになつて、私は拙宅で先生から洗礼を受けたが、その日には多くの友人知人が祝福に参加してくれた。私が洗礼を受けたことを知らせたところ恩師の一人である早稲田大学名譽教授の故・酒枝義旗先生の現子未亡人から感激の祝福のお手紙を頂いたのである。このナザレン教会で、聖路加病院長の日野原先生を紹介してくださつたのも福江先生である。懐かしく一礼して多摩川の方に下つて行つた。

正月から続いていた快晴の空は、この日も相模連山を通してはるかに富士山を見渡せるほどに澄み切つていた。多摩川浅間神社に立ち寄つて、高台の境内から更に遠望を堪能した。田園調布に向かうため蓬萊公園に沿つ

て行つたが、静かな池にカモが数羽、羽を休める姿を見て通り過ぎた。蓬萊公園は格別に

広い感じがする。車を駅前の駐車場に止めて

田園調布駅前のエピドールの店に入り、コー

ヒーとケーキを注文して、しばらく憩いの時間で過ごしたあと、自由が丘に向かつた。自由が丘の街なかには、晴れやかな着物姿の沢山の乙女たちが明るい表情で散策する姿を

見ることが出来た。成人式を祝つた後の、喜ばしい晴れ着姿の乙女たちで街なかがにぎわつっていた。世界に飛躍していく日本の、若々しい将来を託せる頼もしい姿である。若い男性諸君の姿も沢山あつたが、成人式を祝つた若者たちに違ひない。

これから日本の国と、広く世界を託していく意気軒昂な青年たちが、こぞつて知性を發揮して、澁刺とした進取の精神を堅持して、平和な民主社会の建設と維持に努力されんことを願い、私たちは、若者たちの今日の日

を迎えて、その洋々たる人生と前途を心から祝福していたのである。

青春賛歌

成人式終えて社会に参加せる冠者ら今日を寿ぎにけり

心より迎へ喜ぶ青年を社会が強き力得る日よ

現実の社会の権利と責任を担ふ資格を得たる君らは

成人となりし君らを歓迎し日本の新たな力ならむや

新しき世界を迎へそれなりに人生観をもちて行かまし

我もまた成人たちと乾杯の盃交わし歌ひけるかな

我ひとり成人たちの輪に入りて乾杯の歌高く合はせり

薔薇を持つ着物姿の成人の列に交じりて喜び合へし

あでやかな着物姿の成人に入りて言葉を交はしけるかな

我也また成人の日を迎へたる意氣軒昂に思ひ浸たりし

若者に負けじ劣らじこの先を進みて行かんと吾も覚へし

憂きことも辛き思ひも身にあれど冠者につきて勇み行かまし

若者の力と意気を身に覚へエンジンふかし行かんと思ふ

殺傷の戦場を避け安寧の職場に立ちて国を築かん

成人となりて社会に参画す未来を目指す道を拓きて

この国に新たに若き人たちの加わり大河の流れとぞなる

若人の群れに交じりて行進す凱旋の日を夢に描きつ

一月十一日 成人の日

あきほちゃん、ゆきほちゃんの初出勤

拙宅に英語の勉強にきている、あきほちゃん、ゆきほちゃん両姉妹が今年初めての勉強に見えた。毎週水曜日の五時ごろから約二時間、家内から英語の会話と学習のために、学校の授業が終わると熱心に通つてくる。なかなか自主的に、熱心に勉強する子は少ない。自分の経験から云えることであつて、今の子はそうでもないかもしねないので、一概に断言することはむしろ間違つてているかもしれないと思った。人の話などを聞くと、学校の勉強のほかに塾通いする子が沢山いて、むしろそれが普通らしい。

この間家内が話したところによると、区立の中学校へ入ると都立の受験が厳しいので、

猛勉強をしないと高校に入れないというのである。だから最初から高校につながつていって、すんなりと進学できる中学に進んだ方が良いというのである。その上、高校から大学につながつていればそれに越したことはない」と云う。大学まで話が進むと、それぞれに事情が出て来ることは仕方がないにしても、高校へ進むのに激しい受験があつて、落ちたり、漏れたりした子は一体どうなるんだと、今の教育制度について疑問に思つたのである。そんな状況だとしたら、国の教育政策が間違つてはいないだろうかと、尋ねたのである。中学と高校がつながつている一般的な学校は、私立でもない限りないのである。大学は自主的に受験して行くものだから、場合によつては激しい受験競争に晒されることがあるらうが、高等学校ぐらい、受験に漏れるようなことがあつてはならないと思つたのである。

義務教育ということよりも、高校くらいまでは差別なく、子供の希望に沿つて勉強できるような仕組みでないと、文化国家などとは言えない。私立に優劣があつて希望する生徒が受験するというのは理解できる。私自身も中学から私学を希望して早稲田中学に受験して入学したが、中学からは早稲田大学付属高等学院に受験して、つまり他の高校に受験して転向した。受験勉強はその都度経験してきたところであるが、大学受験はしないで済んだ。その代り高校時代から、大学教授が教師に向かられて、程度の高い授業を受けることが出来た。たとえば英語のほかに第二語学が必修であつたり、早いうちから高度な専門的な知識を身につけることが出来て、私自身は満足であつた。

私学ならいざ知らずである。即ち国の予算がついたり、税金を使つてゐる公立の高校位までは、中学同様に自由に勉学できる制度が

望ましい。中学から高校は進学するときに受験があることは判るが、学校別に優劣があるのと、そうした結果が起きているかも知れないが、事、教育に関する限り、高校での優劣が起きているようでは、国の教育制度を改める必要があると思った。つまり高校での教育のレベルに格差の問題があるのかもしかない。ならば、優秀な教師を行き来させて、押しなべて平均的なレベルを維持させることではないだろうか。その間に生徒は、次第に自分の得意とする勉学に、実力を發揮し磨きをかけて、更に進学する方向性を求めて行けるような環境にすべきである。生徒の個人差を認めるとしても、高校の学術、学力の機会均等を図り、国民のすべてが平等に教育を受ける制度を現実的に図ることが重要である。素人ながらそのように考えたりした。そもそも総花的な知識のための勉強は、所詮無駄だと思つてはいる。或る程度の社会的、人間的、

文化的常識は必要だが、例えば医者が、大工や建築士のような知識をやたらと持つてはたところで、話題にはなるが直接には役立つようなものではない。こうした事例は、社会にはマンである話である。高校までは社会人として健全な生活をしていくような知識と教養を身につけて、専門的な得意とする分野は、その後の機会を得て適宜選択して、それなりに道を開き目的を成し遂げて行けばいいものである。

今日、私は帰途の途中、いつものように尾山台で自宅に電話を掛けたところ、あきほちやんと、ゆきほちゃんが勉強にきていた。今日がいつもきまつて英語の勉強をする水曜日の日であったことに気が付いた。お土産を楽しみにしているかもしれないと思つて、アーモンドチョコレートの箱を二つ買って行った。ケーキ屋さんがやつていなかつたからである。家の前に着くと、ちょうど

お母さんが車で迎えに来えて、帰るところ

であった。偶然にも間に合つてよかつた。新年早々の、今年初めての挨拶を元気に交わし

した。礼儀正しく、「今年もよろしくとお願ひします」と礼儀正しく挨拶するので、「今年も元気に朗らかにたのしんで、勉強してい

くんだね」と云つたところ、姉妹は「ハイ」と素直で爽やかな言葉を返し、にこやかに帰

つていった。お母さんの運転するライトバンの車に乗つて。礼儀正しい少女は純真無垢で、天使のように輝いている。

一月十三日

共に学ぶ

あきちゃんの明るく無垢な心根に加え礼儀と作法すぐれし

ゆきちゃんの前にし居ればいつにしかあきちゃんの身のそこに居るなり

あきみほの未だ前髪の愛らしき風情に乙女

のかほり匂ひく

乙女らの吉永小百合ば若きころ思ひ出せ
る清々しさよ

あきちゃんの素直な黒き前髪のまなこにかかり春あたたかし

二姉妹の心やさしく澄みてなほ礼儀正しく作法すぐれし

前髪のまだいとほしき姉妹らのまことに天使の顔とうつれり

綴る字はよく性格を表すとあきゆき姉妹に当てはまりけり

あきちゃんの今日に限りてひとり来ぬ学ぶ机に我に向ひぬ

あきちゃんの学ぶ英語に我もまた負けじと共に語るたのしき

懸命に学ぶあきちゃんの意氣にふれ吾も勇みて英語学べり

あきちゃんと向き合ひて書くそれぞれに英語のスペルと和歌のひらがな 一月十五日

ニューヨークで大活躍のジャーナリスト
岩本ランコ先生への手紙

お元気で、新しき年をお迎えのこととお喜び申し上げます。いつも意義深く、温かきご指導を頂き、深く感謝申し上げます。

今回発行の昭和経済では、ラン子先生の貴重な記事を載せることが出来ずに、大変失礼しました。いつも頂いている原稿を有意義に載せておりましたが、今回、担当事務員から直前になつて、先生からの原稿が英語で送られてきている報告を受け、困惑しましたが、対応が間に合わず失念する結果になつてしましました。誠に残念至極、且つ申し訳なく思つております。

ところで英文の場合に、日本語に翻訳するとなると、技術的な点もあつて、先生の微妙な表現を適切に表し、読者に伝えることが難しく思う次第です。日本語でお書きになつた

レポートがございましたら、是非お伝え下されたく、宜しくお願ひいたします。

図らずも今日は、日本の関西地方、とりわけ阪神、淡路周辺を強烈に襲つた震度七強の巨大地震があつてから丁度二一年になります。日本列島には多く存在する、活断層地震でした。地震は大都市を襲つたがゆえに、甚大な被害に及びました。日本のマスコミのニュースでは今日、阪神・淡路大震災の、その時の状況を盛んに報道しているところです。

あの時は丁度、ラン子先生と、先生のお姉様、寺島祥五郎先生のご一家と、目黒雅叙園で昼食をとつていた時でした。結構長い時間にかけて、ゆらりゆらりと気味悪く揺れていて、これは大きな地震ですねと、話し合つていたことを思い出しました。食事中でしたし、まさかあの揺れが、大災害をもたらした阪神淡路大地震とは思いもよませんでした。

それとは別になりますが、当日は皆さんと

楽しく会食、歎談をしたあの時のことを、時々懐かしく思い出しています。それに全くの偶然ですが、昭和経済の表紙の絵について、前号から寺島先生が生前、私に贈つて下さったスケッチブックの中から選んで載せています。私は先生の絵が大好きで、面影を懐かしく偲びながら載せて行くことにしました。

今まで書いてくださっていた画家の関根常雄先生は、古くから昭和経済会の会員であり、有難いことに私の大ファンでしたが、先生の体調不良で断念せざるを得なくなつた次第です。関根先生は寺島先生の友人で、そのご紹介で昭和経済会に入会しました。油絵が得意でしたが、寺島先生の後を引き継いで表紙の絵を描いて下さいました。四年前に有楽町駅前の交通会館の展示会場で、盛大な個展を開かれました。その時パリの街中を描いた一〇号の油絵が、すぐれた作品として大変気に入り、初日の会場を訪ね、お祝いと記念のた

めに譲つてもらい、幸先よく売約済みの札を下げさせてもらいました。そのあとそれをオフィスの部屋に飾つて、お見えになるお客様方に楽しんでもらっています。

新年を迎えたが、世界の政治、経済の動きも慌ただしい感じです。台湾總統と、議会の総選挙が昨日、投開票されて女性で民進党の蔡氏が圧勝し、議会も過半数を越えました。台湾政治の大きな変化ですが、これらも中國との関係を平和的に維持、発展させてもらいたいと願っています。台湾海峡に緊張が走り、波浪が荒れてきては、たまつたものではありません。

この度は、昭和経済の雑誌のことでメールさせていただきました。担当事務員の中村女士、又は尾形女史からもメールにて連絡致す所存ですが、今後とも宜しくご指導賜りたくお願いいたします。益々のご健勝を祈つております。

二〇一六年一月十六日

敬具

大関・琴奨菊が優勝した

今日、春場所の千秋楽を迎えた大相撲春場所の土俵で、大関の琴奨菊が十四勝一負で見事優勝し、十年ぶりで日本出身の力士が優勝するという快挙を成し遂げた。しかも大関にとつては初優勝である。生き返ったように獅子奮迅の活躍ぶりであつた。福岡県出身の、既に三十一歳であるが、今場所は豪快な面構えに力と技が冴え、迫力に満ちた土俵であつた。白鳳、日馬富士、鶴竜の三横綱を次々と破り豪快であり、痛快極まりない琴奨菊の、土俵の立ち舞であつた。あの筋骨隆々たる身体に、大和魂が奔流し、久しづぶりに味わつた国技、圧巻の大相撲を堪能することが出来た。土俵に向かつて座布団が飛んでいくのも、確かに見届けた。

昨日のテレビ東京の「アド街ック天国」に、拙宅近くの尾山台商店街が取り上げられたことで、その尾山台商店街のハッピートロード

は、今日は沢山のお客さんでにぎわっていた。私は所要があつて建築設計士の〇君と、ハッピーロードにあるフロンティアで一時に会う約束だったので、やおら出かけて行つた。途中、大庭さん所有のブドウ園を過ぎて行った辺りに、紅梅が咲いているのに気付いた。昨日の氷雨も運よく晴れあがつて、今日は透き通るような快晴の空である。しかし吹き付ける風の余波があつて、まだ冷たさが残つている感じである。強烈な寒波が大陸から日本列島の上空に、更に沖縄にまで下つてきて、長崎や福岡に二〇センチから三〇センチの積雪があつて、福岡では百年来、経験しなかつたことである由だそうだ。だとしたら、地元の人は今まで雪を見たことがないと云うことになる。又記録的な寒波は九州の宮崎で氷点下十二度を記録し、勿論史上最低を記録する気温である。車に積もつた三十センチほ

どの雪を搔く地元の人が、テレビにも映つたくらいである。宮崎と云えば、常夏の南国の日南地方を思い出すはずである。まさかそうした国にまで厳冬が襲つているとは、想像することが出来ない。

この日出かけた先のその喫茶店は、小生も日頃たびたび行つてゐる店であるが、今日のようには混雑しているのは初めてであつた。テレビで話題になつた店は同じような状態で、訪ねてきた大勢の人たちの憩いの散策場所となつてゐるようだ。テレビの影響力のすさまじさを、さまざまと見せつけられた次第である。今日の大相撲春場所は四時ごろから観戦することにして、○君と要談した後は雑談をしきりに、社会評論に費やされ、尾山台商店街の人混みの中を帰つていった。

十年にわたつて土俵の優勝は、外国人出身の力士に取られてきて、聊か食傷気味になつていた。久しぶりに今日は、今までになく興

味津々で観戦した。マンネリから脱する気持であり、大興奮の大相撲春場所の熱戦を堪能し、別けても琴奨菊の優勝戦を堪能し満足する結果となつて、われながら安堵している次第である。歴史的に見ても画期的な琴奨菊の優勝であり、十四勝一敗の賜杯は實に重みのあるものである。おめでとう！ 大関・琴奨菊君の優勝を心から祝福したい。

喜びの和歌 三十首

大相撲十年來の優勝に日本力士の琴奨菊よ立会いの前に静かに手を合はせ琴奨菊の祈る姿は

仁王立ちする琴奨菊の土俵上優勝をかけ立ち合ひにけり

優勝に王手をかけし大関の乾坤一擲の土俵

人生
土俵際まで追い詰めし琴奨菊、豪傑道を引き倒しけり

座布団の舞ひ飛ぶ土俵に喜びの琴奨菊の勝ち名乗りかな

豪気なり琴奨菊の面構へ大和力士の本領発揮す

久々に大和力士が優勝す思へば十年ぶりの快挙と

がぶり寄る琴奨菊の迫力に連日土俵を沸かす白星

大関の外人力士の連勝を食い止め十年振りの快挙に

毎場所の決まつて白鳳の優勝に飽きて興味の薄れゆく日々

心身のよみがえる身に実力を示す今場所の琴奨菊は

土俵にて清めの塩をわし掴み高々と撒く琴奨菊よ

わしつかむ清めの塩を豪快に撒けば館内の湧きてたつなり

立ちあふに琴奨菊が身をそらしす仕草に支援の声高まりぬ

不思議にも三横綱が悄然と力を失せて転げ落ちけり

後続の大和力士に稀勢の里更に奮起を促して見ん

後続の大和力士の励みなり琴奨菊の春の優勝

大関の豪気に塩をわし掴み白房高く撒けるしぐさに

栃東いらいの土俵に湧く優勝大和力士の琴奨菊に

がぶり寄る豪栄道を俵まで瞬時に引きて突き落としけり

燦然と賜杯を胸に琴奨菊、艱難辛苦に耐へて今しも

幾たびそ負ひし怪我をば乗り越へて土俵に励むこの力士こそ

カド番を五たびも迎え立ち直り鍛錬のすへ
賜杯を得たり

土俵上三横綱を打ち倒し優勝賜杯を抱く大
関

満場を沸かす琴奨菊の豪氣なる立ち会ふつ

らに鬼気の迫り来

白房の立ち会ふ前の大関の身を反りかへす
動作頼もし

面差しの野武士の如く時に又童の如く笑み
し間もあり

十四勝一敗にて優勝の琴奨菊十年ぶりの大
和力士に

優勝す賜杯を胸に喜びの顔に満ちみつ初々
しさよ

満面に笑みをたたえる大関の初々しさを何
と云ふべき

一月二十四日



作品 関根常雄

上空に大寒波到来

日本列島上空に強烈な寒波が到来した。それが偏西風の変化で南下して沖縄周辺にまで広がつて影響を及ぼしている。沖縄の那覇市で十センチの積雪を記録し、雪になれない地域を脅かしている。雪を見たこともない鹿児島、熊本、宮崎、そして広島などが二十七チ以上の雪に見舞われるという異常気象である。史上記録を記す地方が続出している。この二、三日は日本列島が寒波に襲来を受け、冷凍庫にとじこめられてしまつたようである。交通のマヒで輸送機関に大きな影響を及ぼし、生鮮食料品の高騰が出てきて市民生活を圧迫し、主婦を翻弄させている。こんな状態が一週間も続くようだと大変である。幸いあと一両日中には寒冷前線が北上する見込みだから、そのあとに太平洋上の高気圧が張り出してきて、次第に寒さが和らぐという予報である。

暖冬と告げし予報に逆らひて史上記録の寒波襲ひ来

九州の宮崎市にも積雪の30センチの記録報じる

常夏の九州日南海岸の地にも積もりぬ雪の厚きに

宮崎の常夏の名の青島に真白き雪の降り積もりけり

ビロー樹の並木を抜けて春の日の潮騒の音のゆるく聞こへ来

火の島を訪ね行く日の桜島北へのどかに煙ながれり
桜島船ゆ下り立ち眺むらば火の山黒く前に
はだかる

古里の名にほだされて訪ねきぬ林芙美子の碑の寂しさよ

古里は林芙美子のあるさとに貧しき地にも生れにけるかな

この世にて人の命のなかなさを放浪記にも
記しけるなり

美美子碑に「花の命は短くて」記せるあとの
悲しかりけり

潮騒の騒ぐ磯辺に立ち眺む鬼押し出しの溶
岩の後

火の山の騒ぐ海辺に溶岩の流れしあとの長
く続けり

上空に大寒波の波下りてきて沖縄那覇にま
で及ぼしぬ

東京の雪にも弱き公共の交通機関に直きに
及べり

友がきと九州周遊の思いでの学生時代の今
に覚へし

長崎を経て大牟田ゆフェリーにて熊本経由
阿蘇に行きしは

中岳の噴煙高く立ち昇り真澄みの空を搖る
がしにけり

云いがたきこの美しき夕映えの阿蘇外輪山
の赤く燃え立つ

長崎の坂を上りてグラバー邸異人の住みし
時のおもむき

グラバーの屋敷ゆ眺む長崎の霧の港に泊ま
る船かな

南海をはるかにわたる潮風を開聞岳のもろ
に受けおり

指宿の名のおもむろにふさわしく豊かに暮
らすうましまほろま

薩摩富士とも人々に親しまれすり鉢型のい
とほしきかな

南海に生まれし野分いつしにか目指して薩
摩富士のかげなり

菜の花の咲く池田湖の水青く色彩の濃き油
絵のこと

九州一周旅行の思い出

暖冬でない厳寒の冬

九州、沖縄にまで寒波が南下して、記録的な寒さになつた。雪を見たこともない地域の人にとって珍しい自然現象の、一面の銀世界で綺麗な贈り物となつたが、農作物の被害や、漁貝類の生態にもマイナスの影響を及ぼしている。この寒波のため海水の冷却化で、温帯に生息する魚類が一様に海岸に打ち上げられている。自然の厳しい捉とでもいうべきか。この寒さは、偏西風の蛇行に変化があつて前線が南下した結果、寒波がそれに乗つて例年より南に下つたがためである。厳しい寒さが、海水の温度にまで変化をもたらしている。いずれこの気まぐれな偏西風が元の形に戻れば、平生の気圧配置となつて寒さが和らぐに違いない。沖縄、九州と云つた暖かい地方に30センチからの積雪をもたらした今

回の気象異常である。

暖かい南の国の九州地方に思わぬ大雪が降つたことを書いていたら、知らず知らずに学生時代に九州地方を友達と旅行をした時の思い出が脳裏をかすめて行つた。大学3年生のころだつたと思う。春休みを利用した、大旅行であつた。当時は、黒いダイヤと呼ばれたほどに石炭ブームであつた。戦後の産業復興には欠かせない唯一のエネルギー資源として脚光を浴びていた時代であつた。優秀な学生は、こぞつて石炭会社を志望し、華やかに就職していくものである。その石炭ブルームで財を成した友達のお父さんの会社が日本橋の馬喰町にあつて、一度訪ねたことがあつた。凜々しく風格のある立派な人であつた。家族が目黒の高級住宅地の人雲の大きな屋敷に住んでいて、お母さんが又、感じの良い静かな人であつた。友達もそこから早稲田の学校にかよつていた。九州地方を旅行する

に当たつては、そのお父さんの尽力もあつて取引先に紹介してくれたりして、現地に着いたときは、温かい歓迎に預かった記憶がある。何も知らない私は、その友たちに素直についてゆくだけであった。行く先々が私にとってまるで初めて経験することばかりだったのでも、この時の九州一周旅行は、ことのほか熱い思い出となつて未だに鮮明である。

小さい時から喘息持ちで長期の旅行については自信がなかつたので、誘われたときは行かないつもりでいた。しかしみんなの計画しているのを見て結局決断して一日遅れで私一人が皆とは別に列車に乗つていくことになつた。当時は未だ国鉄経営の時代であつて、国鉄・東海道線と山陽本線を乗り継ぎしながら、夜行列車に乗つていつたが、その時の記憶はあまりない。不安な旅であつたに違いない。九州の博多駅で一行の五人と会うことが出来た。携帯電話もなかつた時代にどう

して会うことが出来たのか不思議である。一行は世話になつた川滝信義君を初め、渡辺節、鈴木貫太郎、館昭二、武田なんとかであつた。彼らは第一日目に、北九州の人幡製鉄の工場を見学して有意義な体験を積んでいた。博多についた小生は夕方一行に合流し、その夜は博多にある安川電機の立派な寮に宿泊した。贅沢な部屋に通されて、贅沢なご馳走のもてなしを受けたことを覚えている。安川電機の会社の寮を安く泊めて下さつたそうである。おそらく就職活動の一環として、優秀な大学生を招へいするための活動の一部であつたに違いない。しかし一行のうちだれも安川電機に就職した者はいなかつたので、申し訳ない気がした。いずれにしてもそのあたたかいご厚意を今も忘ることはできない。この夜、一行の一人が体調を悪くして急遽、病院に運ばれた。誰だつたか覚えていない。ご馳走に浮かれて飲みすぎ、食べ過ぎの結果かもしれ

ない。

翌日、福岡、諫早を経由して長崎に向かつた。市街を散策したが、異国情緒の漂う石畳の坂道を登つて、グラバー邸に向かつた。異人さんが住んだ家だと聞いたが、オランダ人で、商館として使つたモダンでユニークな作りの建物だつた。海と郊外に延びて起伏のある山なみが際立つて美しく、港の景色に溶け込んで、一幅の絵を見るようであつた。歌謡曲に長崎の鐘、長崎の女、長崎は今日も雨、長崎のザボン売り、と云つて長崎にちなんだ名曲が沢山あるが、歴史と文化に事欠かない街である。歌劇バタフライ、「蝶々夫人」の舞台ともなつた由緒ある場所である。浦上天主堂も訪ねた。原爆を投下されたとも思えないと嘆くほど、復興は目覚ましいものを感じた。一行は先を急ぐ旅で雲仙に向かつた。バスに乗つて雲仙温泉街にある宿についたところ、従業員の多くが玄関先に出迎えてくれた。そし

て一行の誰かに、歓迎の花輪を首に掲げてくれて陽気になつてゐた。ここでは大きな野天風呂が大変氣に入つた。晚餐の手厚いもてなしを受けたが、鉄道の旅で疲れていた一行は、早々と就寝して翌日に備えたのである。起床して朝風呂に浸かつた思い出は確かである。バスで雲仙を下り、有明湾に面した島原についた。島原の港から伝馬船で大牟田に渡り、そこから鹿児島駅行き鉄道でやや南下して熊本に出た。この日、熊本の市街地を寄るでもなく、あつけなく通り過ぎて夕方近くであつたが、阿蘇の火の山に向かつた。

阿蘇山は太古に於いて大爆発を起こした時、周辺一〇〇〇キロの範囲にわたり、噴石と噴灰で覆うほどの規模であつた。火碎流は海を越えて、山口県の秋吉台にまで流れたといふ。現在、中岳を初めとした阿蘇五岳を抱き、南北25キロ、東西一五キロの世界最大級の典型的なカルデラであり、今も活発に活

動する活火山である。外輪山の内側は三八〇キロ²m²の広大な面積になる。中央の東西を貫いて当時も日本国有鉄道が引かれ、太平洋側と日本海側をつないでいるわけだ。あの時は目前に、大パノラマを堪能する思いで、煤煙をかぶりながら汽車の車窓がらの景色を眺めていた。カルデラを形成する外輪山が、低く波うつて広大な大地を取り巻いている。そして落ち行く夕日に真っ赤に染まつて焼け、あたかも焰と立つてゐるよう見えた。その中を、まるでゴマ粒のような機関車が煙りを吐きながら、その広漠とした大地を走つていく、あの力強い強烈な印象が、私の脳裏から消えることはない。のどかな草千里と放牧の群れ、奇態な恰好をしたすり鉢山、阿蘇五岳の雄大な火の山なみ、麓に点在する小さな集落、幾筋もの清冽に光る河や大小の池、豊かな田畠の畝と畔、何と言つても澄みわたる快晴の空の広がりに感動を禁じ得なかつた。こ

れも川滝君の嚴父の道益商会の取引先で、石炭会社の社長さんのご厚意で熊本駅から阿蘇駅まで乗り合させて案内をされ、ホテルの宿泊まで手配くださつた。社長さんは近くのゴルフ場で球を打つて、その日に帰つて行かれた。翌朝ホテルを出たあと熊本に出、鹿児島行きの列車に乗つて四日目の旅を迎えた。こうした紀行文を、わずかな記憶をたどつて書いてみると、気持ちが和んできて、嫌なこと、うつとおしいことなどが忘れられて、清新澁刺の気分に転換できるので良い性格だと皆が云つてゐる。世間には簡単に気分の切り替えがつかないので、問題を引きずつたまま悩む人が多いようである。そうした状態を放置しておくと、慢性化して脱却できなくなる場合が多い。欲をかかず、ほどほど人生を送ること、いくら功績をあげても甘利大臣みたいな結末になつては、身も蓋もないし、これほど虚しいことはない。前例には今太閤

の田中角栄がいた。貧乏な家庭に生まれ育ち、土建屋で基盤を作り、選舉に打つて出て、時の總理にまで上り詰めた人物である。その間、蓄財にあらゆる手法を駆使し、金をため、金で多くの子分を作った。口利き料の授受など朝飯前である。人の好さかもしれないが、頼まれればヨイツシャと云つて簡単に引き受け、簡単に金を懐に入れていた。利権をむさぼり、国有財産を安く払い下げさせては、自分が利益に還元していた。派閥をうまくとりまとめて行くことが必須であり、子分はそれによく群がる。代わりに親分は子分を金で釣り、権力を握り、金力で目を光させていた。謂うところの金権政治である。そして挙句にロッキード事件を起こした。金で身を起こし、金で身を潰した。今太閣を誇った人物にしては、末路が惜しい氣がする。

甘利大臣も一皮むくと、人の良さがたたつて、小粒だがそれに近い感じである。田中角

栄と違つて、それほど露骨ではないにしても、あつさりと話に乗つてしまふ当たりが、実に軽薄である。それにしても大臣室で口利きの報酬を受けるとは、愚の骨頂であつた。壁に耳あり、障子に目ありで、所詮は結末がばれてしまうことは戒めとして持つてゐる筈なのに、目の前に金をちらつかされると、遠慮なく手を出してしまふのか。ここで国民は一人の優秀な政治家であり、将来の總理として囁きをされていた人物を失つてしまつた。経済知識を豊富に持ち、國際感覚に鋭い修行と体験を積んできた政治家だけに、残念である。何事によらず欲望からの脱却、これこそが人間にとつて最大の試練であり、同時に成功への道である事を肝に銘じているべきである。私独自の精神療法とでもいおうか、人間なんて単純なもので、気持ちの持ちようでどうにでもなるということである。学生時代の旅行記から又話がそれてしまつたが、この項

目は一時中断して、次に続けるとすることを

許していただきたい。熊本から更に汽車に

乗つて鹿児島に向かつた。単純に、犬を連れて散歩する西郷隆盛に会いに行くような気分であった。これからまだ書いてゆきます。

二月一日

サプライズな出来事

日銀のマイナス金利の導入

確かにこの十日間程の社会の出来事を拾つてみても、重要な案件があつた。フィリップンに戦没者の慰靈の旅に就かれた両陛下の決断と現地での模様、中国経済の更なる減速で乱高下を繰り返す世界の株式市場、TPPで大きな業績を果してきた甘利通産大臣が、政治とカネの問題で辞任、黒田日銀総裁の異次元的政策遂行で、マイナス金利の導入など、重要な問題が次々にあつたりした。

特にマイナス金利の導入は既に欧州の中央銀行が実施しているが、日本では初めてである。聞きなれない言葉であるが、対象となるのは一般の預金ではなく、民間金融機関と日銀との取引で生じる金利である。市中銀行が日銀に預金すると、逆に金利をとられるという仕組みである。日銀に預けるより、民間の貸し出しに用いるようにする政策効果

を狙っている。企業や個人がお金を借り入れやすくするようになるわけである。いろいろと弊害も出て来る話であるが、日銀の政策当局が未知数のリスクを負った意味合いも強くにじんでいる。経済の実態がよくならないままに、金利だけ下げて行つても、堅実な資金需要がなければ、金融機関も資金の運用に困るだろう。ずさんな融資をすれば、かつてのようにな不良債権を積み上げて行くことになる。黒田さんの思惑と反対の結果を齎す可能性があるし、経済も魔術師に適う人はいないから、注意しないといけない。斯くの如く、日々変化する社会の出来事であるが、気にしていたら落ち着く暇すらないことが分かつた。憑りつかれていたら神経衰弱になってしまふだろう。企業家や事業化が余り神経をとがらして、取り越し苦労しないことが賢明である。それにしても黒田さんの打ち込む弾は、不意を衝くことが多く、斬新で大胆で

ある。人は黒田式バズーカ砲とか評しているが、本人にしてみればものすごく神経を使っていることであろう。周囲への配慮はもとより、周囲からの圧力も相当あるに違いない。太っ腹の賢人でなければ務まる話ではない。国民は賢人の英知に期待して任せているわけだから、大いに蛮勇をふるつて実行して行ってもらいたいものである。蛮勇と云つても、人気取りめいたことをするのではなく、サプライズなことを求めているわけではない。稳健な政策は、国民にたいしてリスクを伴わずに犠牲を伴なわず、国民経済を発展に導いてゆくことである。アベノミクスの成否も、要は黒田さんの腕にかかる。暗いデフレのトンネルから抜け出して、ここまで改善させて持ってきた日本経済を、頓挫させるわけにはいかない。なんとかして今の国際経済の混沌とんを打ち払い、ひいては日本の経済回復が、世界のそれを凌駕して、力強く牽引していく

結果を齎したいものである。

日銀がマイナス金利の導入を発表した後、二二、三日の株価の動きは堅調に転じ、大きく反騰して、これが世界のマーケットに大きく影響を及ぼしている。しかし異次元の変質的な金融政策に突入しているので、効果は未知数である。予断を許すことはできない。金融政策を効果あらしめるには、経済産業の強い回復政策を伴つていないと、単に金融政策だけをしては無理である。経済財政政策を含め、更には弊害となつている規制の緩和を推進し、一体化したものでないと片手落ちになつてしまふ。地方経済の活性化も大きな課題である。地方は、中小企業と同様、まだまだアベノミクスの恩恵に浴するような状態ではない。失速してこのまま謂うところのアホノミクスに成り下がつてしまつては実もふたもない。

ただ、ここで注意しなければならないのは、

原油の値下がりだけは構造的なものであつて、こうした状況はこれから経済動向として定着し行く可能性が充分にある。現在一バレル三〇ドルちょっとで推移している。一年前に一〇〇ドルしていた値段が、三分の一にまで急落するとはだれ一人想像だにしなかつたことだろう。経済産業を根底から支えるエネルギー資源を受け負う原油価格が、それほど激変したということは、それだけ世界の経済構造の激変をもたらしているということにもなる。産油国が騒いだり、原油市場に何らかの規制を勝手にかけたり、政策を打ち出したりしても、どうにかなるものでもない。世界的な、構造的な変革の時代に突入して、油の需給関係が大きく変質した。中国はもとより、資源国の新興国をはじめとして広範囲に及ぶ経済縮小は、子にの財政収支を圧迫し、国民経済の停滞に導いているので、日本を初めEUなどの努力に限界もあるこ

とを承知しておかないといけない。

原油が下がつて良い面と、悪い面とが交錯しているが、次第に収斂していくはずである。ゼロ金利、マイナス金利で資本市場がどのように変化していくか、実体経済にどのような変化をもたらしてくれるか、経済産業構造が国際的に変貌を遂げつつあるが、依然として不透明感を払しょくできそうもない。資源安と新興国の経済縮小、そして一四億近い人口を抱する、深刻な中国の経済減速、その回復には長い時間と辛抱が必要である。周辺でも昨年以来、中国から引き上げる事業家が多い。しばらく時間をかけて、そうした状態から、混沌の状況から、いずれはつきりした道すじが描かれてくるだろう。世界は今、そうした事態に対応した経済構造の再構築が求められてきている。

明後日は、節分の豆まきである。一昨年来、鬼が周辺にたくさんうろついているのに氣

が付いて迫い払ってきたが、最近になつて、しかも、でかい鬼を追い払うことに成功した。随分と月謝を払う結果になつてしまつたが、極悪非道の魔女を追い払つて毎日が快晴の大空を仰ぐような気持で、心身爽やかに仕事に励めるようになつた。今日、オフィスの帰りに尾山台駅近くのスーパーオオゼキに立ち寄つたところ、袋に入った豆まきの豆が山のように積まれていた。鮭の切り身のあらの部分が美味しいので買って行こうと立ち寄つたが、節分の豆に奮い立つて、それも三袋まとめて一緒に買つてきた。すると家内も、私も買つてきたわよと云うのである。一階、二階と窓が沢山あるので鬼を逃すわけにはいかない。クリスマスチャンだけれど、その豆をご仏壇に供えた。来るべき節分の日には声を張り上げて、鬼退治に使うつもりである。豆とは云え、粗末にできない念力を持つている。

豆まき

馬鹿馬鹿しい話になつて恐縮だが、私ごと

で一昨年以来、正装をした変な奴らに取り囲

まれていたことに気付いた。もつとも商議についての事柄であった。今日でさつと五一五日目である。ちょうど節分の日にかかる。鬼を退治してさっぱりしたが、悪さをした相手方は夜も眠れないのではないだろうか。心身共にのめり込んで、毅然として責務を果たしてきている自分を、変な話、見直していくのである。昔、日本経済新聞社の元社長の萬さんが下さった、渡辺幾次朗著の大隈重信の精神と云う本の中にこんな一節がある。健康こそが人生の第一条件であるという信念に生きた大隈は、次のように述べている。「健康には肉体的健康法と、精神的健康法がある」。大隈は、特に精神的健康法が大事だとして、自ら精神的健康法五箇条なるものを案出して、日常の生活に取り入れて、これを実

践したのである。その精神的健康法五箇条とは一体何であるか。

曰く、

「怒るな、愚痴をこぼすな、過去を顧みるな、将来に希望を持て、人のために良きことをなせ、」である。謂うべくして為しがたしで、人生の毎日は現実にこうあるべきであり、こうした気持ち、精神状態にあることが、健康にして長寿を全うできる秘訣だと喝破して、私も又信じている一人である。くよくよせず、人のために尽くす毎日であること、加えて「欲をかかず」とすれば、尚安らかな毎日を過ごすことが出来る。そう思つたとき、大隈の精神的健康の五箇条は、全てが人間の欲から発していればこそ、戒めの言葉として意義を持ち、光つてくるのだと確信したのである。惡の根源は、人間のあくなき欲から発している。端的に言えば、単なる物品ではなく、金そのものである。札束を見せつけられると大

脳ばかりでなく、五臓六腑が揺れ動く人間に
性である。従つて欲を捨てるために、大隈が
述べた五箇条の真意を身につけて毎日に励
むこと、これが健康長寿の道につながるゆえ
んだからである。

昨日は午後から会社を出て、浅草の顧客の
ところに行つて商談を済ませてきた。京橋か
ら地下鉄に乗つて、浅草駅の一つ手前の田原
町で降りた。繁華街に近い客人で所要を済ま
し、次の客の居る花川戸に向かつた。浅草
で一度に用事を足すのは、初めてであるビュ
ー・ホテル辺りから浅草の浅草寺に向かつて
歩いて行つた。しばらく行くとロツク街で
た。五叉路の角に昔から交番のあるところで
ある。この通りには、昔の子供のころ沢山の
映画館が立ち並んでいた。映画が唯一の娯楽
であつた時代、毎日大変な人で埋まっていた。
活動写真と云つたくらいで、チャンバラ映画
が多かった。エノケンやロツパが喜劇で活躍

し、嵐寛や右多衛門がチャンバラ劇で活動し
ていた。映画全盛時代のころである。ストリ
ップショウをやつているロツク座は今も健
在である。この映画館通りのそばに、ひょう
たん池があつて浅草は昼夜の境なく栄え、情
緒があつた。しかし戦争の空襲で焼け野原と
なつた浅草に、観音様の本堂も焼けてしまつ
てその姿はなかつた。本堂再建のためにこの
ひょうたん池は埋められて売却され、本堂の
建設資金の一部に使われた。今は斯くも莊嚴
な観音様の本堂が、目前に見ることが出来る。
進むと左手に花やしきがある。子供のころお
正月に父に連れてこられて遊んだ記憶があ
る。ぐるぐる回るメリーゴーランドに乗つた
記憶である。

更にこの辺、言問い通りには象潟の粹な花
街がある。料亭・草津邸は有名な一つだが、
そこで長男が盛大な結婚披露宴を催した。当
時の披露宴だから派手であつた。二百畳敷き

の大広間で二百人以上の招待客であつた。父の經營する会社の得意先や、職方衆であつた。三味線、つつみ、太鼓と云つた座敷道具一式も持ち込まれて、歌えや踊れやで新郎新婦そつちのけの、楽しい宴会であつた。その時料亭・福八の娘もでていた。娘は富士小学校時代の同級生で、お店を手伝つているうちに芸者にもなつた。浅草田圃・草津亭、そんな料亭も、新しく建て替えられたとはいへ、今もつて健在なのはあるさと浅草の誇りである。まつすぐに行くと、真っ赤な社の浅草寺の本殿が見えてきた。見上げるような真っ赤な社は多くの観光客で、参拝者で一杯であつた。正面階段を上ると大きな賽銭箱が用意されているが、正面の黄金に輝くご宮殿には觀世音菩薩が安置されている。秘仏であつて非公開である。手を合わせて拝した後賽銭を入れたいが、参拝者の群れの中ではうかつに硬貨を投げるわけにもいかない。たまにお参りす

るわけだから、お札を備えようと思つても投げるわけにはいかない。お札だと賽銭箱まで届きそうもない。そうかと云つて札束を投げるほどの決心はつかない。一枚だとひらひら上に飛んでうまく届けばいいが、それも無理だろう。仕方がない、硬貨で一番額の大きな五百円で勘弁してもらつた。こんなことで思案する暇があるなら、呑気な分際で結構な身分である。こうした大らかな気分でご本尊と向き合つことが出来れば、ご利益があるに違いないと思った。劍の頭も信心からである。日本人ほど、大らかな信仰心を持つ民族はない。世界には一神教の民族がそれぞれに多いが、得てして信仰の勢力争い、対立で、民族間で互いに血を流すほどの喧嘩をしたりして、時に世界の戦争に発展することがある。千代萬世の神々を奉る大和には、素朴で慈悲深い人々の願いが秘められている。

觀音様には周りを見ると大体が、中国をは

じめとする東南アジアとおぼしき観光客の人たちで、つた返していた。この日は右手の宝蔵門をくぐつて仲見世に出ることはできず、そのまま三社さま、浅草神社を左に押し、二天門から馬道に抜け、花川戸に向かつた。三社神社は戦争の焼失から免れた唯一の古い由緒ある建物である。この神社の由来を辿ると、古事記に出て来るような逸話があつて床しいものがある。三社神社の縁起によると、昔隅田川で、桧前浜成、竹成という名の兄弟の漁師が網を放つていたところ、一体の仏像が網にかかつた。これを聞いた土師の真中知が、その仏像を自宅に奉安してこれを守つた。その仏像が、今の浅草寺の本堂に秘仏として安置されている高さ一寸八分の觀世音菩薩である。そして隅田川で網にかけた兄弟の二人の漁夫と、これを奉安した土師の三人を、三社権現と称し、神として奉つてゐるのが、三社神社である。浅草境内には戦後に於いて、

このほか雷門、二天門、宝蔵門、五重塔と豪壮な建築物が豪華絢爛として建ち並んで、庶民の豊かな信仰の対象になつてゐる。夜に拝観するときは、そうした朱色の建物がライトアップされて炎が上がるようすに壯厳の趣が漂つて、一つの極楽淨土の世界を形成している感じである。

こうして来てみると、浅草界隈も随分と変貌を遂げてきた。地元の人たちの努力もあって、古い浅草も現代に合つた趣向で発展してきていることが分かる。きっと若い人たちの活躍が大きく影響していることだろう。一時は衰退して時代に置いて行かれた浅草だが、これも地方活性化の波に乗つた活動の一翼を担つてゐるものである。馬道通りを渡ると浅草小学校が右手にあつた。花川戸公園の隣、新しく立てられた小学校は、まるで教会のようなモダンな建物に感じた。戦後の焼け野原で、富士小学校は一時、この浅草小学校の二

階に間借りして授業をしていた。多くの生徒は疎開先から未だ帰ってきていない時期であつたし、亡くなつた生徒もいたので、そんなに広い教室は必要でなかつた。あの時に教室で教鞭をとられた長浜テル先生は今も健在だが、一昨年まで開かれていたクラス会は、先生の都合で開かれなくなつてしまつた。食糧不足の毎日のこと、苦難な時代をくぐつて教育に携わってきただけに、ご苦労も多々あつたことである。早稻田の鶴巻町から通つていて、どうどう独身を貫いてしまつた。映画、青い山脈の歌が唯一励ましになつたが、原節子と一緒に共演して、女学生を演じた杉葉子に似ていて小柄で清楚な美人だつた。今もご健在であることは、うれしい限りである。クラス会が今まで開かれてきたのも、地元で健在なクラスメートが活躍して居るお蔭である。

田原町からぐるりと浅草寺境内をよぎつ

て、七十年前の戦後に通つた浅草小学校まで歩いてきたが、世話になつた学校が健在であり、大いに活躍していることを、この目で確かめることが出来て安堵したし、遠い昔のことと思い浮かべながら、郷愁に浸つていたのである。と云うのも、奇しくも前号で書き綴つた疎開先の芳野村小学校では、少年としてはまさに「螢雪の光」であり、貧乏ながら劇的な体験を積んで思い出に鮮烈に重くのしかかつてきているので、せめて当時の面影を現実に保存しておきたいと思っていた。しかし芳野村存立小学校は、廃校になり、その後はなくなつてしまつたとのことである。若い時には私財をなげうつてといふところまでにはいかないし、あの程度なら何とか後世に残していくれるという自信があるが、今となつては遅きに逸してしまつた。というのも、戦後の混乱期であり、物情騒然とした世のなかにあって、如何に少年時代を過ごしていった

かの記録は、沢山あつたに違いない。せめてそれらを辿るよすがとして、木造の平屋校舎や運動場、そして小さな図書室、二宮尊徳先生の立像など、貴重なものがあつたがゆえに、残しておくべきだつたと痛感している。当時の小学校の同窓会が毎年開かれてきていたが、数年前から隔年に開かれるようになつたが、今年も一月の十四日に水戸から数キロ離れた涸沼に一泊2日のクラス会、芳友会が開かれることになっている。年を経ても朋友の思いは同じで、ヘルマンヘッセの小説、郷愁ではないが、気持ちは純粹であり、幼いころの山川の澄み切つた景色は思い出に浮かんできて尽きないものがあろう。贅沢をいうわけではないが風貌は多少変わつても、心根は朴訥として馴染み安さはそのままである。親しさは以前に増して、ほがらかそのものである。ところで仕事の方のことは、花川戸にいる客人を訪ねて用をたし、浅草駅から地下鉄

に乗つてそのまま帰宅の途に就いたのである。

今日は豆まきである。しかし今晚九時半から仕事の打ち合わせが神谷町である故、豆まきは今日の朝、会社に出かける前に、家内と一緒に済ませてきた。一階、二階のすべての窓を開けては漏れなく豆を打ちまいて、悪を追い払つた。家だけでは満足せず、庭に出て東西南北、四方八方に向けて福豆をまいてやつた。「福は内、鬼は外」であるが、声は控えめにと思ったが、この際、今度は福豆であるから、元氣で大きな声で豆をまいてきた。小さい時の小学校の教科書に「豆まき」と題して、絵付きの短文が載つていてことを思い出した。豆をまいている子供兄弟が、しまいに「福はうち、福は外」と大きな声を張り上げて巻いている本である。私も最後の締めには、「福はうち、福は外、總べて福」と云つたのである。声を聴いて、豆まきは、古い人

はこうした慣習を知つてゐるから平氣かも
しれないが、新婚さんの家庭や子供たちは、
いつたい何事が始まつたのかと、訝ることも
あろう。

この朝、我が家では成田山新勝寺での高い
場所から豆をまく以上に、氣力充実して鬼ど
もを打ち払つたのである。福は内、鬼は外、
ついでにホーホケキヨだ、と云つて豆を投げ
たら家内が、ウグイスの声、とても綺麗だけ
れど、それは余計だわよと云つて大笑いした
のである。知らねえんだなあ、その声は「法
華經」と云つてゐるのだと、意味深にのたも
うた次第である。一昨年以来、変な奴らだと
思つていた人物らしき影が、またぞろ徘徊し
てゐたり、潜伏してゐたりしていはたまら
んから、時折そ奴らを思い出しながら、思い
切りよく豆を打ちつけてやつた。ざまあ見る、
といふわけである。撒いた豆を、二羽のヒヨ
ドリが夢中になつて啄んで食べてゐる。豆を

啄んだヒヨドリが、ウグイスに成り代わつて
上手に「法華經」と鳴くかもしれない。雀た
ちには炒り豆が大きすぎて戸惑つてゐる。大
声で「鬼は外」と、追撃の手を緩めずに、日
銀の黒田さんではないが、バズーカ砲を打ち
続けて、鬼どもを全部撃退した。黒田さんの
バズーカ砲が効き目があるかどうかは、まだ
わからない。それはそれとして、大事なこと
はそれからである。お祓いした後でもあるう
かと思うが、確信して、大隈重信侯の精神的
健康法の五箇条を思い起こして、無病息災、
商売繁盛、家内安全と欲張つて祈つた次第で
ある。やはり世間並みの平凡な願いごとにな
つてしまつたようであるが、大人の大隈侯は
それを許してくれるだろう。地に足を付けて、
無理なく踏ん張つて前に進んでいく気概こそ、
必要である。そうした気持ちが又、大隈
精神に通じて行くはずである。

明日は待ちに待つた立春である。

夕方には

なつても直ぐに暗くなつたりしないで、窓の外には何となく陽が残つてゐるような感じである。日が少しづつ長くなつていくのかな。春の季節がまじかになつてきた。

一月三日

年初来の株式急落・恐慌的な株式相場の状況 右往左往する投資家

年明け早々、世界経済を震撼させるような株式相場の動きである。投資家もさることながら、これが経済に及ぼす影響を考えると、町で買い物をする主婦たちにも少なからず不安心理を与えるかねない状況である。ましてや直接投資に係わらない企業経営者にとって、経済の先行きに不安を感じて経営戦略を考え直さないといけないと思う人も多いことであろう。政界を初め経済界も、この先アベノミクスが足元から崩れ落ちるのではないか、これで消費税を値上げするようだと景気回復どころか、成長戦略を目論むアベノミクスが足元から崩壊すると思うような昨今である。財政再建どころではなく、景気減速で企業業績が悪化し、再び税収不足を生んで、またぞろ過大な国債発行をせざるを得ないような逆行した結果になりはしないかと、

巷の観測は戦々恐々なものが窺えるのである。過去にその例を見なかつた急落場面に、巷の人々は唖然として立ちすくんでいる。

黒田総裁がサプライズと称してマイナス金利の導入を図つた。最初は何を意味しているのか分からぬほどに、聞きなれない言葉であつた。狙いは最近の円安、株高の傾向を示す市場に対し、それを阻止しようとして、狙い撃つたバズーカー砲であつたが、結果は全く逆の効果しかなかつた。思惑は目を覆うばかりの散々たる恐怖相場である。早晚、収束されると云いながら、かかる状況が現実に現れてきていると、黒田さんの打つたバズーカー砲はみじんもなく途中で粉碎されてしまつた感じである。打ち尽くして後の弾が無くなつてしまつたという時こそ、血を吐くような株式急落と、その波及効果の混乱を考えると、意固地になつて政策を行うことの危険さが出て来る。昔若い時に、私も株式相場

に手を出した一時期があつた。その時、日興証券の大手町支店があつた。五十年前のことだから既に時効であるが、一橋大学を出た優秀な営業マンがいた。若いのに父つちゃん刈の頭をしていて、男意氣を感じさせ、飾り気のない無骨な青年だつた。本名を忘れてしまつたが、ただ「がんちゃん」と云つて支店でも人気者で、そうした愛称で呼ばれていた事は覚えている。株式の実態の勉強をしたわけではないが、たまたま手を出したがゆえに、値動きの荒さとスリルに醍醐味を覚えいつの間にか馴染んでいったのである。

その時、猛烈な仕手戦に巻き込まれて寝汗が書くほどに寝られなかつたことを覚えているが、結果は、がんちゃんの指導宜しきを得て大儲けして矛を收めることができた。あの時有名な仕手戦を開いた株に、三光汽船があつた。たつた六五円ぐらいだった株価がある日突然動きだし、二六〇〇円まで暴騰す

る有様であつた。私はいたずらして少しだけ売つてみたが、途中で怖くなつて手放したことを覚えている。中曾根さんが首相の時代で、三光汽船の社長をしていたのが河本敏夫で、当時の自民党の副総理をしていたというのだから、今では考えられないことであつた。自社株を操つて政治資金を稼いで、自民党内で河本派を作るほどの威力を堂々と持つていたということであつて、未熟な政治の時代であつた。確かに三木首相も一時は頼り切つていた節もある。その三光汽船はのちに海運市況の低迷で破たんした。証券金融も投資信託を建てられる。組み入れた株が上がれば投資信託の基準価格が上がって、多額の分配金を出せて投資家の利益につながつていくという、良好な循環が、市場の上昇過程で行われていた。日本も戦後の復興を成し遂げて、高度経済に向けて邁進中であつた。証券会社としても比較大手の優良顧客に対しても政策的に進める商談であることに間違いない。大学を出た初任給が壹万円前後であつたことを思うと、まるで天下を取つたような錯覚にな

大証券の作る相場で自由自在で金が動いた。

銘柄を選別した推奨販売が活発な時代であつた。翌日の推奨販売に掛ける株式を前日の終値で大量に買い込み、翌日の買い気配が始まつた様子を見て売却するという大胆な手法であつた。例えば三十万株買つて置いて翌日決済して五円の利幅を探れば、証券会社に払う手数料を引き、取引税を払つても一二〇万の利益を確保することになる。投資信託が、或いは市場が買つてくれるので安心して玉を建てられる。組み入れた株が上がりれば投資信託の基準価格が上がつて、多額の分配金を出せて投資家の利益につながつていくとい

つてしまふことだつてあらう。厳しいお袋の言葉にあつて、いい塩梅な時に身を引いたがゆえに、乱脈な、大言壯語の世界から卒業することが出来、今では大いに勉強をした後をうかがつて回顧しているところである。ダブルの背広を着て、ドイツボックスを履き、悠然として店頭に現れる若き青年？　に憧れてくれる店の女性が沢山いたようと思う。大學を卒業したあくる年に父が他界し、遺産が少々転がり込んできたこともあつて、申し訳ないが颶爽とした時代であつた。ある知人に言わせると、未だその片鱗が残つているといふからうれしい限りであるが、それは金のことではなくて、意氣込みが失われずに入間的に磨きがかかるつて感じられるのである。またとない励ましの言葉としてありがたく受け止めている。持つべきは友である。期待にそぐわずに懸命に努力しなければならないと思うのである。金がなくとも金を持つ

ているような気持でいられるので、自分でも得をしていると思う。というのも小生にとつては実に過大な金を持つていかれてしまつたことがあつても、平然としているというのである。謂われてみればそうかもしれないが、あまり氣にも留めないで次に立派な仕事をして稼げばいいやと思つてゐるかもしだい。精神的ゆとりがあるというのも、考え方にはネガティブなところが比較的少ないでの、これを良しとしているのである。

そんな時は飲まず食わずで、アメリカ軍の艦砲射撃や空襲の中、煙火のなかを生死をかけて逃げ回つていた少年の時のことを考えば、どんなことだつて耐えて行ける自信がある。水戸の焼夷弾の夜間空襲では、危うく焼き殺されるところであった。あの時は、賢明な父の誘導で逃げ場所を見定め一家全滅を免れて、神の助けもあつて難を逃れてきたのである。逃げ込んだ水戸の千波湖近くにある

洞窟を知っている人が居て、六本木の全日空ホテルでその人と昼食中であつたが、意氣投合して思わず話し込んでしまつた。当時のそうしたことを思えばどんな暮らしだって人様に迷惑をかけない限り可能なことであることは確信している。家族を、とは云つても子供たちは今は皆独立しているから、小生の生活責任は女房と二人だけで、思えば贅沢さえしなければ天下泰平の人生観である。これからは今まで以上にいかに人のために働くしていくか、それが人生の正念場となるであろう。

最近のこと、私から金を奪つて行つた魔女がいた。平時の商業的事案についていちやもんを付けられて、私から見れば大変な月謝を払つたことになるが、これも若氣の至りだと思つて、気分的には未だ働いていけると確信を持つようしている。争い事が嫌いだから早く手を引いてけつちやくをつけた。しかし

目の前に現れた女に気が付くのが遅かつたが、隠れ蓑に隠れていて正体を掴みきれなかつた。その女は魔女そのものである。それと知つた時、もはや近寄りがたいし、恐怖感に脅かされてくる。命を縮める結果にもなる。人面獸心と云う物凄い言葉があるが、現実には、あまりお目にかかるものではない。しかし現実にそういうお化けが居ることをこの年になつて初めて知つた。その社会的地位を考えると、知り及べば、その獵奇的生活の一部を垣間見て、すべてがわかると云つた内容は凄まじいものである。人の恩義をあだで返し、努力、奉仕を無下に扱い、挙句に支払つた報酬を、脅しを以て奪い取ろうというもので、もはや商道徳も規範もあつたものではない。何期にもわたらる決算を通じてやろうとするのだから、たまつたものではない。経済行為を無視して略奪經濟の時代に逆戻りしたようなものである。

一昨年の春、一橋大学の山内学長の講演をしていただいたとき、中世の海賊船時代の略奪経済の話があつたが、まさにそれを髪髪させるようなことが、現代の経済社会に公然と起きているのである。摩訶不思議で、信じがたい光景と、その深層である。その主役を見ると普通の人、否、それ以上の人と見分けがつかないが、後ろを向いたとたん鬼の恐ろしき面相が想像される。海賊船時代の略奪経済なら、まともに見分けることが出来るが、知能犯と云うよりも、もともと詐欺師的な性格を多分に持つていて巧妙であった。

さて相場の激しさは、このところの急落は、目を覆うものがある。四年前のこと野党で質問に立った安倍が、その時の総理の野田と論争中に、国会を十一月四日に解散しますからと大見得を切つたはいいが見通しが甘かつた。言質を取られたときから株式は奔騰を開始して始まった。だらしない民主党政権に辟易していた国民は、安倍が率いる新保守政党の自民党に大きな期待を注いでいたのである。果けていた野田はそれに気づかなかつた。総選挙が行われて、民主党が惨敗し、自民党が圧勝を図り政権を奪還した。そこでも株価は奔騰し、やがて一万八〇〇〇円を付けたが、株式はそこですべてを織り込んでしまつた。優秀な指導者に代わると世の中がこうも変わるものかと思わしめるに十分である。その代り、あの時に政権が代わらなかつたら、今日日本はどうなつているかと思うと、背筋が寒くなつてくるのである。その後、安倍の懷刀、腰巾着の黒田が日銀総裁に就任して金融面で後押しする異次元政策をとつたが、株式市場としては何ら影響を及ぼすようなことはなかつた。アベノミクスの総仕上げと云うふれこみであつた。円安誘導と株高を目指んだが、さっぱりであつた。気の毒だが、株価的には黒田が出てきた時点では、日経平均は終

末を迎えたのである。いくら異次元とは云いながら、単なる日銀主導の金融政策だけでは限界があつた。財政のダイナミズムと、旧態然として幾多の規制改革が求められていた。

三年前のある日のこと、クラスメートが胃がんの手術で入院するが、株は売った方が良いだろうかと尋ねてきたので、思い切つて全部売つておいたほうがよいと云つた。3年前である。その後の絶余曲折はあつたが、株価はその時の高値を抜けていないし、昨今の株式の急落を見れば、売つておいて正解であった。そのクラスメートは健在だから手術は成功したのだろうが、株式を売つたかどうかは判らない。忙しいのでそんなことを聞いている暇もない。

株式が急変して大きく上下に揺れることは一年のうちで何回もある。株が上がるのは「思惑」で上がり、急激に株が下がるのは「狼狽」で下がる。これは私の持論であり、常道

だと思つてゐる。動きが激しいほど、その理屈が通じてくる。そもそも株式の株価はいろいろな見方があつて、はつきりした尺度のあるものではない。有象無象が株式市場に参加して売るか、買うかで勝負をしている。はつきりした二者択一の世界である。いわゆる相場師と称する人は、昔から売り方に回つて儲ける。高値で売つておいて、安くなつたところを買って、その差を利益とする人である。百日かけて上がつた相場は、崩れるとなると一日で帳消しになつてしまふ。空売りをかけた人は百日に辛抱が必要である。そうでない人は百日に辛抱が必要である。そうでないと一日の暴落の日にお目にかかるいいことになる。上げ相場の時にあえて売りあがつていく勇気と忍耐が必要である。例えば百日間、張つた相場の逆を行く状況に、忍の一字で耐えられるかだが、変な人でない限りそうした道を選ばないだろう。陰湿な人が多いという。それに対し、陽気な性格の人は相場の上昇に

陽気になつて買い載せて行く人が多いといふ。大方の人はそうした部類の人である。そうした世界でありながら、株で財産を築いたという話は聞いたことがない。株で蔵を建てた人はいないという。売り買いの常道、逆も又真なりということであろうあか。株で成功したといふ人は途中でやめて、もうけを他の資産に振り替えたりして蓄財に成功したひとであつて、よほどの勇気のいる話であり、ほんの僅かな一握りの人しかいない。株で勝負を張つている人は、最後までその世界に浸かり通しで、いつかは敗北していくのが常道である。人間の性とでもいおうか、それほど確率度、命中度の低い投資であり、成功度であり、世界である。たやすく金を手にしようとする甘い誘惑が、人に仕向けるようなものである。株の世界から足を洗うという言葉がある。伸るか反るかの大ばくち、と云うもいて男意氣のあるところを示したりするが、

所詮は計画性のない博打打ち、単に運を天に任せる成り行き任せ、野放図で、断末魔にも聞こえてくる。しかしながら景気、好景気、不景気、不況と云つた経済環境と現象は、マーケットに参加する不特定多数の人々によつて作られているからこそ、その先を読むことが難しいのである。忘れてはならないことは、マーケットは大衆資本主義の殿堂であるがゆえに、産業資本の調達を図る重要な機能を担つてゐるのである。我々はその崇高な理念を以て自覚しつつ、経済活動の一環として考えることが大切であることは言うまでもない。株式の仕手戦で打つた張つたの伸るか反るか、死ぬか生きるかの壮絶な戦いが過去にも何度かあつた。まるで鉄火場さながらの演出である。今は近代化されて、証券市場はそれなりに大衆資本主義の擁護の元、公明正大、透明性を以て運営されてきているが、昔は後進国さながらでやりたい放題であつた。

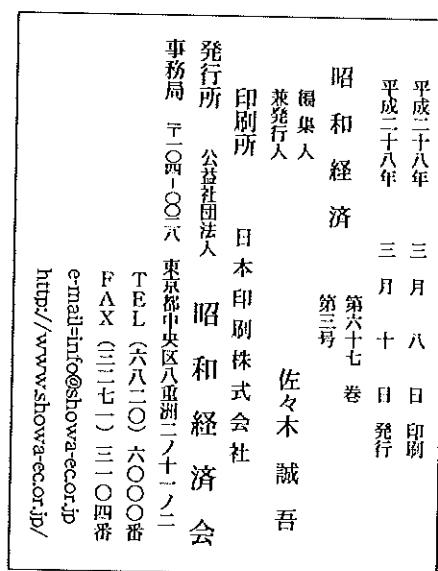
従つて決して品のいいものではなく、兜町にはやぐざまがいの、胡散臭い連中が跋扈していたようなものであつた。だから兜町で一つ当てたら、この町から足を洗つて出て行くことが男の希望であつたらしい。証券市場は幾多の試練を経て、戦後アメリカ式民主主義の下で次第に成長して行つて、証券行政もスマートになつて、今日までその育成の健全化を図つてきた。既に打つた張つたの博打相場のような場面は少なくなつてきた。証券業務に参入する企業は証券行政のスマートな指導もあつて、盛んになり、資本調達の責務を担う健全な形に改革改善されていった。大衆の直接投資もさることながら、その代りM&Aが盛んに行われるようになつた。株の買い占めと云うものから脱皮した、資本提携と買収である。国際的な規模で、大きな資本が動く世界と変容していくのである。産業資本主義が、金融資本主義の傘下に収まつたわけで

ある。その代わり産業人は産業人としての役割と、競争に打ち勝つための努力を払つて行かなければならぬ。そして金融資本と円滑に結びついて、自らの発展の道を突き進むわけである。昔は戦争で解決して略奪していくものが、平和的に取引して解決し、結果、世界市場の安定化に寄与していくことについたのである。経済のグローバル化の結果である。島国の日本である故、広い世界に雄飛していくにはどうすべきか知恵を絞る必要がある。司馬遼太郎ではないが、昨日のテレビ番組にあつたNHKスペシャル、司馬遼太郎の「この国のかたち」を見ながらしばらく考えをめぐらしながら、さてそんなに單純に割り切つて結論を出してもいいものかどうか思慮していたのである。

これから株式市場はますます多様化して、国際経済の激浪に晒されていくことであろう。何を基準にして株価を判断し、何を基

準にして投資を行つて行くか、自分で勉強して自分で判断して行くことが大切である。必ず身近なわかりやすい株式を選んでいくことであるが、商人、企業家は先ず自らの仕事、本業に徹して研究、勉学をし創意工夫を以て新しき進取の精神で競争に打ち勝ちながら、会社の成長を図り、従業員の生計と希望について重視し、前向きに進んでいくことが肝心である。そして今の制度では、創業者利得をたんまり手にして、後進の指導と還元に当することである。畏敬する井浦先生が常日頃申している通り、素朴な設問ながら所詮、この世で通じる金をあの世に持つていけるものではないし、やたらと残骸を残して後の親族間の奪い合いの醜態を見るようでは、あかんと云うわけである。其れよりも生きている時に、正しい金の使い方を優れた先人から学ぶべきだというのである。然り。

二月十五日



月刊誌掲載者・昭和経済 論文（敬称略）

昭和五十三年（平成二十八年三月）

原田正一	大正大学教授	當会顧問
豊田雅孝	第一勵業銀行産業調査部長	劇団手織座
安井謙	通産省産業政策局長	産業資産課長
山本幸助	通産省商政策局国際経済部長	当会顧問
山田勝久	通産省電子政策課長	衆議院議員
岡松壯三	村山祐太郎	大蔵大臣
鈴木金属工業㈱会長	堀江忠男	早稲田大学名誉教授
寺島祥五郎	田山晃	元読売新聞政治部次長
安井謙	元税務大学教官 税理士	衆議院議員
豊田雅孝	田山晃	元税務大学教官 税理士
安井謙	前参議院議長 自民党顧問	衆議院議員
大来佐武郎	対外経済関係 政府代表	衆議院議員
藤原弘達	政治評論家	衆議院議員
堺谷太一	作家	作家
加藤寛	慶應義塾大学教授	衆議院議員
豊原兼一	NHK解説委員	衆議院議員
斎藤栄三郎	参議院議員	衆議院議員
岡村和夫	NHK解説委員	衆議院議員
石井義昌	㈱桂川精螺製作所 社長	衆議院議員
糸川英夫	組織工学研究所所長	衆議院議員
宮本四郎	通産省産業政策局長	衆議院議員
豊田雅孝	（社）日本中小企業団体連盟	衆議院議員
安井謙	前参議院議長 自民党顧問	衆議院議員
大来佐武郎	対外経済関係 政府代表	衆議院議員
藤原弘達	政治評論家	衆議院議員
堺谷太一	作家	作家

齊藤榮三郎	商學博士 法學博士 文學博士	水谷研治	東海綜合研究所 理事長
河野洋平	參議院議員	バツラフ・ハベル	チエコ大統領
前川春雄	前 日本銀行總裁	平野憲一郎	日本經濟新聞 マニラ市局長
黒田眞	通商產業省 通商政策局長	吉田和男	京都大學教授
堀江忠男	大月短期大學學長	石川忠雄	慶應義塾大學名譽教授 學長
水谷研治	東海銀行常務取締役 調査部長	中曾根康弘	元 首相
鈴木俊一	東京都知事	中山素平	日本興業銀行 特別顧問
田村次朗	米國企業公共政策研究所 所長	北岡伸一	立教大學教授
自良浩一	東京國際大學教授	島田晴雄	慶應義塾大學教授
行天豊雄	東京銀行會長	吉田和男	京都大學教授
吉川洋	東京大學教授	塩野谷祐一	一橋大學名譽教授
竹中平蔵	慶應義塾大學教授	宮沢喜一	元首相
加藤寛	慶應義塾大學教授	山田伸二	NHK解說委員
原田和明	三和綜合研究所 理事長	石井明	東京大學教授
鴨武彥	東京國際大學教授	加藤寛	千葉商科大學長
大山昊人	東京大學教授	伊藤裕章	政府稅制調查會會長
	元 N H K 解說委員	小宮隆太郎	朝日新聞ワシントン特派員
企業コンサルタント	青山學院大學教授	井浦康之	井浦康之

島田晴雄	慶應義塾大学教授	ランコ・岩本	ランコ・インター・ナショナル代表
樋口廣太郎	アサヒビール会長	ジェームス・D・ウォルフエルソン	世界銀行総裁
奥野正寛	東京大学教授	山口光恒	慶應義塾大学教授
橋本大二郎	高知県知事	岡崎久彦	元駐米公使
福川伸次	電通総研研究所所長	ポール・サミュエルソン	经济学家
鈴村興太郎	一橋大学経済研究所教授	大野健一	政策研究大学院大学教授
月尾嘉男	一橋大学教授	佐々木和男	サウディ石油化学㈱社長
北岡伸一	立命館大学教授	ドナルド・ラムズフェルド	米国防長官
石原慎太郎	京都大学教授	イアン・ジョンソン	世界銀行副総裁
東京都知事	慶應義塾大学院教授	竹森俊平	慶應義塾大学教授
	吉田和男	山本清治	経済評論家
	榎佳之	朱建榮	東洋大学
	東京大学 医科学研究所	アレクサンドル・パノフ	駐日ロシア大使
	高橋伸彰	林光夫	ナシヨナル日系博物館ヘリテージセンター 理事(前理事長) 日系ブリース基金理事
	立命館大学教授	ハワード・H・ベーカー	駐日米大使
	東京大学教授	山本清治	経済評論家

スティーブン・ゴマソール 駐日英國大使	佐藤隆三 ニューヨーク大学名誉教授
山口義二 立教大学経済学部教授	東京大学客員教授
公文俊平 多摩大学情報社会学研究所所長	曾根泰教
伊藤元重 東京大学教授	慶應義塾大学教授
アルビン&ハイディ・トフラー	早稲田大学教授
中曾根康弘 元首相	若田部昌澄
ハワード・H・ベーカー 前駐日米大使	山内昌之
竹森俊平 慶應義塾大学教授	大西隆
岡部直明 日本経済新聞論説主幹	浜田純一
加藤寛 千葉商科大学学長	中西寛
山口光恒 帝京大学教授	高木新二郎
斎藤惇 産業再生機構前社長	前産業再生機構委員長
渡辺智之 一橋大学教授	諸富徹
土屋堅二 お茶の水女子大学教授(哲学)	入江昭
山崎正和 中央教育審議会会長	ハーバード大学名誉教授
福江等 前ナザレン神学大学学長	林良造
井深記念塾ユーライ	クリスティーナ・アメージャン
大田弘子 経済財政担当相	一橋大学教授
今井賢一 東京大学教授	伊藤元重
名譽シニアフェロー	スタンフォード大学

吉川弘之	東京大学 元学長	深尾京司	一橋大学教授
池尾和人	慶應義塾大学教授	山本 熱	慶應義塾大学准教授
細田衛士	慶應義塾大学教授	小黒一正	一橋大学准教授
林 良嗣	名古屋大学教授	吉川弘之	東京大学 元学長
土居丈朗	慶應義塾大学教授	大村敬一	早稲田大学教授
脇坂 明	学習院大学教授	庄司克宏	慶應義塾大学教授
関 满博	一橋大学教授	ジム・フレアティ	カナダ財務相
古谷 浩一	朝日新聞記者	伊藤元重	東京大学教授
御厨 貴	東京大学教授	清家 篤	日本私立大学連盟会長
田中明彦	東京大学教授	藤原帰一	慶應義塾長
西垣 通	東京大学大学院情報学環教授	緒方貞子	国際協力機構（JICA）理事長
山内昌之	東京大学教授	田中素香	中央大学教授
高安秀樹	明治大学客員教授	申 珙秀	駐日韓国大使
浜田宏一	エール大学教授	加藤弘之	神戸大学教授
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	新宅純二郎	東京大学准教授
植田和弘	京都大学教授	岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト
松本 紘	京都大学総長	若宮啓文	朝日新聞主筆
大西 隆	東京大学教授	中沢克二	日本経済新聞社 中国総局長
山中季広	朝日新聞ニューヨーク支局長		

猪木武徳	青山学院大学 特任教授	有田 哲文	朝日新聞編集委員
長山浩章	京都大学教授	柴田 直治	朝日新聞国際報道部
石川城太	一橋大学教授	竹森 俊平	慶應大学教授
鹿野嘉昭	同志社大学教授	磯田 道史	静岡文化芸術大学准教授
岡部直明	日本経済新聞客員コラムニスト	橘川 武郎	一橋大学教授
篠崎彰彦	九州大学教授	伊藤 元重	東京大学教授
翟林瑜	大阪市立大学教授	山内 昌之	明治大学特任教授
横山 彰	中央大学教授	白石 隆	政策研究大学院学長
小林慶一郎	一橋大学教授	土屋 英夫	日本経済新聞本社コラムニスト
原 真人	朝日新聞編集委員	戸田 悅造	懸賞論文 優秀賞
若宮啓文	朝日新聞本社主筆	青山 肇二	早稲田大学教授
小林慶一郎	一橋大学教授	瀬口 清之	清之キヤノングローバル戦略研究所研究主幹
須藤 繁	帝京平成大学教授	今井 賢一	スタンフォード大学名誉シニアファオロー
翁 邦雄	京都大学教授	田中 伸男	日本エネルギー経済研究所特別顧問
下斗米伸夫	法政大学教授	宮本 雄二	宮本アジア研究所代表、外務省顧問
吉川 洋	東京大学教授	菅原 宅	東京大学先端科学技術研センター准教授
渡辺 博史	国際協力銀行副総裁・元財務官	白石 隆	政策研究大学院学長
澤田 康幸	東京大学教授	野中 郁次郎	一橋大学名誉教授
北岡 伸一	国際大学学長	矢作 弘	龍谷大学教授

有吉 章	一橋大学教授	
御厨 貴	東京大学先端技術研究センター教授	
伊藤 邦雄	一橋大学教授	
大村 敬一	早稲田大学教授	
御厨 山内 昌之	放送大学教授	
山内 北岡 伸一	明治大学特任教授	東京大学准教授
北岡 葛西 敬之	国際大学学長	東京大学准教授
葛西 岡崎 哲二	JR 東海名譽会長	日本経済新聞社編集委員
岡崎 昌之	東京大学大学院経済学研究科教授	日本経済新聞社編集委員
池上 彰	明治大学特任教授	朝日新聞アメリカ総局長
山崎 伸一	中央大学大学院経済学研究科教授	青山学院大学教授
山崎 橋本 朗	東京工業大学	日本経済新聞社編集委員
橋本 和仁	東京大学教授	日本経済新聞社編集委員
石川 健治	東京大学教授	日本経済新聞社編集委員
松永 戸堂 康之	大阪市立大学准教授	日本経済新聞社記者
戸堂 三田 誠広	早稲田大学教授	NHK解説委員
三田 実 哲也	武藏野大学文学部部長	京都大学教授
実 貴	日本経済新聞社論説委員長	一橋大学教授
御厨 御厨	日本経済新聞社論説委員長	スタッフオード大学客員教授
山内 北岡 元重	昌之	東京大学名誉教授
北岡 川島 西條 郁夫	伸一	国際大学学長
川島 伊藤 順一	真重	東京大学准教授
伊藤 滝 岩井 浩二	英資	日本経済新聞社編集委員
滝 山脇 中鉢 良治	眞一	日本経済新聞社編集委員
山脇 北坂 真一	西條 順一	日本経済新聞社編集委員
北坂 野村 浩二	英資	日本経済新聞社編集委員
野村 吉川 岩井 淳哉	眞一	日本経済新聞社編集委員
吉川 遠田 晋次	西條 順一	日本経済新聞社編集委員
遠田 葛西 敬之	英資	日本経済新聞社編集委員
葛西 加藤 青延	眞一	日本経済新聞社編集委員
加藤 植田 和弘	西條 順一	日本経済新聞社編集委員
植田 森口 千晶	英資	日本経済新聞社編集委員
森口 千晶	眞一	日本経済新聞社編集委員
千晶 スタッフオード大学客員教授	英資	日本経済新聞社編集委員

福元

竜哉

読売新聞社記者

吉川

洋

東京大学教授

敬一

早稲田大学教授

大村

清

慶應義塾大学義塾長

大橋

弘

東京大学教授

中川

淳司

東京大学教授

石川

城太

慶應義塾大学教授

櫻川

昌哉

慶應義塾大学教授

竹中

平藏

慶應義塾大学総合政策学部教授

水野

裕司

日本経済新聞社論説副委員長

川口

健史

日本経済新聞

神里

達博

千葉大学教授

御厨

貴一郎

東京大学教授

大泉

啓一郎

東京大学教授

日本総合研究所 調査部 上席主任研究員

滝 順一

日本経済新聞社

川口 健史

日本経済新聞社

藤原弘達

政治評論家

山本幸助

通産省産業政策局長

岡松壮三郎

通産省生活産業局長

山田勝之

通産省国際政治部長

当会・講演会 講師（敬称略）

昭和五十三年～平成二十七年十二月

堺屋太一 作家

栗栖弘臣 統合幕僚長

加藤寛 慶應義塾大学教授

糸川広洋 組織工学研究所 所長

大来佐武郎 対外経済担当大臣

斎藤栄三郎 科学技術省長官

柿沢弘治

衆議院議員

浜田幸一

評論家

木元教子

評論家

岡松壮三郎

通産省電子政策課長

稻川泰弘

通産産業省政策局

商務サービス産業室長

鈴木幸夫	テレビ東京解説委員長	梅沢節男	国税庁長官
山室英男	NHK解説委員長	田川誠一	進歩党代表
佐野忠克	通産省宇宙産業室長	森直	衆議院議員
河野洋平	衆議院議員	藤井康男	東京大学総長
寺島祥五郎	当会理事	水城武彦	龍角散社長
長富祐一郎	大蔵省官房審議官	大山昊人	NHK解説委員
中沢忠義	中小企業庁長官	斎藤栄三郎	国務大臣 科学技術庁長官
吉國隆	農林水産省大臣官房企画室長	内田 满	早稲田大学教授
天谷直弘	(財)産業研究所顧問	岡松壯三郎	通商産業省生活産業局長
鈴木俊一	元 通産省審議官	水谷研治	東海銀行常務取締役調査部長
黒田眞	東京都知事	有馬朗人	東京大学総長
上野明	通商産業省 通商政策局長	松本和男	経済評論家
前川春雄	野村総合研究所 主任研究員	大山昊人	NHK解説委員
大山昊人	NHK解説委員	鈴木淑夫	元 日本銀行理事
野坂昭如	作家	松永信雄	外務省顧問 前駐米大使
水野哲	通産省産業政策局	畠見芳浩	ニユーヨーク市立大学大学院教
産業政策局総務課長	産業政策局総務課長	村松咲	慶應義塾大学名誉教授
早稲田大学名誉教授	堀江忠男	杏林大学教授	

飯田健一	NHK解説委員	齊藤精一郎	立教大学教授
L・A・チジョーフ	駐日ロシア連邦大使	岩國哲人	前 出雲市長
大山晃人	元NHK解説委員	浅井隆	経済ジャーナリスト
	東京国際大学教授	岩田規久男	上智大学教授
小浜維人	NHK解説委員長	久保亘	前 大蔵大臣
青木匡光	メディエーター（人間接着業）	大山晃人	東京国際大学教授
紺谷典子	(財)日本証券経済研究所	山田伸二	NHK解説委員
原田和明	主任研究員	吉田春樹	和光経済研究所理事長
和田俊	朝日新聞編集委員	副島隆彦	経済評論家
大山晃人	テレビ朝日ニュース・ステーション	早坂茂三	ボールシェアード ベアリング投信投資顧問
木村時夫	元 NHK解説委員	田中角栄	(株)日本株運用ヘッジ兼ストラジスト
井浦康之	早稲田大学名誉教授	元 秘書	
	井浦コミュニケーションセンター	山田伸二	NHK解説委員
	当会理事	中村敦夫	参議院議員
水谷研治	東海総合研究所 理事長	原田和明	三和総合研究所特別顧問
日良浩一	東京国際大学教授	西澤宏繁	東京都民銀行頭取
山下龜次郎	筑波大学臨床医学系内科教授	亀井静香	衆議院議員
	筑波大学付属病院副院長	山田伸二	NHK解説委員
		武者陵司	ドイチエ証券チーフストラジト

川崎真一郎	第一生命経済研究所 主任研究員	元経済産業省 経済産業政策局長
金子一義	国務大臣	渡辺 喜美 みんなの党代表 衆議院議員
山口義行	立教大学教授	山崎 淑行 N H K 科学文化部 記者
山田伸二	N H K 解説主幹	中谷 巍 一橋大学教授
斎藤精一郎	千葉商科大学教授	
伊藤 達也	元 金融担当大臣	
高木新二郎	懶産業再生機構 産業再生委員長	
斎藤精一郎	千葉商科大学 大学院教授	
佐々木和男	懶NTTデータ経営研究所所長 社会経済学者 エコノミスト	
学校法人静岡理工科大学 理事長	月尾 嘉男 東京大学名誉教授	
元 三菱商事懶本部長	山田 伸二 N H K 解説主幹	
サウディ石油化学懶 前 社長	山内 進 一橋大学学長	
三原 淳 経済評論家 株式評論家	板垣 信幸 N H K 解説主幹	
石川 一洋 N H K 解説委員	熊野 英生 第一生命経済研究所首席エコノミスト	
元 モスクワ支局長	五十嵐 敬喜 三菱U F Jリサーチ	
山田 伸一 N H K 解説主幹	&コンサルティング 執行役員	
中谷 元 元防衛厅長官 衆議院議員	加藤 青延 N H K 解説委員	
林良 造 東京大学教授	井浦 康之 (株)井浦コミュニケーションセンター	
	竹内 明日香 (株)アルバ・パートナーズ	
	五十嵐 敬喜 三菱U F Jリサーチ	
	&コンサルティング 執行役員	

かほとけはすがしく

ああらむこの寺の

あしたうそよぐ

松風

の丘

竹木



講演会の主な講師（講演時役職）（敬称略）

山黒岡山山長梅鈴前牛野中岡加堺天河高糸小藤大安斎土本稻吉井岩福
 室田松本田富沢木川場坂沢村藤屋谷野木川汀原平井藤屋田葉野深佐田
 荘祐新栄宗英三幸勝一節俊春信昭忠和太直洋二英利弘正三一秀俊凱赳
 男眞郎助久郎男一雄彦如義夫寛一弘平郎夫得達芳謙郎清郎三彦大実夫
 N通通通通大国東日外作中N慶作通科弁組日政大參科經本經日ソ富大
 H産產產產藏本H應學織本學田本士大藏
 K省省省省稅京務企K義技工經治議濟濟二大臣
 生產國官銀塾學濟藏技銀銀（内閣總理大臣）
 解產活業際府都省業解省術護研新評院術評評
 説業房行大廳說大廳究聞大廳研行行
 產政政委審業策治審長知顧所社論議論論社頭大臣
 員議局局部議長委教長長所顧
 長官長長官官事裁問家官員授家問官士長問家臣長官家長家事長取

伊金山龜西早島副山久岩斎目原和小山霍松鈴有大水森堀水藤井大
 通財藤子口井澤坂田島田保国藤良田田浜全見永木馬来谷江城井浦山
 貿易省精ジ佐
 指當達一義静宏茂晴隆仲哲一浩和維ヨ芳信淑朗武研忠武康康農
 宣宣也義二香繁三雄彦二亘人郎一明俊人浩雄夫人郎治亘男彦雄之人

通大内国立衆東政慶政N前出立東三テN駐ニ前野東對東東早N龍井N
 商藏閣務教京應H和レユ駐村外海稻浦
 産省大議都治義K教綜合Hヨ米總京總田角
 業政總臣大議都治義K雲國合ニロク大合經合
 省策理・學政策理產經民塾大際研ニ解市使研
 研究再濟銀大院評評解藏シ立・大外相究學名
 研究会臣生學行學論大學大究・說大外相究學名
 会メ補機部議行學論大學所スア學所當所
 ン構教頭教委教理一大學省理總譽社
 ババ佐担教頭教委教事シ員大院顧事
 ！官當授員取家授家員臣長授授長ン長使授問長長臣長長授員長！員

Showa Economic Study Association
企業家・経営者団体

公益社団法人 **昭和経済会**

事務局 〒104-0028 東京都中央区八重洲2-11-2

TEL 6820-6000・3271-8846 FAX 3271-3104

URL <http://www.showa-ec.or.jp/>

e-mail info@showa-ec.or.jp